

モロッコ王国
零細漁業改良普及システム整備計画
運営指導（中間評価）調査団報告書

平成16年4月
(2004年)

独立行政法人 国際協力機構

農村開発部

農村

JR

04-50

モロッコ王国
零細漁業改良普及システム整備計画
運営指導（中間評価）調査団報告書

平成16年4月
(2004年)

独立行政法人 国際協力機構

農村開発部

序 文

国際協力機構はモロッコ政府の要請を受けて、2001年5月からプロジェクト方式技術協力「モロッコ零細漁業改良普及システム整備計画」を実施してまいりました。

当機構は、本計画の協力実績を把握し協力効果の評価を行うとともに、今後、日本及びモロッコ両国が取るべき措置を両政府に提言することを目的として、平成15年7月13日から同年7月26日にかけて、当事業団 森林・自然環境協力部 水産環境協力課長 勝山 潔志を団長とする運営指導調査団を派遣いたしました（組織改変に伴い、平成16年4月1日以降は農村開発部水産開発チームが所管）。

調査団は、モロッコ政府関係者と共同で本計画の中間評価を行うとともに、プロジェクト・サイトでの現地調査を実施し、プロジェクトの運営や事業内容等を検証するとともに、成果の確認を行いました。そして、帰国後の国内作業を経て調査結果を本報告書にまとめました。

この報告が今後の協力にさらなる発展のための指針になるとともに、本計画によって達成された成果が、同国の発展に貢献することを期待しております。

終わりに本調査にご協力とご支援を頂いた関係者の皆様に対し、心より感謝の意を表します。

平成16年4月

国際協力機構農村開発部
部長 古賀 重成

目 次

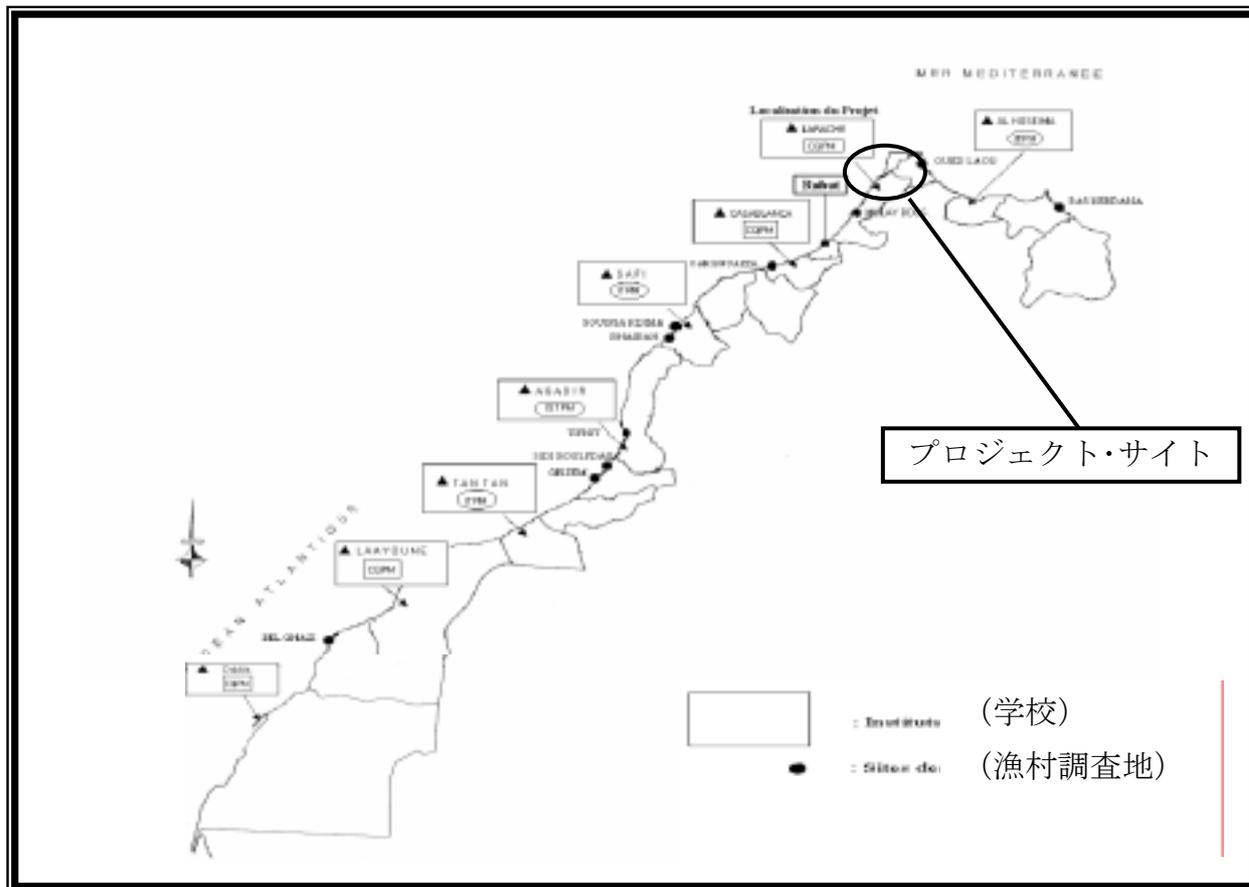
序文	
プロジェクト・サイト位置図・周辺図	
写真	
中間評価調査要約表	
略語表	
目次	
第1章 中間評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	3
1-5 評価項目・評価方法	3
第2章 プロジェクトの実績と現状	4
2-1 投入実績	4
2-1-1 日本側の投入	4
2-1-2 「モ」国側の投入	5
2-2 活動実績	6
2-2-1 プロジェクトの活動計画	6
2-2-2 活動の実績	7
2-3 成果達成状況	12
2-3-1 成果1の達成状況	12
2-3-2 成果2の達成状況	12
2-3-3 成果3の達成状況	12
2-3-4 成果4の達成状況	13
2-3-5 成果5の達成状況	14
2-3-6 成果の達成度総括	14
第3章 プロジェクト効果の調査（水産普及分野）	15
3-1 視察先の状況	15
3-2 C/Pからの意見（聞き取り）	19
3-3 活動の進捗状況	20
3-4 今後の活動における課題	21
3-5 所感（その他）	21
第4章 評価結果	25
4-1 評価5項目による分析	25
4-1-1 妥当性	25
4-1-2 有効性	26
4-1-3 効率性	26
4-1-4 インパクト	26
4-1-5 自立発展性の見込み	27
4-2 結論	27
第5章 今後の計画	29

5-1 今後の活動における方向性	29
5-2 要検討事項	29

別添資料

- 1 プロジェクト PDM (和文)
- 2 評価グリッド (和文)
- 3 プロジェクトに対するアンケート結果
- 4 ミニッツ (英文・仏文)

プロジェクト・サイト位置図・周辺図



写真



左：漁業省海洋教育社会職業推進局との協議
右：地中海沿岸の零細漁村（船着場）



左：大西洋沿岸での調査風景（中心が漁民リーダー、背景が漁村）
右：地中海沿岸での調査風景（零細漁民との対話）



左：普及用車両を用いての普及活動（集まっているのは零細漁民）
右：漁獲されている魚

中間評価調査要約表

I. 案件の概要	
国名：モロッコ王国	案件名：零細漁業改良普及システム整備計画
分野：水産	援助形態：技術協力プロジェクト
所管部署： 森林・自然環境協力部水産環境協力課 (2004年4月以降は、農村開発部水産開発チームが所掌)	先方関係機関： 農業農村開発漁業省 海洋教育社会職業推進局
協力期間：2001年6月1日～2006年5月31日	日本側協力機関：農林水産省（水産庁）
<p>1. 協力の背景と概要</p> <p>モロッコ王国（以下、「モ」国）政府は地域間の所得格差の是正及び漁業資源の保全を重要政策課題としており、その中で、水産セクター（担当官庁、漁業省）では零細漁民（約48,000人）の人材育成の施策が取られている。しかし、「モ」国に水産分野の普及員制度がないことから、これまで零細漁民への普及事業は行われてこなかった。そこで「モ」国に適した新たな普及システムを開発し、普及員が効率的に普及活動を行うための普及プログラムの開発に係るプロジェクト方式技術協力を我が国に対し要請してきた。</p> <p>JICAは2001年6月から5年間の予定で、「漁村において効率的な普及活動が行われ、確立された普及システムが、国家プロジェクトとして策定されること」を目的としてプロジェクトを実施している。現在は長期専門家4名（チーフ・アドバイザー、業務調整、水産普及、漁民教育）がプロジェクト・サイトである Larache を本拠地として、活動している。</p> <p>2. 協力内容</p> <p>(1) 上位目標： 零細漁民（男女）の社会・経済状況の向上及び沿岸漁業資源を保全する。</p> <p>(2) プロジェクト目標： 漁村において効率的な普及システムが構築され、普及活動が行われる。</p> <p>(3) 成果： 1) 零細漁民（男女）の漁家状況（漁業形態、資源、生活状況等）が明らかになる。 2) 零細漁民（男女）へ普及するテーマごとの普及プログラムが作成される。 3) V/C（普及員コーディネーター）を養成するカリキュラム・教材が作成され、V/Cの技術能力が向上する。 4) サイトにおいて普及活動が展開される。 5) 普及活動のモニタリング・評価、フィードバックメカニズムが構築される。</p> <p>(4) 中間評価時点での投入</p> <p>1) 日本側： <ul style="list-style-type: none"> ・長期専門家派遣 5名 ・短期専門家派遣 9名 ・研修員受入れ 11名 ・機材供与 35百万円 ・ローカルコスト負担 46百万円 </p> <p>2) 相手国側： <ul style="list-style-type: none"> ・C/P 配置 漁業省海洋教育社会職業推進局 4名（長期） CQPM Larache 4名（長期） 普及員コーディネーター（V/C）23名（長期） 短期C/P 年間3名～8名 ・土地・施設提供 ・ローカルコスト負担 </p>	

II. 中間評価調査団の概要		
調査者	(担当分野 氏名 職位)	
	(1) 総括 勝山 潔志	国際協力事業団 森林・自然環境協力部 水産環境協力課 課長
	(2) 水産普及 田村 直司	農林水産省 水産庁 海外漁業協力室 係長
	(3) 評価分析 堅物 順之	中央開発株式会社 海外事業部 事業部長
	(4) 計画評価 小林 龍太郎	国際協力事業団 森林・自然環境協力部 水産環境協力課 職員
	(5) 通訳 芝原 理之	
調査期間	2004年1月5日～2004年1月18日	調査種類：中間評価
III. 中間評価結果の概要		
1. 評価結果の要約		
(1) 5項目評価による結果		
1) 妥当性		
<p>プロジェクトの上位目標はモロッコ（以下、「モ」国）における開発政策に合致しており、本プロジェクトは2003年10月16日にハッサン二世賞及びFAOから優良案件奨励賞を受賞している。また、ベースライン調査の結果を基に活動を進めていることから、受益者である零細漁民のニーズとも整合性がある。さらに、「貧困削減」を念頭においた協力である。「モ」国協力の重点分野として確認された6分野のなかで「農業及び水産業の開発・振興」、「地方開発による地域格差是正」に該当する。これらのことから、本プロジェクトは我が国のODA基本方針及び対「モ」国協力の重点分野と整合性がある。</p> <p>プロジェクト計画の妥当性に関しては、PDM細部の理解に多少の問題はあるが、これらはプロジェクトを進める過程で解決できる問題であり、「モ」国側、日本側とも現時点でPDMの改訂の必要は感じていない。しかし理解の相違が表面化した点に関しては関係者間で協議の上共通理解を確立し明文化しておくことが望ましい。</p> <p>C/P機関の選定に関しては、CQPM Laracheが零細漁民、沿岸漁民に対する普及活動の全国センターに位置づけられていることから妥当な選択である。</p> <p>我が国は「モ」国へ多くの水産分野の協力を実施してきたが、本プロジェクトは既に先行している他案件の協力の成果を活かすとともに、それらの先行案件の効果をより強固にするよう計画されており、妥当性は高い。</p> <p>以上のとおり、本プロジェクトの妥当性は高い。</p>		
2) 有効性		
<p>これまでの活動はプロジェクトの基盤整備に重点がおかれ、プロジェクト目標に直結する活動（普及活動の実践を通じてC/Pの能力を強化する活動）の多くは後半に予定されていることから、これらの成果の発現は後半に集中して現れてくる予定である。プロジェクト目標の達成度及び有効性の結論は、今後の努力と効率的活動によるところが大であり、現時点で結論を出すのは時期尚早である。</p>		
3) 効率性		
<p>現在までのところ、投入は概ね計画通り実施されており、PDMにおける「成果」の1～3に関しては、投入量に見合った成果が発現している。したがって、プロジェクトの効率性は確保されているといえるが、総合的な判断はプロジェクト後半の活動にかかっている。</p>		
4) インパクトの見込み		
<p>実施機関は普及に関する各種手法を熱心に受け止めており、本プロジェクトは、2003年10月中旬ハッサン二世賞、FAOの優良案件奨励賞を受賞した。このことから、漁業省</p>		

内での関心も高まっているが、具体的な活動に、結びつくまでは至っていない。プロジェクトの前半は、ベースライン調査やそれに基づく普及テーマの選定、テーマごとの普及プログラムの策定等普及の土台作りに費やされた。実際の漁村での普及活動は始まったばかりであるため、目に見える形でのインパクトが出てくるのは今後であり、現時点で評価するのは時期尚早である。

5) 自立発展性の見込み

本プロジェクト終了後に、水産技術の普及事業がどのような枠組みでなされるのか明確でないため、自立発展性に多少の不安がある。「モ」国側が枠組み（普及員制度の確立等）に着手するためには、本プロジェクトの効果がある程度発現し、効果が理解される必要がある。

技術面においても、C/P が技術を理解するのみならず、真なる技術の習得に至るには、フィールドにおける実践を通じて知識・技能を向上させる必要がある。

「モ」国漁業省の普及関連予算も増加しつつあり、自立発展の可能性は高くなっていくと予測されるが、その可能性をより強固にするためにもプロジェクト後半に予定されている地域密着型、デマンド・オリエンテッド型の普及活動が効果的であることを証明することが重要である。

(2) 結論

プロジェクトは、概ね PDM、PO に記載された計画通り順調な進捗を見せている。2001年には零細漁民の実態調査が実施され、零細漁民のニーズ・関心が明らかにされた。この結果に基づき、本プロジェクトで取り上げる普及テーマ 6 項目（①漁民組織化促進、②船外機保守、③安全航海、④衛生・品質管理、⑤漁業技術及び⑥水産資源の保全）が選定され、2002、2003、2004 各年度において、2 テーマずつ普及プログラムを開発することとしている。調査時点までに、既に 4 テーマの普及プログラムが開発されている。普及対象である零細漁民は、非識字率が極めて高く、また、方言性の強いアラビア語やベルベル語しか理解しない漁民も多い。これを考慮し、フランス語や標準アラビア語の教材に加え、視聴覚教材も適宜作成したことは、時間・経費を要したものの効果が期待できる。調査団派遣時までに、実際の普及活動に当たる普及員コーディネーター（以下、「V/C」）は、8 校で各 3 名（男性 2 名、女性 1 名、ただし Dakhla 校は男性のみ 2 名）、合計 23 名配置された。V/C に対する基礎研修、テーマ研修及び V/C と C/P の話し合いの場には、必ず日本人専門家も参加することとし、実施回数も多い。また、供与機材を利用して移動教室の運営も開始され、これらの活動を通じて C/P や V/C の能力は着実に強化されつつある。現時点でのプロジェクトの進捗度は概ね計画通り順調であり、プロジェクト終了時まで所期の目的が達成される可能性は高い。ただし、前半の活動は主にプロジェクトの基盤造りに重点がおかれ、プロジェクト目標に直結する重要な活動の多くは後半に予定されているため、多くの成果は後半に発現されるものと期待される。

上述したとおり、本プロジェクトでは 6 項目の普及テーマが選定され、既に 4 テーマのプログラムは着手されているが、この 6 テーマ以外にも重要なテーマがあることが感じられる。新テーマの開発にあたっては、C/P は零細漁民との接触・対話をより一層多くし、零細漁民のニーズを的確にくみ上げる能力を身につけることが望まれる。

2 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

- ・ ベースライン調査などによる零細漁民のニーズ抽出
- ・ 「モ」国漁業省の零細漁民への支援方針とプロジェクト計画の整合性

(2) 実施プロセスに関すること

- ・ 普及活動への視聴覚教材等の活用
- ・ ハッサン二世賞、FAO の優良案件奨励賞の受賞による関係者の意識向上

3 課題

- ・ プロジェクト終了後も、「モ」国が主体となって活動が継続できるような制度を整備する（特に担当者の不足を解消させる）。
- ・ C/P及びV/Cに出来るだけ現場経験を積ませ、漁民とのコミュニケーション能力、普及計画の策定能力等を向上させる。

4 提言

(1) プロジェクトが策定した普及テーマについて

- ・ これまでに実施されてきた4テーマ（上記「(2) 結論」に書かれている①～④）について、活動内容をレビューし、内容を改善させることが望ましい。
- ・ 残った2テーマの実施について、「水産資源の保全」の実施にあたっては、保全活動が漁民の生計を圧迫しないよう留意する必要がある。また、「漁業技術」に関しては、地域の特性を考慮することが望まれる。

(2) 地域別普及活動の活性化

- ・ 普及活動にかかわる専任のC/P及びV/Cの増員が求められる。また、「モ」国政府により建設予定の揚浜施設（66箇所）と連携して普及員を配置すると効果的であると考えられ、増員にあたって揚浜施設の数も考慮する。
- ・ 現在までに2台の普及用車両が配備されているが、普及活動を促進させる有効なツールである。2004年度に2台、2005年度に更に2台、計6台を供与する予定であるが、迅速な購入、配備が望まれる。
- ・ 漁村における女性活動に関しては、社会的・地域的な違いを考慮し、地域慣習に沿った普及活動が望まれる。

(3) プロジェクトによる実際の普及活動

- ・ 今後実施する予定の普及活動の一つとして、ミニ・プロジェクトが計画されている。このミニ・プロジェクトは、普及員が中心となって漁民の直面する問題と解決策を調査・分析し、問題解決のための小規模プロジェクトとして実施される予定である。実施にあたっては、プロジェクト本体が企画の妥当性や有効性を審査し、有効であると認める企画だけがミニ・プロジェクトとして実施されるため、普及員の問題把握能力と普及プログラム作成能力の向上につながると考えられる。この活動は、プロジェクト目標達成のために非常に有効な手段と考えられ、成果が期待される。

(4) モ国側自助努力の可能性

- ・ 現在、「モ」国側は管理経費の多くを負担しているが、出張経費等の運営経費は日本側が多くを負担している。普及活動の自立発展性のためには、今後の「モ」国側負担率の増加が望まれる（出張経費のモ国負担率は2003年度25%、2004年度は50%の予定）。

(5) 地域別普及活動実施のためのベースライン調査のフォローアップ

- ・ 今後、地域別の普及活動を活性化させるためには、過去に行ったベースライン調査のデータを基に再調査を行い、漁村における潜在的ニーズを分析する必要がある。

略語表

略語	正式名称	和名
CNV	Le Centre de National Vulgarisation	全国普及センター
C/P	Counterpart	カウンターパート
CQPM	Le Centre de Qualification Professionnelle Maritimes	漁業技術教育訓練センター
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations	国連食糧農業機関
FRP	Fiber Reinforced Plastic	強化繊維プラスチック
INRH	L'Institut National de Recherche Halieutique	漁業調査研究センター
ITPM	L'Institut de Technologie des Pêches Maritimes	漁業技術学院
ISTPM	L'Institut Specialise de Technologie des Pêches Maritimes	漁業技術高等学院
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers	青年海外協力隊
PDA		簡易揚げ浜施設
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリクス
PO	Plan of Operation	活動計画
V/C	Vulgarisation coordinateur	普及員コーディネーター
VDA		漁民の村造り計画 (JICA 無償協力)

第1章 中間評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

モロッコ王国（以下、「モ」国）政府は地域間の所得格差の是正及び漁業資源の保全を政策の重要課題としており、水産セクター（担当官庁、漁業省）においては零細漁民（約4万8000人）の人材育成にかかる施策が執られている。しかし、「モ」国の水産分野では普及員制度がないことから、現在まで零細漁民への普及事業は行われてこなかった。そこで「モ」国に適した普及システムを開発し、また普及員が効率的に普及活動を行うための普及プログラムの開発に係るプロジェクト方式技術協力を我が国に対し要請してきた。

JICAは本プロジェクトを2001年6月から5年間の予定で、「漁村において効率的な普及活動が行われ、確立された普及システムが、国家プロジェクトとして策定されること」を目的として実施している。現在は長期専門家4名（チーフ・アドバイザー、業務調整、水産普及、漁民教育）がプロジェクト・サイトである Larache を本拠地として、以下の活動をしている。

- 1) 漁家調査を実施し、テーマ（責任ある漁業、海上安全、社会・経済状況、ジェンダー等）ごとの現状及び問題点を明らかにする。
- 2) 零細漁民（男女）向け普及プログラムを作成する。
- 3) 普及コーディネーター・普及員を育成する。
- 4) モデルサイトにおいて普及活動を展開する。
- 5) 普及活動のモニタリング・評価、フィードバックメカニズムを開発する。

プロジェクトの初年度はベースライン調査の実施により、零細漁民の漁家状況が明らかにされ、プロジェクトの方向性が定められた。2年目からは、1年間に2項目ずつ普及テーマを策定し、普及コーディネーターの能力向上に努めている。昨年度のテーマは漁民グループ化促進、船外機維持管理、今年度のテーマは航行安全、品質・衛生管理、来年度のテーマは漁業技術、水産資源管理である。プロジェクト最終年度のテーマは「モ」国普及員コーディネーターが独自に作成することになっている。

本調査は、プロジェクト期間の中間時点で活動実績、目標達成度等の評価を行い、その結果により計画の方向性を確認・修正することを目的として実施する。

1-2 調査団の構成

- | | | |
|----------|--------|----------------------------------|
| (1) 総括 | 勝山 潔志 | 国際協力事業団 森林・自然環境協力部
水産環境協力課 課長 |
| (2) 水産普及 | 田村 直司 | 農林水産省 水産庁
海外漁業協力室 係長 |
| (3) 評価分析 | 堅物 順之 | 中央開発株式会社 海外事業部 事業部長 |
| (4) 計画評価 | 小林 龍太郎 | 国際協力事業団 森林・自然環境協力部
水産環境協力課 職員 |
| (5) 通訳 | 芝原 理之 | |

1-3 調査日程

日 順	月日	曜 日	宿泊都市	活動予定
1	1月5日	月		移動（成田 12:45→Paris17:25）
2	1月6日	火	Casablanca	午前：移動（Paris8:20→Rabat10:15） ：JICA 事務所との打ち合わせ 午後：大使館表敬 ：漁業省表敬（協力局、海洋訓練社会経済推進局） ：移動（Rabatより車でCasablanca 所要時間1時間強）
3	1月7日	水	Agadir	午前：Casablanca08:55→Agadir09:50 ：漁業省 Agadir 支局表敬 午後：ISTPMAgadir 表敬 ：Agadir 近郊の零細漁村視察（Imsouane）
4	1月8日	木	同上	午後：Agadir 近郊の零細漁村視察（Sidi Boulfadail） ：国立海洋研究所（INRH）水産物開発技術センター視察
5	1月9日	金	Larache	午前：移動（AgadirAgadir6：40→Casablanca、Casablancaより車 でLarache 所要時間4時間） 午後：CQPM 表敬および施設見学 ：全国普及センター見学 ：C/P インタビュー
6	1月10日	土	同上	午前：専門家インタビュー 午後：Larache 周辺地域零細漁村視察（Moulay Bousselham）
7	1月11日	日	Mdiq	地中海沿岸零細漁村視察（Qued Laou） 国立海洋研究所（INRH）種苗生産施設視察
8	1月12日	月	Larache	午前：地中海沿岸零細漁村視察（Fnideq） 午後：ジブラルタル海峡沿岸零細漁村視察（Ksar Sghir、Assila）
9	1月13日	火	同上	評価結果打ち合わせ
10	1月14日	水	Rabat	午前：移動（Larache→Rabat） 午後：漁業省にて協議
11	1月15日	木	同上	漁業省にて協議
12	1月16日	金	同上	ミニッツ署名、大使館・JICA 事務所報告
13	1月17日	土		移動（Rabat11:15→Paris15:10）
14	1月18日	日		移動（Paris23:15→成田 19:00）

1-4 主要面談者

漁業省海洋教育社会職業推進局

- ・ RHARBAOUI Mohamed (推進局長)
- ・ EL KOUHEN Ahmed (推進局部長)
- ・ BELRHAZI Azedine (推進局課長)
- ・ EL ASRI Abdellah (担当)
- ・ 小木曾 専門家

CQPM Larache

- ・ AZAOUI Abdellah (校長)
- ・ NATAQ Ahmed (副校長)
- ・ AMMI Abdelilah (C/P)
- ・ EL ASSLAOUI El Arbi (C/P)

モロッコ側評価員

- ・ OUATI Youssef (漁業省法務協力局協力部長)
- ・ HAMDANI Nourredine (漁業省漁港整備部長)
- ・ Brahim BOUDINAR (ISTPM Agadir 校長)
- ・ Ahmed MEHDAOUI ALAOUI (漁業省 Larache 分局長)

プロジェクト専門家

- ・ 藤田 チーフ・アドバイザー
- ・ 服部 調整員
- ・ 林 専門家
- ・ 石川 専門家

1-5 評価項目・評価方法

- ・ 関係者へのアンケート、インタビュー、関係資料のレビュー等を実施し、評価グリッドの素案を作成した。併せて評価方法を関係者へ説明した。
- ・ 零細漁村における漁民との対話、地方の訓練学校や漁業省支局等との話し合いを通じ、プロジェクト活動の詳細なニーズを確認した。
- ・ C/P 及び JICA 専門家などを対象とするインタビューを行い、プロジェクトの進捗等を確認した。
- ・ 日本側評価メンバーにより、評価グリッド及びミニッツの素案の作成を行った。
- ・ 上述の素案を基に「モ」国側評価メンバーおよびプロジェクト関係者との協議を行い、協議内容をミニッツの最終版に取りまとめた。

第2章 プロジェクトの実績と現状

2-1 投入実績

投入の計画及びプロジェクト開始から調査時点までの投入実績（2003年度については年度末までの確定した予定を含む）は以下の通りである。総じて日本側の投入、「モ」国側の投入ともに概ね計画通り実施され、すべてプロジェクト活動に効果的に活用されている。

2-1-1 日本側の投入

(1) 長期専門家

計画では、4分野（チーフアドバイザー、業務調整、漁民教育、水産普及）各1名派遣予定であった。

実際には、以下の通り4分野各1名（水産普及分野は途中交代により累計5名の派遣）派遣され、計画通りの派遣であった。しかし、チーフアドバイザーに関しては、健康上の理由により早期帰国を余儀なくされ、適当な後任者も見つからなかったことから、途中1年近い空白があった。そのため、2003年度末までの累計は4分野、5名、109人・月となっている。

- ・チーフアドバイザー : 藤田、2001.6-2004.3
(ただし、2002.2-2003.2は療養のため帰国)、計21.6月
- ・業務調整 : 服部、2001.6-2004.3、計34.0月
(ただし、予定任期は2004.5までの3年間。後任は業務調整兼漁村女性活動として人選中)
- ・漁民教育 : 林、2002.2-2004.2、計24.0月 後任人選中
- ・水産普及 : 吉田、2001.9-2003.9、計24.0月
: 石川、2003.10-2004.3、計5.4月
(予定任期は2005.10までの3年間)

(2) 短期専門家

計画では、「必要に応じて派遣」となっており、実際の派遣は、以下の通り各年度3名、累計7分野、9名（同一人が2度派遣された場合2名と計算）42.0人・月となっている。

- ・2001年度：3名（コミュニケーション手法、資源管理、水産経済）、計15.3人・月
- ・2002年度：3名（組織化促進、船外機修理、視聴覚教育）、計11.7人・月
- ・2003年度：3名（コミュニケーション手法、衛生・品質管理、視聴覚教育）、計15.0人・月

以上、概ね計画通り順調に派遣されたといえる。

(3) C/P 研修

年間2～3名のC/P日本研修が予定されていたが、実績は以下の通り3年間で6名実施され、やや少なめながら、概ね計画通り実施された。

- ・2001年度：水産普及制度1名、12日間
- ・2002年度：水産普及制度2名、各12日間
- ・2003年度：水産普及行政3名、各13日間

(4) 機材供与

計画では、普及用機材、カリキュラム開発用機材、研修用機材、視聴覚機材、移動教室用車両の供与が予定されていた（数量は明示されていない）。供与実績は以下の通りであり、概ね計画通り供与された。

- ・2001年度：11,290千円

- 車輛 2 台、コンピューター 4 台及び周辺機器、ビデオカメラ 2 台、カメラ 2 台、TV モニター 1 台、スライド映写機 1 台、オーディオ機器等
- ・ 2002 年度：11,287 千円
5.5 トン視聴覚教材搭載の車両、発電機、25 馬力船外機、オーディオ機器、各 2 台、船外機カットモデル 6 台
 - ・ 2003 年度：12,100 千円（予定）
5.5 トン視聴覚教材搭載の車両、発電機、25 馬力船外機、オーディオ機器、各 2 台、カラー複写機 1 台
- 累計：34,677 千円

(5) 現地活動経費

現地活動経費の実績は下表の通りである。

単位：千円

	2001 年度	2002 年度	2003 年度	合計
一般現地活動費	6,326	7,000	7,655	20,981
現地適用化活動費	8,828	7,800	8,582	25,210
合計	15,154	14,800	16,237	46,191

支出は順調に実施され、問題は生じていない。

2-1-2 「モ」国側の投入

(1) 長期 C/P

以下の長期 C/P が投入された。

漁業省海洋教育社会職業推進局の職員（4 名）：

- a プロジェクトダイレクター R HARBAOUI Mohamed（推進局長）
- b プロジェクトマネージャー EL KOUHEN Ahmed（推進局部長）
- c プロジェクト副マネージャー BELRHAZI Azedine（推進局課長）
- d 海洋教育社会職業推進局 C/P EL ASRI Abdellah（担当）

CQPM Larache の職員（4 名）：

- e AZAOUI Abdellah（校長）
- f NATAQ Ahmed（副校長）
- g AMMI Abdelilah
- h EL ASSLAOUI El Arbi

この他に、準 C/P として水産学校 8 校より V/C 各 3 名（内 1 名は女性）合計 24 名が配置される予定であったが遠隔地の Dhakla 校では男性 2 名のみ配置され、女性は配置されておらず、その他の 7 校では予定通り 3 名ずつ配置され、合計 23 名（内女性 7 名）の配置となっている。以上、全体としてほぼ予定通りの長期 C/P が配置された。

(2) 短期 C/P

プロジェクトの進捗に応じて、必要な特定分野の技術者が派遣されることとなっていた。実際には以下の通り合計 19 名の短期 C/P が配置されている。

- a 2001 年度は、ベースライン調査のため、長期 C/P に加え短期 C/P 3 名が配置された。
- b 2002・2003 年度は、普及プログラム・教材作成のために、テーマごとにワーキング・グループを編成して作業した。（各ワーキング・グループは、日本側・「モ」国側長短合計 8～10 名）このうち短期 C/P の数は下記の通りである。
- c 2002 年度：漁民組織化 3 名、船外機修理 3 名、計 6 名。
- d 2003 年度：航海安全 3 名、品質・衛生管理 5 名、計 8 名。

(3) 施設

CQPM Larache の敷地内にある一棟が本プロジェクト専用の事務室として提供され、併せて机等の日用品も提供された。なお、CQPM Larache 校の他の施設（会議室、教室等）に関しても、必要に応じて、随時プロジェクトでの使用が認められている。これら施設の共益費（電気代、水道代等）及び維持管理費は、全て「モ」国側が負担している。

(4) 運営経費

「モ」国漁業省の普及活動予算は、下表のとおり、本プロジェクトが開始してから着実に増加している。ただし、同予算はプロジェクト以外の普及予算も含まれ、プロジェクトへの実際の配分額は「モ」国側でも把握していない。

「モ」国漁業省普及活動予算（通貨単位：ディルハム（1DH=12.45 円））

	2001 年	2002 年	2003 年
移動教室用車両購入費	300,000	424,000	700,000
移動教室用機材購入費	212,000	250,000	
視聴覚機材購入費			150,000
教材用資材購入費			100,000
移動教室運営費			400,000
普及材料印刷費	50,000	80,000	120,000
旅費・輸送費	150,000	150,000	200,000
合計	662,000	904,000	1,670,000

本プロジェクトのもと「モ」国側の要員が出張する際、2003 年度には経費の 25%、2004 年度には経費の 50%が「モ」国側によって負担されることとなっている。

2-2 活動実績

2-2-1 プロジェクトの活動計画

プロジェクトの大まかな活動計画は以下のとおりである。

- (1) 2001 年度に、「活動 1-1.ベースライン調査を実施する。」を完了させ、テーマごと（品質管理、海上安全、ジェンダー、漁業資源等）の現状及び問題点を明らかにする。また、その結果に基づき、「活動 1-2.漁民にニーズに基づいた、普及テーマを選定する。」を実施する。
- (2) 2001 年度の活動 2 以降で選定されたテーマごとに、以下のスケジュールで実施する。

年度	基礎研修 (コース 1)	移動教室 (コース 2)			適応化活動
		テーマの開発	テーマ別研修	移動教室の開催	
2002	基礎研修 1	テーマ 1・2	テーマ 1・2	テーマ 1・2	---
2003	基礎研修 2	テーマ 3・4	テーマ 3・4	テーマ 3・4	テーマ 1~2
2004	基礎研修③	テーマ 5・6	テーマ 5・6	テーマ 5・6	テーマ 1~4
2005	基礎研修④	テーマ⑦・⑧	テーマ⑦・⑧	テーマ⑦・⑧	テーマ 1~6
2006	評価				

基礎研修③・④及びテーマ⑦・⑧は、V/C が独自に実施することとする。

2002 年度は「組織化促進」「船外機メンテナンス」、2003 年度は「航海安全」「品質・衛生管理」、2004 年度は「漁業技術」「資源管理」の各 2 テーマの開発を行う。2005 年度に開発するテーマについては、追って定める。

2-2-2 活動の実績

2001 年度活動実績

(1) 第 1 回 V/C 連絡会開催

2001 年 7 月 12 日、第 1 回 V/C 連絡会を開催し、V/C に対してプロジェクトの概要説明を行った。

(2) ベースライン調査の実施

2001 年 8 月から 11 月にかけて、プロジェクト活動計画策定に係る基礎データ収集のため、選定した 10 漁村（Ras Kebdana, Oued Laou, Moulay Bouselham, Dar Bouazza, Souiria K'dima, Bhaibah, Tifnit, Sidi Boulfadail, Grizem, Belghazi）において零細漁業・漁村の状況調査を行った。日本人短期専門家の指導の下、漁村社会、ジェンダー、水産流通、水産資源、漁具・漁法、遊漁と観光の観点より、C/P が個別アンケート調査、グループ聞き取り調査を行った。調査結果は日本人短期専門家と C/P によって、2 冊の報告書にまとめられた。

(3) ベースライン調査の分析結果の報告

2001 年 11 月 9 日、ベースライン調査に参加した 7 名の C/P が中心となり、報告会を開催し、社会経済、女性の活動支援、水産経済、水産流通経路、水産資源及び漁民組織の分野において、漁民の現状の分析と、プロジェクトで行うべき活動について提言を行った。

(4) プロジェクト全体計画の作成

2001 年 12 月から 2002 年初めにかけて、ベースライン調査の結果に基づき、PDM、PO、APO、事業実施策概要、モニタリング・評価計画書及び評価項目を含む、プロジェクト全体計画を C/P と共同で作成した。

(5) 第 1 回合同委員会開催

2002 年 2 月 19 日、第 1 回合同委員会が開催され、関係者間でプロジェクト全体計画が合意された。漁業省側からは移動教室用車両供与についての強い要望があった。JICA からはプロジェクト実施体制構想の中で中核を成す全国普及センター（CNV）の位置付けに関する質問が提起された。

(6) プロジェクト全体計画の合意形成

2002 年 3 月 2 日から 9 日にかけて、運営指導調査団を迎えての協議の結果、プロジェクト全体計画が「モ」国側との間で基本的に合意された。しかし、漁業省から移動教室用車両供与、V/C の研修参加旅費に関する強い要望が出され、調査団が持ち帰り検討することとなった。プロジェクト側は当プロジェクトの前提条件である各校 3 名の V/C の迅速な任命及び CNV 設立を要請した。3 月 8 日、上記懸案事項が記された M/M に双方が署名した。

2002 年度活動実績

(7) 移動教室用車両に係る現地調査実施と V/C の旅費分担に関する同意取り付け

2002 年 4 月から 5 月にかけて、運営指導調査団の持ち帰り検討事項に関する本部からの返答を受けて、V/C 研修参加旅費の「モ」国側と日本側の負担割合について、漁業省より同意を取り付けた。また、Tantan、Safi の ITPM2 校の管轄地区において、車両利用環境に関する現地調査を行い、結果を事務所に報告した。

(8) 移動教室用テーマ開発（1：組織化促進）

2002年4月から6月にかけて、組織化促進短期専門家を迎えた。長期・短期 C/P から成るワーキング・グループと共同で、移動教室用テーマ1「組織化促進」の普及プログラム、V/C 用手引き及び漁民用視聴覚教材の開発を行った。当初、漁民全体のグループ化を扱う予定であったが、グループ化は規定に沿って行う必要があり、手続きと作業が過大となるため、漁業組合に焦点を当てた教材の開発がなされた。

(9) 移動教室用テーマ開発（2：船外機メンテナンス）

2002年6月から9月にかけて、船外機修理短期専門家を迎えた。長期・短期 C/P からなるワーキング・グループとの共同作業により移動教室用テーマ2「船外機メンテナンス」の普及プログラム、V/C 用手引き及び漁民用視聴覚教材の開発を行った。

(10) 第1回普及システム諮問委員会開催

2002年6月6日、第1回普及システム諮問委員会を開催し、漁業省本省の C/P と共同でプロジェクト活動の進捗状況を確認すると共に、今後の課題を協議した。3月に運営指導調査団が「モ」国を訪問した際に確認された課題のうち、日本側は供与車両、V/C 研修参加旅費に関して譲歩し、「モ」国側との合意に漕ぎ着いた。しかし、漁業省の約束事項である各校3名ずつ V/C を任命すること（男性2名、女性1名）及び CNV の設立は実行されないままであるため、再度迅速な実施を申し入れた。

(11) 第2回 V/C 連絡会開催

2002年6月18日から19日にかけて、第2回 V/C 連絡会を開催し、新たに任命された V/C にプロジェクト構想と全体計画の説明を行い、V/C からプロジェクトに対する要望及び現行の普及活動上の問題点を聴取した。

(12) 移動教室用テーマ1・2普及教材開発

2002年度の「組織化促進」、「船外機メンテナンス」の2テーマに関し、以下の教材を作成した。完成した教材は各校に配布され、2003年度開始の移動教室実施に活用される。

① 普及員マニュアル

V/C が移動教室で使用するマニュアル（「組織化促進」：本編・補完編、計2種、「船外機メンテナンス」：1種）が完成した。

② ビデオ

8月から12月の期間、視聴覚教育短期専門家を迎えて、2テーマの普及ビデオ計2本を作成した。

③ 漁民用教材

漁民配布用教材（「船外機メンテナンス」：小冊子とポスター、「組織化促進」：リーフレット）を作成した。

(13) 第1回基礎研修・第3回 V/C 連絡会開催

10月23日から24日にかけて、第1回基礎研修並びに第3回 V/C 連絡会が開催され、V/C20名（男性15名、女性5名）が参加した。基礎研修は V/C を対象に、普及員が身につけるべき基本知識・技術を養うことを目的として、年に数回ずつ継続して実施される。第1回目は普及概念及び普及活動の考え方と特徴、コミュニケーション手法、農業分野における普及理論、INRH の事業紹介という構成で実施された。併せて、視聴覚教育短期専門家がポスターの特性について講義を行った。同時に開催された V/C 連絡会では、新たに任命された V/C に対してプロジェクトのブリーフィングを行うと共に、来年度開発予定の2テーマの選定結果並びに各 V/C の普及活動重点実施サイト選定について話し合った。

(14) 第2回普及システム諮問委員会開催

12月18日、第2回普及システム諮問委員会を開催した。2002年6月6日の第1回諮問委員会以降のプロジェクト進捗状況及び成果が確認されると共に、今後のプロジェクト目標達成に向けての課題を話し合った。また、青木短期専門家（視聴覚教育）の帰国報告も兼ねて、2テーマ、「組織化促進」と「船外機メンテナンス」の普及用ビデオが上映された。

当該委員会で確認された主要達成項目及び提起された課題は、以下のとおりである。

- ① 10月の第1回基礎研修・第3回V/C連絡会の開催時点で、プロジェクト開始当初から要請していた、各校V/C3名（男性2名、女性1名）が任命された。（西サハラに属し協力対象外のCQPM Laayaune（男性3名体制だったが、2003年1月、女性1名、男性2名へ変更）とCQPM Dakhla（男性1名）を除く）。
- ② 漁業省から、テーマ教材に既存の普及教材を参考にするよう申し入れがあったため、第1回諮問委員会以前から要請している教材も含め、普及関連資料が未収集である点を喚起したところ、必要資料を早急に交付する旨確約があった。
- ③ CNVの機能・人員配置については、漁業省はプロジェクト側の要請を考慮する用意があると述べた。一方、日本側は、視聴覚教育短期専門家のビデオ作成業務に、経験のある専任C/Pの配置が必要不可欠である旨を申し入れた。

(15) 第2回基礎研修・第4回V/C連絡会開催

2003年1月27日から30日にかけて、第2回基礎研修並びに第4回V/C連絡会を開催し、21名（男性15名、女性6名）のV/Cが参加した。今回の基礎研修では、FAOが開発した社会経済・ジェンダー分析（SEGA：Socio-economic and Gender Analysis）ワークショップを実施した。V/Cがよりの確に漁村の状況及び漁民のニーズを把握できる能力を身につけられるよう、座学に加えて、漁村（Moulay-Bousselham）での実習も組み込まれた。

同時開催したV/C連絡会では、各校が選定した重点漁村の選択理由・基準をV/Cが発見し、来年度以降、そこでのどのように普及活動を展開するべきか討議した。

(16) 先進地視察研修

漁民による先進地視察研修の第1号として、2003年2月27日から3月1日にかけて、CQPM Larache 管内のMoulay-Bousselham 漁業協同組合員8名がスイラケディマ、Imsouane、ワリディアを訪問し、漁協運営を見学し、またメンバーと意見交換を行った。他の漁民に対する研修報告をするため、研修参加者と同行したV/Cによる視察結果発表会が3月25日Moulay-Bousselhamで開催された。

(17) 第3回基礎研修・2002年度テーマ研修・第5回V/C連絡会開催

2003年3月10日から13日にかけて、第3回基礎研修及びテーマ研修（「組織化促進」、「船外機メンテナンス」）が開催され、21名（男性15名、女性6名）のV/Cが参加した。第3回基礎研修では、V/Cからの強い要望があった普及のためのコミュニケーション手法を実施した。引き続き、2002年の2テーマ、「組織化促進」、「船外機メンテナンス」の普及プログラム研修を行った。これは短時間の導入研修であったこともあり、特に「船外機メンテナンス」に関し、受講者から本格的な研修を望む声があった。

V/C連絡会では、来年度のプロジェクトの活動計画、新規に開始される事業の概要説明を行った。

2003年度活動実績

(18) 第2回合同委員会開催

2003年4月17日開催の第2回合同委員会に於いて、2002年度の活動実績の確認並び

に 2003 年度計画に関する協議が行われた。

(19) 移動教室用テーマ開発 (3: 航海安全)

5 月から 12 月にかけて、長期・短期 C/P から成るワーキング・グループが移動教室用テーマ 3「航海安全」の普及プログラム、V/C 用引き、漁民用視聴覚教材を開発した。

(20) 2002 年度テーマ研修 (船外機メンテナンス)・第 6 回 V/C 連絡会開催

5 月 28 日、第 6 回 V/C 連絡会を開催し、移動教室計画・報告様式の記入方法の説明を行い、第 3 四半期開催予定の次回 V/C 連絡会にて各校が年間計画を発表することとした。同時に技術現地適応化事業の概要説明も行った。同連絡会には男性のみ 13 名の V/C が参加した。引き続き、5 月 28 日午後から 30 日まで、Yamaha の技術者を講師に迎え、13 名の男性 V/C を対象に 2002 年度のテーマ「船外機メンテナンス」の理論及び実技研修を実施した。

(21) 移動教室用テーマ開発 (4: 品質・衛生管理)

6 月から 10 月にかけて、短期専門家の指導のもと、長期・短期 C/P からなるワーキング・グループが移動教室用テーマ 4「品質・衛生管理」の普及プログラム、V/C 用引き、漁民用視聴覚教材を開発した。

(22) 普及活動現場巡回調査・指導

6 月から 7 月にかけて、4 校 7 地区において、V/C が移動教室の現場巡回調査及び指導を開始し、現場にて移動教室開催方法の指導を行うと共に、移動教室モニタリング調査結果表の作成を開始した。

(23) 第 3 回普及システム諮問委員会開催

7 月 10 日、第 3 回普及システム諮問委員会を開催した。2002 年 12 月 18 日の第 2 回諮問委員以降のプロジェクト進捗状況及び成果の確認の後、今後のプロジェクト実施にかかる課題を話し合った。当該委員会での主要な議題は以下のとおりである。

漁業省提起事項

- ① 2003 年度に供与予定の移動教室用車両 2 台 (ITPM アルホセイマ、CQPMLarache へ交付) 及びプロジェクト購入予定の印刷機材 (カラーコピー機) を日本側が負担する事を確認した。
- ② 井上短期専門家 (コミュニケーション手法) が作成中のプロジェクト・ホームページに関し、仏語・アラビア語 (日本語を除く) のサイトを漁業省ホームページに組み込むよう申し入れがあった。これに対しプロジェクトは、リンクするのは差し支えないものの、こちらの責任と費用で作成するホームページを、省庁のサイトの一部に位置付けるのは受け入れられない旨回答した。また、専門家側はプロジェクトで作成した普及教材 (マニュアル等) をホームページからダウンロードできるようにしたい意向であるが、漁業省は反対の立場である。以上 2 点に関しては、交渉を継続することとした。
- ③ 従前日本側が照会した、プロジェクトが普及員 66 名を養成するという R/D 上の構想については、今後の検討課題とする。
- ④ V/C の連絡会・研修への参加率を高めるため、前もって学校事業の予定と調整を図る必要があることから、連絡会・研修の計画を早めに通知して欲しい。
- ⑤ プロジェクト関係者と漁業省の意思疎通を密にするため、Rabat のリーダーと月 2 回程度は打合わせをしたいとの申し入れがあった。プロジェクト側は、月 1 回の頻度で、最終木曜に実施することを提案し、合意に至った。
- ⑥ CNV 及びプロジェクトへの C/P 配置計画に関する質問に対して、漁業省は専門家

側に必要な人材の提案を依頼した。

プロジェクト提起事項

- ① 2003年4月の第2回合同委員会で提起した普及活動の記録・報告システムに関し、当面は移動教室を対象に導入したい旨提案したところ、漁業省は承諾し、8月中に各校に通知すると述べた。
- ② CQPML Laayoune の V/C の 1 人が、C/P として CNV に配属なったことから、彼の身分 (V/C・C/P 兼任か、C/P のみか) 及び CQPMLaayoune の後任を確認するため、V/C 並びに C/P の最新リストの提出を依頼した。

(24) 第4回基礎研修・第7回 V/C 連絡会開催

9月22日から24日にかけて、19名(女性5名、男性14名)のV/Cの参加を得て、第4回基礎研修並びに第7回V/C連絡会が行われた。今回の基礎研修では、22日午後、安里短期専門家(品質・衛生管理)によって日本における漁獲物品質管理の現状が紹介された後、Mdiqの水産研究所(INRH)に場所を移し、海洋学の研修を実施した。また、INRHの研究員を講師に迎え、23日は海洋学の基礎講義、24日は練習船に乗って海洋実習を行い、その後ラボにおいて採取したサンプルの分析を行った。22日のV/C連絡会では、移動教室の計画・報告様式の説明、ITPM Tantan、ISTPM Agadirによる技術現地適応化のミニ・プロジェクト(案)の発表、本邦研修から戻ったC/Pによる日本の普及制度の紹介が行われた。

(25) 移動教室用テーマ3及び4の普及教材開発

2003年度の「航海安全」「品質・衛生管理」の2テーマに関し、以下の教材を作成中である。なお、教材は各校に配布され、2004年以降移動教室実施に活用される予定である。

- ① 普及員マニュアル
V/Cが移動教室で使用するマニュアル(各テーマ1種ずつ)の原稿が完成し、印刷可能な状態にある。
- ② ビデオ
2003年11月から4ヶ月間、視聴覚教育短期専門家の指導の下、2テーマの普及ビデオ計2本を作成中である。
- ③ 漁民用教材
漁民配布用教材(「航海安全」:小冊子とポスター、「品質・衛生管理」:小冊子)を作成中である。

(26) 技術現地適応化事業現地調査

12月1日から10日にかけて、技術現地適応化事業の推進を目的として、長期専門家2名が各校を訪問し、V/Cが漁民と共同で行うミニ・プロジェクトの説明を行った。

(27) 第5回基礎研修・第8回 V/C 連絡会開催

12月16日から18日にかけて、ISTPM Agadirにて第5回基礎研修及び第8回V/C連絡会を開催した。今回の基礎研修のテーマは海洋生物学で、INRH Agadir支局の研究員が講師を勤めた。講義にあたっては、予め各校に質問票を出し、所管地域の主要魚貝類を確認しており、その生態に関する講義を行った。また、Agadirの魚市場を見学した。12月16日午前中の第8回V/C連絡会では、2004年以降のプロジェクトの実施計画の説明、2004年度に開発する予定の2テーマ「漁業技術」、「資源管理」に関する質問票の概説、移動教室の報告を提出するよう再確認した。また、プロジェクト活動に関する議題に加え、漁業省女性推進室の活動紹介が行われた。

以上に見る通り、プロジェクトの活動は全体として概ね計画通り順調に進捗している。

2-3 成果達成状況

2-3-1 成果1「零細漁民（男女）の漁家状況（漁業形態、資源、生活状況等）が明らかになる」の達成状況

指標：

- ・ 零細漁民の実態及びニーズに合った普及テーマが選定される。
（基準値：2002年レベルB 目標値：2005年5月レベルA）

達成状況：

- ・ 2001年短期専門家3名及び漁業省人選による短期C/P5名によるベースライン調査（活動1-1）を実施し、その結果が（1）漁村調査報告書、（2）漁村調査結果データベースにまとめられた。
- ・ 上記調査結果に基づき、6普及テーマ（1：漁民組織化促進、2：船外機メンテナンス3：航海安全、4：衛生・品質管理、5：漁業技術、6：資源管理）が選定された。（活動1-2）
- ・ 以上により成果1は予定通り、2002年当初にレベルB（より適切な普及テーマの選定を目指す）に達し、順調な進捗を示している。今後は選定されたテーマによる普及活動の実施とモニタリングを実施し、2004年度末にはレベルA（適切な普及テーマが選定されている）の達成を目指す。
- ・ 2003年到達度 計画レベルB、実績レベルB

2-3-2 成果2「零細漁民（男女）へ普及するテーマごとの普及プログラムが作成される」の達成状況

指標：

- ・ 2006年までに6テーマの普及プログラムが充実される。
（基準値：2002年ゼロ 目標値：2005年5月レベルA（開発テーマ数6、開発内容：6テーマのカリキュラム、V/C用教材、漁民用教材、視聴覚教材））

達成状況：

- ・ 各年度において、2テーマの普及プログラムが計画され、調査時点までに以下が開発・作成された。
 - ① テーマ1～4のプログラム
 - ② V/C用ガイドブック（テーマ1～4各1部）
 - ③ 漁民用教材3式（テーマ1～3）
 - ④ 普及用ビデオ（テーマ1、2）
- ・ アラビア語への翻訳、低識字率対策に手間取った（複数チェックが必要）。
- ・ 漁業省人選による短期C/Pと日本側短期専門家を加え、テーマごとに、8～10名からなるワーキング・グループを編成し、各教材を作成した。
- ・ 計画では2003年にレベルC（プログラムは要再検討）、2004年にレベルB（まあまあなプログラムが開発された）2005年にレベルA（よいプログラムが開発された）とされている。調査時点ではテーマ1～4は既に開発されており、テーマ5、6は2004年度に開発されることになっている。したがって、進捗状況は予定を若干上回っており、順調といえる。

2-3-3 成果3「V/Cを養成するカリキュラム・教材が作成され、V/Cの技術能力が向上する」の達成状況

指標：

- 3-1 V/Cを養成する研修プログラム（テーマごと及び基礎研修）が充実される。
（基準値：2002年レベルC 目標値：2004年5月レベルA）

3-2 2005年までに3/4のV/Cが基礎研修及び(テーマごとの)普及プログラム研修を修了する。

達成度:

- ・V/C研修は、既に基礎研修が5回、テーマ研修が2回実施されている。教材は都度用意されてきた。なお、カリキュラム、教材等はこれまでは、テーマごとに研修実施に先立って作成されている。
- ・計画では2003年度 レベルB(研修プログラムはほぼ充実)、2004年度に目標のレベルA(研修プログラムはほぼ充実)に達することになっている。調査時点ではテーマ5、6は未着手であり、計画よりやや遅れている状況であるが、2004年度末までには計画レベルに達すると思われる。
- ・これまでに実施されたV/C研修の参加率は、基礎研修が90%、95%、95%、82%、87%、テーマ研修は95%、87%となっており、最終的に3/4以上のV/Cが研修を修了することはほぼ間違いない。
- ・以上から、現時点では指標3-1はやや未達ではあるが、プロジェクト終了時までには定められた指標の目標値に達すると思われる。すなわち、V/Cを養成するカリキュラム・教材が作成され、V/Cの技術能力が向上することは間違いないが、技術能力の向上の度合いが十分か否かは更に検討の必要がある。

2-3-4 成果4「サイトにおいて普及活動が展開される」の達成状況

指標:

- 4-1 2004年までに、2/3のV/Cが普及プログラムのテーマに従って、効果的な移動教室を開催できるようになる。
(基準値:2002年ゼロ 目標値:2004年レベルB(プログラム・教材のほぼすべてがそのままの形で活用されている)、2005年レベルA(プログラム・教材のほぼすべてがそのままの形で活用され、それぞれの地域にあった形で開催。))
- 4-2 2005年までに、6テーマの普及プログラム内容について、担当サイトにおける漁民の意識が向上される。
(基準値:2002年レベルC 目標値:2003年レベルB(漁民の意識は多少向上) 2004年5月レベルA(漁民の意識は向上))
- 4-3 2006年までに、V/Cの計画・実施・モニタリング・評価能力が向上する。
(基準値:2002年ゼロ 目標値:2003年レベルD、2004年レベルC、2006年レベルB)
- 4-4 2006年までに、技術現地適応化/女性グループ活動促進化事業に参加した漁民の問題解決能力が向上する。
(基準値:2002年ゼロ 目標値:2003年レベルD、2004年レベルC、2005年レベルB)

達成度:

- ・普及活動の対象となる14重要サイトが選択された。(西サハラ地区の2ヶ所を含む。)
- ・普及活動は2003年から開始。
- ・2002年度の2テーマに関する移動教室実施。(移動教室配置校の実施状況は第2四半期確認予定)
- ・先進地視察研修実施。(2月27日-3月1日に第1回研修を実施。CQPM Larache管内の漁民8名及びV/Cが参加。)
- ・2003年到達度 計画 レベルC、実績レベルC
今後、実際にV/Cがどのように普及活動をしていくか、方法が問われる。移動教室の配車時に、現地実地指導が必要である。

- ・以上、指標 4-1 については概ね計画通り進捗しているといえる。その他の活動は 2004 年度、2005 年度に予定されており、過去の実績等から、予定通り達成できる可能性は高いが、現時点で判定するのは時期尚早である。

2-3-5 成果 5「普及活動のモニタリング・評価、フィードバックメカニズムが構築される」の達成状況

指標：

- ・フィードバックメカニズムが構築される。
(基準値：2002 年レベル C 目標値：2004 年レベル B、2006 年レベル A)

到達度：

- ・普及活動の記録、V/C 連絡会における情報収集等を通じ、V/C 普及活動のモニタリング及び評価法を整備した。
- ・四半期ごとに V/C 連絡会を開催した。第 1 回 (2002 年 6 月 18～19 日)、第 2 回 (2002 年 10 月 23 日)、第 3 回 (2003 年 1 月 27 日)、第 4 回 (2003 年 3 月 10 日)、第 5 回 (2003 年 5 月 28 日、移動教室計画・報告様式を周知、第 2 四半期連絡会にて現状報告予定)
- ・「モ」国漁業普及システムの問題点の洗い出しを目的とした、普及システム諮問委員会を年 2 回開催した。第 1 回 (2002 年 6 月 6 日)、第 2 回 (2002 年 12 月 18 日)、第 3 回 (2003 年 7 月予定)
- ・第 2 回合同委員会を開催した。(2003 年 4 月 17 日)
- ・移動教室の報告において、モニタリング・評価制度を導入した。
- ・移動教室を配車済み・配車予定の各 2 校計 7 地区において、使用実績及び予定を調査した。(6 月中旬から 7 月上旬)
- ・2003 年の到達度は、計画がレベル C であったところ、実績もレベル C に達している。今後は、活動のモニタリングと評価を効果的にフィードバックできるよう、実地の訓練を重ねていく必要がある。

2-3-6 成果の達成度総括

成果 1～3 は概ね計画通りの進捗を見せており、プロジェクト終了時までには、すべて所期の目的が達成できると思われる。成果 4 及び成果 5 は、若干の遅れが見られる。原因または理由として、普及車両配備の遅れ、普及活動の不慣れ、V/C の報告書作成の不慣れ等が考えられるが、プロジェクトでは現場実地研修やミニ・プロジェクトの推進等は、今後の活動により終了時までには、概ね達成可能と判断される。

第3章 プロジェクト効果の調査（水産普及分野）

3-1 視察先の状況

(1) Imsouane（1月7日）

ア 漁港の状況

- ・ Agadir から北に 120 km程の零細漁村にある漁港で、1997年に我が国の無償資金協力により、漁具倉庫、セリ場、船外機作業場、研修室等が設置された近代的な漁港である。施設は漁業協同組合により運営されており、設備および組織体制共に、日本の漁港に似ている近代的な漁港である。
- ・ 漁港は、住居のある漁村と離れていることから、漁期中の漁民は漁具倉庫に寝泊まりして漁業を営んでいる。今回の視察時には、研修室で行なわれている子供を対象とした識字教育（「モ」国漁業省海洋教育社会職業推進局の事業）、セリ場においては水揚げした魚のセリ状況が確認された。
- ・ 施設内に電力が供給されていないため、セリ場に設置されている冷蔵庫は使用されていなかった。また、船を陸に揚げるための巻き揚げ機も使用された形跡が全くなかった。
- ・ セリ場に水揚げされた水産物は、鮮度の良いものと悪いものがバラバラであったが、区別される様子はなかった。ごく少量であるが、シャーベット状の氷が使用されていたものの、それらは鮮度の良い魚ではなく、鮮度が既に悪くなっている魚に使用されており、鮮度保持の意味が十分理解されていない事がうかがえた。
- ・ 零細漁民の漁船は、甲板が無くキールが大きい不安定な形状をした約2トン程度の木船で、同漁港で約100隻程度確認された。午後の視察であったため、漁船が帰港中であった。
- ・ 刺し網は、日本と同様に海上でも目立つようにカラフルな色のボンデン旗が付けられていた。
- ・ 以前、貝類の養殖試験に利用したと見られるホタテ籠が、漁港内に置かれていた。

(2) Sidi Boulfadail（1月7日）

ア 漁港の状況

- ・ Agadir から南に 150 km程度にある大西洋に面した岩礁地帯の中にある漁港で、斜路と船揚場が整備され、その周囲回りに古い漁具倉庫が点在している。倉庫は作業環境を改善するために集約しており、簡易揚げ浜施設（以下、「PDA」）計画のもと新たな大型倉庫を建設中であった。同倉庫は、完成後は漁協が運営することとなっている。
- ・ 視察時には、70隻程度の木造漁船が係留されており（ただし、午前中の視察であったためほとんど出漁中であった）、漁船のタイプは Imsouane と同じであった。周辺が岩礁地帯のため、貝類等の磯場における水産資源の活用が期待される地域である。零細漁民とトロール船との漁場の競合が生じている地域でもある。

イ 漁業者からの聞き取り

- ・ 漁協組合長によると、魚は自宅で調理して食べる事が多く、残滓を海に捨てると魚が怯えて寄ってこなくなるのでため、土に埋めて処理しているようだったとのことである。

(3) Moulay Bousselham（1月10日）

ア 漁港の状況

- ・ 当地区は、夏期にフラミンゴ観察を目的とした観光ツアー等があることから、国内外からの旅行者が多く、組合もこれに対する協力体制を整えている。PDA が建設中で、完成後は給油施設等の整備が予定されている。

イ 漁業者からの聞き取り

- ・ 約10名の漁業者が集まり、聞き取り調査を行った。漁業者になってからの従事年数は、

- 12～30年とばらつきがあり、12歳頃に漁業者になった者や新規漁業者が混在していた。
- ・漁業活動期間は、年間6ヶ月間である。延縄や刺網で主にカサゴ、スズキ、イセエビ等を漁獲している。その他に、手釣りや延縄によりウナギを漁獲している。ウナギは輸出用として、20～25DH/Kgで売れる。
 - ・網目は30mmで、小魚を獲らない様に考慮している。ただし、日本沿岸での小型刺し網の目合いは、小さくても50mmはあることから、日本に比べると目合いは小さく規制は緩いと思われる。
 - ・基本的に、漁獲物は全魚種が自家消費の対象であるが、ラングスト（ロブスター）のような高価な漁獲物は市場へ売られる傾向にある。漁獲物の75～80%は市場へ売られている。
 - ・漁場は岸から30kmの範囲にあり、漁場まで3時間程度で到着する。沖ではトロール船と遭遇することがあるので、衝突事故を回避するため光で合図している。
 - ・船外機用の燃料を個人で購入する場合には、免税にならないこともあり高価である。現在の燃油価格は、10DH/l（Laracheには税関があり、数量の把握が明確であるため安く設定されており、3DH/lで販売されている）であるが、給油施設が設置されると、漁協が管理して販売することが可能であるため、より税率を下げ、安く購入できると期待されている。
 - ・漁業への新規転入者の受け入れについては、特に問題とっていない。
 - ・魚の主な調理法は、焼く、タジンにするといった方法で調理されており、カツオの場合は、オーブンで調理することもある。燻製は知っており、見た目がグロテスクだが、美味しい。調理法は多様であるが、生での魚食習慣は無い（お腹を壊すとの理由で、これは保存法に問題があるか、若しくは寄生虫がいる可能性も考えられる）。加工の方法については、日本から色々教えてほしいとの要望がある。また他に販売できる魚種がいなか資源調査の実施希望もある。

(4) Oued Laou (1月11日)

ア 漁港の状況

- ・地中海に位置する人口約1.5万人の小さい漁村である。同村においては既にPDAの建設が決まっているが、Imsouaneから転入してきた村長からは、Imsouaneのような施設が欲しいとの要望があった。
- ・付近には、漁港関連の施設が全く整備されておらず、砂浜は小型船の船揚場となっている。漁船は約2トンの木造で砂浜に置きやすい平底タイプであった。

イ 漁業者からの聞き取り

- ・主な漁獲対象魚種はイワシで、操業には集魚灯を使用している。15人乗りの漁船を使用しており、地方に比べて多少大型である。ただし、この漁船は、当村内には見られず、Mdiqの巻き網船のことを指していると思われ、漁民がMdiqまで出かけて漁業をしていることが伺える。
- ・その他漁業法の1つに7～10月に行なわれる、三枚網によるカツオ漁がある。採貝漁業としては、ムール貝が主であるが現在は資源が減少傾向にあり、漁業者は将来の資源量増加に期待をしている。刺し網そのものは盛んではないものの、通年全魚種を対象に実施できる漁法として利用されているが、対象魚の資源量が年々減少している。また、蛸壺漁法、竿によるカサゴ釣りも行われている。
- ・近年はスポーツ・フィッシングやダイビング客も増え始めているらしく、砂浜に見られた約2トン程度の木造船が砂浜に見受けられ、それらが使用されていると思われる。
- ・周辺地域は砂浜と岩礁が交互に存在し、転石のある水深の浅い漁場では手釣りやスポーツ・フィッシング、深い漁場では、集魚灯を利用したまき網漁、刺し網漁、はえ縄漁業漁等が行われている。当地域の漁民は約400人で、漁船は130隻ほど存在する。
- ・漁村においてJOCV女性活動隊員が活動しており、家の中での仕事（加工・家事）の支

援が行われている。北部は農業、絨毯作成、家畜飼育、水産物販売（観光相手）が営まれている。工業化も進み、町から3～5kmのところには缶詰等の加工工場が建設され、女性のみを採用することとしている。

- ・近年は雇用機会を確保するためのミニ・プロジェクトの導入は有り難い。
- ・海中の栄養塩類が低いため、資源量は少なく、漁業の将来継続に不安を持ち、若者の都市部への流出が増えている。そのため、各種研修施設や製氷施設等の漁業基盤を整備してほしいとの強い要請が漁民から漁協へ出されている。漁業基盤整備の要望に対し、浜から20km範囲の魚群調査を行っていることが漁労長（村の三役）から報告された。

(5) Fnideq (1月12日)

ア 漁村の様子

- ・Fnideq 漁村は、観光地の Mdiq やスペイン領の Sebta に隣接している。Delegues 事務所近くでは多くの建築工事が行われていた。人口増加に伴う開発等により、同事務所を移転することとなった。現在の事務所前の砂浜は、道路拡大工事でどんどん狭くなっている。漁業の作業の拠点を Refie へ移動することが計画されている。
- ・漁港施設は無く、砂浜が船置き場となっているが、沢山のゴミで覆われており環境は良くなかった。

イ 漁民からの聞き取り

- ・メディという優良な漁場が近くにあり、水深が充分にあり、多様な種類の魚が漁獲できる。主な漁具は、はえ縄、刺し網（3枚網）を利用し、網目は25mmのものを使用している。網漁具が中心である。
- ・約15km程度の沖で、水深60～70mに生息するカサゴやイセエビを中心に、多様な魚を漁獲している。
- ・操業時の安全性に関しては、転覆事故はあるが、死亡事故は発生していない。船外機は4～5回/年の頻度で故障し、特に波が高い時は壊れやすい。船外機が落水して無くなってしまうことはよくある。
- ・年間の操業日数は、6～9月において25日間/月の操業だが、10～5月は天候が悪いため、7～10日間/日の操業となり、総年間操業期間は8ヶ月間/年程度ほど（ただし、土日は休日と考える）である。6～9月は、マグロ、カツオ、ハタ（クエ）が漁獲され、水産加工業者や仲買人が買い取る。本マグロは、クサエススギール、Tanger 経由で、スペインや日本へ輸出される。このマグロは小型が多く、殆どが仲買人経由で売られ、市場との直接取引は無い。海峡付近や Tanger の方では大型のマグロが獲れる。
- ・漁業者は他の仕事はしておらず、漁業以外の収入源は無い。漁のできない時は、網の整備、仲間との懇談等で過ごし、早期出漁を祈っている。生活向上のために必要なものは、PDA、モーター修理、水・電気、資材、インフラ、製氷機等と考える。
- ・当地区は観光リゾート地であることから、観光客相手に全般的に水産物が良く売れるため、漁業者は販売需要に関する心配はしていない。例えば、今までの流通魚がイワシのみであったのに対し、近年ではカサゴやシタビラメ（150DH/kg）といった高級魚も流通するようになった。通常は仲買人を通して、ホテルへ出荷される。しかし、現在では、買い手がいる一方で、そもそもの漁獲高が伸び悩んでおり、供給量が間に合わない場合も多い。
- ・2年前は、養殖会社がカサゴを200DH/kgで買い取ってくれたが、経営者が亡くなってしまい、安定した買取りがなされなくなった。このように、漁獲物を特定の業者と取引していると、突然収入が得られなくなる場合があるため、持続的に収入を得るための流通方法を漁業者間で話し合わなければならない。
- ・水産資源は年々減少している。技術の向上不足も一因であるが、網の改良がなされていないことも大きな原因となっている。30年前は刺し網から魚を外す作業が大変なほど大量に獲れたが、ナイロン製の網が増えてからは資源が徐々に減っていき、現在は3時間

敷設しても1尾も獲れないことがある。また、刺し網の場合、小さな魚も獲ってしまうことがある。20年前から小型の魚を獲っていたが、現在は漁業省の法律により小型魚を獲ることは禁止され、網目規制のもと目合いは30~50mmと指導管理されている。

- ・資源を増やすための近道はないが、地道に様々な方法で増やしていくことが必要である。生活のために漁業を営む中、資源管理をしていくことに限界はあると思われるが、資源回復を日本側と一緒に検討していきたい。資源管理の成功には漁業者全員の努力が必要であり、また30年以上も積み上げてきた日本の経験・技術を応用できる分野である。現在は漁船数が増えるとともに乱獲が多々見受けられるので、組織的に合理化して、改革に取り組む必要がある。これにはまずCQPMやV/Cを日本で研修し、学んだことを「モ」国が応用することが必要である。
- ・当地域内の他の場所における問題点としては、船舶の増加、人口の増加（現在は40,000人）、夜間の廃棄物投棄等による水質汚染の悪化が挙げられる。

(6) Ksar Es Seghir (1月12日)

ア 漁村の様子

- ・この漁港はジブラルタル海峡に面しており、漁港から対岸のスペインがはっきり見える。
- ・漁港の周りには砂浜が少なく、岩礁が連続しており、磯根資源に恵まれている地域と考えられる。
- ・漁港も整備されており、日本の第2種漁港規模である。漁港内にカフェがあり、日本と異なり大変きれいなイメージがある。
- ・マグロの漁獲量も多く、住民の服装からも比較的裕福な地域と推察できる。
- ・密入国や密輸の手伝いも、結構な副収入であるとの噂もある。

イ 漁民からの聞き取り

- ・この漁港には漁船約80隻と漁民約300名程度いる。また、約3km離れた漁村に、漁船56隻、150名の漁民がおり、約6km離れた所にも、漁船61隻、60名の漁民がいる。
- ・この地域は、7~8月に本マグロが通過するので、その時期の漁業が一番重要である。その他の時期には、タイ、ハタを漁獲しているが、収益が良いのはマグロである。
- ・様々な目的で外国人が多く訪れるようになったが、今回は何の目的できているのかは確かではない。(他の援助機関関係者が、よく頻繁に現地入りをしているようである。ただし、彼らの口調から推測すると、今までのプロジェクトの活動や効果に、不信感を持っているようであることが伺えた)。
- ・インフラ整備の遅れが一番の問題で、PDAの整備が望まれる。現在は漁船を人力で引き揚げており、時間を要する。
- ・マグロの漁獲には、伝統的な漁法(500m延縄)を使用している。
- ・船外機が故障した時、パーツをTangerまで買いに行かなければならない。倉庫や製氷機についても、整備が必要である。PDAについては、全て何とかして欲しいというわけではなく、船外機のメンテナンス、製氷機、資源管理対策のうち1つでも良いので、支援して欲しいと要望している。
- ・協力についてはありがたいことであるが、漁業者個人よりも漁協に対して支援して欲しい。その方がより効率的な支援となる。

(7) Asilah (1月12日)

ア 漁村の様子

- ・大西洋の外洋に面している漁港で、大規模な整理が進んでおり、日本の第3種漁港の規模である。漁港内には、トイレやセリ場、管理事務所が整備されている。
- ・漁港内から外洋が見えないほど高い防潮堤が整備され、漁港内は大変静穏である。100隻程度の船外機船が停泊していた。
- ・約10トン程度の漁船数10隻が横付けされており、その横で漁獲物の販売と網の手入れ

が行われていた。

- ・数トン程度の漁船から水揚げされた漁獲物が、そのまま漁港内でも販売されていることから、漁港と住民との密接な繋がりが観察された。

イ 漁民からの聞き取り

- ・当地域でも本マグロが漁獲される。
- ・漁港は、「モ」国有数の漁港である。漁場までの距離は20～30kmで、80%が零細漁民である。
- ・以前、スペインの漁船が付近で操業し、多くの魚類を漁獲し、乱獲状態となった。
- ・イセエビ、ロブスターについては、資源が減少したため、禁漁期を設けている。禁漁期は研究機関による調査を基に設定し、漁業省が指示している。
- ・その他の底魚については、資源が減っているかどうかは明らかではない。また、特に自分たちで決めた資源保護に対する取り決めは無い。
- ・要望しているインフラ整備については、給油施設、製氷器、電気の容量増、船外機修理施設であるが、特に日本には船外機の修理法等が学べる研修施設の整備をお願いしたい。
- ・漁港は整備されているが、漁船の出入り口が狭いため、その部分に高波が発生してしまう。3～4名/年の転覆事故死があり、現在は救命艇を配置している。漁港の改良が必要である。
- ・ライフジャケットの必要性は皆認識しているが、面倒であるため誰も着けない。
- ・PDAを整備したことにより日本は資源が減少したことが指摘されているが、「モ」国はまだまだ日本のように整備されていないので、資源への影響は無いと考えている。
- ・整備した施設の運営は、自らがお金を出し合って運営管理することは当然であると考えている。

3-2 C/Pからの意見（聞き取り）

①副校長

- ・Larache周辺の漁業環境は、季節によって変化する。漁船が小さいため海況によって漁が左右され、時化の季節によってしばらく出漁できないことがある。この地域の漁業従事者には零細漁民が多く、水産社会経済生計の向上を目指す必要がある。そのために漁業所得の向上も重要である。零細漁業環境の改善のため、PDAによる水揚げ施設の整備を行っている。また、漁民の組織化も大切であると考えている。
- ・漁民は、悪天候でも出漁できる漁場や、資源のある漁場を求めて移動しながら生活する傾向がある。国内には8つの水産訓練学校があるので、漁民が移動しても、移動先で教育を受けることも可能である。
- ・普及活動の広報にはポスターを活用し、1週間前に移動教室が来ることを周知させている。漁民同士でも連絡を取りあっているようである。移動教室は、有効な普及システムと考えている。
- ・日本の専門家により、プロジェクトの進行を助けてもらい大変助かっている。しかし、短期専門家の派遣期間が短すぎると感じている。また、短期専門家には語学力不足により、コミュニケーションの問題がある。
- ・女性の社会への進出については、漁家の所得向上の観点面から必要と考えている。実際に、古くなった漁網を利用した絨毯の製作販売、貝類の採取、加工場の従業員として社会に進出している。
- ・安全操業について、今のところ救命道具の必要性を訴えるしか策はない。
- ・日本での研修の機会をもっと増やして欲しい。日本における漁協の活動状況を見てみたい。

②学校長

- ・教師（V/C）と普及員との両立は可能である。普及員を兼ねている教師は授業時間を減

らすように図られている。「モ」国側の活動費負担については、漁業省が協力してくれることになり、2004年は1/4、2005年は1/2の割合で負担する予定である。

- ・日本人専門家の活動については満足している。JICAへの対応についても不満はない。
- ・今後は、高速印刷機と移動のために利用する自動車の導入を要望したい。印刷機は1台50DH程度のものを数台導入したい。

③AMMI Abdelilah

- ・私自身、船外機のメンテナンスの訓練については大変興味がある。漁民の普及項目としては、ニーズの高い順に船外機のメンテナンスを含んだ安全操業、漁法技術の向上、鮮度管理の順である。
- ・トロール船との接触トラブルについては、沿岸漁民が勘違いしている部分もある。沿岸漁民にとって3マイル以上沖合は、操業禁止海域であり、トロール船と競合しないように考慮されている。しかし実際には、漁民が3マイルより沖に出てしまい、トロール網に魚網が取られてしまう事故が発生している。漁民の網も、1万DHするものがあり、大きな損失となっている。
- ・安全操業については、Laracheにおいて昨年は操業中に9名ほど亡くなっている。その殆どは河口付近の高波の影響を受け転覆してしまうケースである。規則では赤旗が出ている時には、出漁しないこととされており、それを守ることが必要である。また、出漁する時にはグループ行動を取ることも必要である。
- ・Laracheの普及指導の管轄は広いが、普及担当者は3名のみである。通常月2回程度は、重点地区としている漁村を訪問している。支局を多く設置し、普及員の人数を増やすことが出来れば、普及員はより頻繁に浜に出て、漁民との対話が可能となる。水揚げ場の整備が進まない中でも、ミニ・プロジェクトを利用して漁業者との接点を増やしていきたい。通信機器等を利用したコミュニケーションも考えている。救命道具の利用率を高めるためには、漁民に積み立て制度を利用してもらい、購入するよう進めていきたい。
- ・日本人専門家と一緒に行動し、意見交換をしている。意見が異なる時もあるが、意思の疎通は十分であると感じている。

EL ASSLAOUI El Arbi

- ・プロジェクト自体は、今のところは問題無い。CQPMの活動も様々であり、漁民がCQPMの活動をどのように感じているかは分からない。CQPMの活動の中では、普及員の活動は大きな位置を占めているわけではないため、CNVが予算を付け、活動を拡大していく必要がある。CQPMでは、識字教育が零細漁民にとって一番ためになると考えている。
- ・Laracheは「モ」国における漁民普及の中心であり、移動教室をいち早く設置すべきであると考え。教師と普及員の両立については過重業務となりながらも、給料の増額にはなっていない。CNVの組織を強化して、業務の改善について取り組んでもらいたい。
- ・我々教師は大変になっているものの、もともとこちらから日本に要望していることもあるので、喜んで普及員として取り組んで活動していきたい。日本の専門家に対しては、漁民の社会経済の確立を一番にお願いしたい。専門家の能力等については満足しているが、オーディオビジュアルの短期専門家を長期派遣にして欲しい。
- ・国内には、三枚網の規制はないが、目合いの大きさにかかる規制はある。刺し網類は流された時に、漁場に絡まってしまい資源に対して管理の観点から大変危険と考える。資源の保全や漁労技術の改善の面で、網の使用方法を検討する必要がある。

3-3 活動の進捗状況

プロジェクトの進捗は、概ね順調である。初年度のベースライン調査により、漁民のニーズの概要が把握され、それを基に6項目の普及テーマが策定された。現在までに年間2テーマ、計4つのテーマで活動が実施されており、非識字者の漁民への視聴覚教材などが

開発されてきた。また、8つの水産訓練学校の教官がV/Cに任命され（現在は計23名）、様々な会議や研修が行われている。さらに、視聴覚教材を搭載した普及用車両も2台整備され、これを用いた普及活動も実施されている。これらの結果、C/PやV/Cの能力は向上しており、プロジェクトの活動はほぼ順調に進んでいる。

3-4 今後の活動における課題

今後2.5年間でプロジェクト目標を達成させるためには、以下の項目に関して考慮が必要である。

(1) 6項目のテーマに関して

- ・今後実施の予定である2テーマ（水産資源管理、漁業技術）の開発
- ・現在までに開発された4テーマ（組織化促進、船外機メンテナンス、安全航海、衛生品質管理）に関して、実施活動を主体としたV/Cのトレーニング
- ・現在までに開発された4テーマに関して、実施活動のフィードバックによる質の向上（特に衛生品質管理分野）

(2) 6項目以外の普及活動の必要性

- ・漁民とのコミュニケーションを通じ、「モ」国全土を対象に6項目の普及テーマに基づく活動が、一様に求められているわけではないことが明確になってきた。社会経済的状況や自然環境の地域的な違いがあり、それぞれの地域が抱える問題があると考えられる。
- ・現在、プロジェクト活動に対する漁民の期待は高まっており、漁業省によるPDA計画により、組織化の促進も図られていることから、今後はそれぞれの地域における“現場での”普及活動の効果的な実施が望まれる。これらの活動がプロジェクト終了時における目標達成に大きく貢献すると期待される。

3-5 所感（その他）

(1) 漁民について

- ・身なりがきちんとしており、特に生活に困っているような状況には見えなかった。一方、山羊等の牧畜等を行って生計を立てている内陸部の住民は、服装等から貧困に見え、漁業による収入がある沿岸部の人々の生活のほうが豊かであると感じた。
- ・イスラム教の影響か、漁村に酔っぱらいやけんか腰の漁民がいないのに驚いた。漁民間の統率がとれているような気がした。
- ・日本はインフラが整備され、共同作業がなくなり、単独作業することが多くなっているが、「モ」国では船上げ作業を共同で行うなど、助け合いの精神がより強く残っている。
- ・魚群を追って移動生活する地域があり、その地域では普及員が漁業者と接触することが難しいと思われる。
- ・電話について、有線より無線が先に普及したため、漁業者が携帯電話を使用していた。日本では電波の通らない地域が沿岸部に多いが、我々が視察した海沿いの地域は、携帯電話の通話がほぼ可能であった。
- ・漁民から漁協の組織強化及び活性化にかかる支援の要望が強かった。日本における普及員の活動が活発となった背景には、漁協からの協力が不可欠であったことが挙げられる。日本のように普及員活動を活性化させるためには、漁港等が整備されている地域に対し、漁協の組織化の専門家を派遣することも有効であると感じる。
- ・漁民からの聞き取りの中で「色々な多くの外国人が来るが、今回は何をしに来たのか。本当に我々のために何かしてくれるのか」という言葉があり、印象的であった。今までのプロジェクトに対する不満、不信感を持っている様子がうかがえ、慎重に対応しなければ、本プロジェクトに対しても同様の印象を持たれてしまう可能性がある。調査団に向かったの意見であったが、「モ」国側の政府関係者やJICA専門家がこの声を真摯に受け止めることが重要である。

(2) 漁船について

- ・ 零細漁民の船外機船はほとんどが1~3トン前後の木造船で、FRP船は見なかった。造船所を視察したところ、約20トン程度の木造船が製造されていたが、防塵施設もなく、FRP船対応の造船所ではなかった。
- ・ 船外機漁船は、国内に約12千隻（日本は6万隻）あるとのことだが、漁港数が少ないため、海岸線に比較すると漁船数が特に多いとは感じなかった。
- ・ 南部地域の木造船は、甲板が無く、船底に直接乗るタイプであったため、乗船時にはとても不安定である。漁港から出港する船外機船を見たところ、速力が足りず、木の葉のようにゆらゆらと少しずつ前進している状態であった。
- ・ 船外機は日本製が多いが、10年前の型式の船外機が多く、大型の4気筒や4サイクルのエンジンは見られなかった。出力も20馬力以下で、丸く重い木船の割には馬力が小さい。これでは速力がでないため、フルスロットルの時間がどうしても長くなるのではないかと感じた。
- ・ Agadirの港湾に停泊していた100トンクラスのトロール船が200隻ほどもあった。タコの資源保護のため、休漁中とのことであったが、このトロール船による資源への悪影響は相当なものであると感じた。
- ・ 漁船登録番号と船名が各漁船に書かれており、登録制となっていることに感心した。しかし、日本のように測度（性能の基準）や検認制度がないため、漁船数の把握はできているが、漁船の規模や能力の管理においてはまだ不十分と感じた。
- ・ 登録制により、漁船数を増やさない方策がとられているが、検査や監視制度がないため、登録しないで操業している漁業者もいる。しかしながら、訪問の際に、登録番号のない漁船を見ることはできなかった。

(3) 漁港について

- ・ 漁港が前浜に整備されている漁村と、整備されていない漁村との格差があり、漁港の整備はまだ不十分である。しかし、市街地にある漁港の整備は進んでおり、日本と同規模の漁港も多かった。
- ・ 冬でも気候が温暖であり、一年中漁ができるという点において、日本の関東以北より恵まれている地域である。
- ・ 漁港内やその付近には、カフェレストランがいくつかあり、漁民達の憩いの場となっている。地方の人口が多く、また若い世代も多いため、レストランの経営が成り立つと感じた。Mdiqのような観光地の漁港は、住民や観光客が多く訪れて、獲れたばかりのイワシを堪能できる。日本では地方における閑散とした漁港が多いイメージとは大違いであった。
- ・ 漁港の岸壁に牡蠣などの生物の付着がほとんど見受けられなかったことから牡蠣などの天然採苗は難しい。

(4) 海岸について

- ・ 全体的に栄養塩類が少ないため、岩礁に付着する海藻類がとても少ない。それに伴い、海藻を食べる貝やウニなどの資源量もあまり多くないと感じた。
- ・ 地中海側は特に透明度も高く、磯根の資源量はあまり多くないと感じた。
- ・ 大西洋側の沿岸地形は湾が少ないため、大規模養殖は波の影響を受けてしまうことから大規模養殖の適地としては、不向きである。
- ・ 視察した砂浜には、アサリ等の貝資源が生息しているときに見られる、空気孔等の形跡がなく、アサリの収穫は限られた地域となっているようであることが観察された。

(5) 漁具について

- ・ 零細漁村で使用している刺し網は三枚網が多く、日本のようにナイロンではなく、帆布

のような素材であった。目合いも日本でいう二寸目以下で、目合いが小さいため、魚が絡まりやすいという印象である。

- ・ Larache の港では漁網の手入れが行われていたが、網いっぱい小型のカニが絡まって放置されている網があった。食用には小さ過ぎ、またカニを外すのが大変なため放置されているようであった。

(6) 魚の消費について

- ・ 沿岸部の街では、町中で魚が豊富に売られており、魚を食べる習慣があるようであった。しかし、内陸部の都市では、鮮度管理や輸送による鮮度の問題があるため、新鮮な状態での輸送が困難であり、なかなか食べられる機会がないようである。
- ・ 一般に「モ」国では肉類が主食であるため、20歳を過ぎると体脂肪を蓄えやすいようである。健康面での優位性を考慮し、魚食普及を PR すると効果的と思われる。

(7) C/P について

- ・ こちらの質問に対して、熱意のある回答があった。日本の水産業に興味が高く、来日を希望する者が多かった。
- ・ V/C とは会話できる機会がなく、彼等の考えや能力等についてはわからなかった。

(8) 女性の役割について

- ・ 漁港には女性の姿が見られなかったが、家業や加工場での仕事に就いているとのことだった。夫の話では、家庭内では女性の権力が強いこともあり、女性が必ずしも蔑視されているわけではないようだった。宗教上の理由から、女性が人前に出ることが難しいが、女性の社会進出も少しずつ進んでいるように感じた。
- ・ 女性の漁業への参加については、宗教上の制約から、個人での活動は難しい。日本の漁協婦人部のような形での組織化を行い、その婦人部活動に対して政府が助成するような形が必要と考える。

(9) 今後のプロジェクトの進め方のポイント

- ・ 調査の結果、「モ」国側の体制が予算・人員の面で十分整っていないことが判明した。そのため、プロジェクト終了までに、当初計画の通り 66 名の専属の改良普及員を配置することは困難であると思われ、V/C や C/P が普及員として活動するなど、工夫が必要と感じられた。また、プロジェクトの推進には、出来るだけ普及員が現場に出て、漁業者と直にコミュニケーションを図る必要があり、コミュニケーションがうまくできないと、プロジェクト目標の達成は困難であると感じる。
- ・ C/P は水産訓練学校の教師であるが、1 週間の担当授業が 2 日だけになるなど、業務量を勘案されつつあり、C/P が普及員として活動できる体制が整えられつつある。今後は、専門家と C/P が一緒にミニ・プロジェクトを実施する漁村を訪問し、ミニ・プロジェクトが有効に活用される方法を漁民と一緒に考えることが重要である。
- ・ 日本においても、普及員が新たに漁業者とコミュニケーションを取るには、きっかけ作りに悩むことがある。本プロジェクトで実施する予定のミニ・プロジェクトは、普及活動のきっかけとして良い方法である。
- ・ ミニ・プロジェクトで貸与する機器類は、各地の諸条件に適合したものを選定する必要がある。例えば、導入を計画している製氷機（ロックアイス用）については、次のような問題が危惧される。まず、ロックアイスを製造するためには、氷に空気が入らないよう時間をかけて凍らせる必要があり、生産量が少なく、生産コストも高くなってしまふ。このことが今後の継続利用の障害になる可能性もある。また、現地で水揚げした魚を見たところ、鮮度がバラバラであったが、これは帰港するまでの操業時間に関係するもので、船上での鮮度管理が重要である。しかし、ロックアイスは生産コストと性質の面か

ら、船上での鮮度管理には向いておらず、氷が溶けないように発泡スチロール箱と合わせて普及する等の工夫が必要である。

- ・漁村を巡回する際の留意点として、取締りのために巡回しているのではなく、普及のために巡回していることを明確にすることが挙げられる。また、普及員が随時現場に来ていることを周知させることにより、漁業者に安心感を持たせることによって、普及活動が円滑に実施されるようになる。そのためには、車輻に「普及車」であることを大きく記載することも有効な手段である。
- ・普及員の社会的身分や制度が未整備のまま普及活動を行っても、漁民から本音の意見が出てこない。また、現在の普及員には資源管理等の規制の執行については権限がなく、農業農村開発漁業省の別の部署がその役割を担っている。普及員は漁民と接する機会が多いため、このような制度をめぐって人間的なトラブルが発生する可能性もある。そのため、コミュニケーションの確立だけでなく、活動と権限に整合性を持たせ、普及員の身分を保障する普及員制度の確立を同時に進めていく必要がある。
- ・当プロジェクトの活動として、木造漁船の FRP 化の普及についても、積極的に取り組んで欲しい。「モ」国の漁民は、安い木造船に固執しているが、不安定な船形を採用しているため、転覆事故を起こしやすい。それに対し、FRP 船であれば、海上での安定性もあり、速度も出ることから、燃料のコストを安く抑えることができる。また、船体が軽いので、上架作業も楽になる。更に、下船内に魚槽が設置できるので、魚類の鮮度保持が可能となり、取引価格の安定化にもつながる。FRP 船の優位性は、実際に使用してみなければ分かりにくいいため、プロジェクトで FRP 船の貸し出しをすることが有効と思われる。

第4章 評価結果

4-1 評価5項目による分析

4-1-1 妥当性

(1) 上位目標の妥当性

開発政策は、漁業省経済社会発展5ヵ年計画（1999年～2003年）を基本に進めて来ている。本プロジェクトは、2003年10月16日にハッサン二世賞及びFAOの優良案件奨励賞を受賞している。また、ベースライン調査の結果を基に実施していることから、受益者のニーズとも整合性がある。

(2) プロジェクト目標の妥当性

普及のテーマは、ベースライン調査に基づき選定されており、零細漁民のニーズと整合性があるとともに、上位目標を念頭において選定されている。

(3) 我が国の援助方針との整合性

- ・平成15年8月29日に閣議決定された新政府開発援助大綱では、重点課題の筆頭に「貧困削減」をあげている。
- ・2000年9月の経済協力政策協議において、対「モ」国協力の重点分野として6分野を掲げている。その中に「農業及び水産業の開発・振興」、「地方開発による地域格差是正」が挙げられており、本プロジェクトの目指す方向と整合性がある。
- ・我が国は1985年に「モ」国と入漁協定を結び、以来毎年更新しており、水産分野での協力は我が国の方針に合致している。
- ・以上、零細漁業改良普及を通じ、零細漁民の社会・経済状況の向上及び沿岸資源の保全を目指す本プロジェクトは、我が国のODA基本方針及び対「モ」国協力の重点分野と整合性がある。

(4) プロジェクト計画の妥当性

- ・プロジェクトの計画は概ね適切に設定されている。
- ・PDMの細部に、関係者の理解が異なる可能性について記述がある（下記参照）。しかし、これらは運用ですらで解決できる問題であり、「モ」国側、日本側とも現時点ではPDMの改訂の必要は感じていない。しかし、理解の相違が表面化した点に関しては、関係者間で協議の上、共通理解を明文化しておくことが望ましい。今までは、関係者間で議論されて解決しているが、担当者が変わって同じ議論が蒸し返されないように何らかの形で文書化しておくことが望ましい。

(5) C/P機関選定の妥当性

- ・全国展開を考えると、CQPM Laracheは他地域へのアクセスが悪く、地理的に不相当との意見があった。しかし、CQPM Laracheは、漁業省によって零細漁民、沿岸漁民に対する普及活動の全国センターに選定されているため、漁業省が選定した機関をC/P機関とすることは妥当な選択である。

(6) 公平性の観点

- ・プロジェクト活動の直接の対象はV/Cが選定した14サイトであるが、プロジェクトによって普及システムが確立されれば、最終的に「モ」国全国に裨益が及ぶため、公平性は確保されている。

(7) 他のプロジェクトとの整合性

- ・我が国は1985年に「モ」国と入漁協定を結び、以降、毎年更新しており、多くの水産

分野の協力を実施してきた。本プロジェクトは、これら先行協力の成果を活かすとともに、それらの効果をより強固にするものであり、整合性がある。本プロジェクトは、特に漁業振興計画、Agadir 漁業高等技術学院拡充計画、沿岸漁業振興計画、Larache 漁業技術訓練センター計画（以上、無償資金協力）、水産専門技術訓練センター計画（プロジェクト方式技術協力、1994.6～2001.6）、零細漁村振興計画調査（開発調査、1996.11～1998.7）、漁業省向け個別専門家派遣等の、先行協力の結果を活用するとともに、それらの先行協力の効果がより大きくなるよう計画されている。

以上、多くの多角的視点から見て本プロジェクトの妥当性は高い。

4-1-2 有効性

- ・これまでの活動はプロジェクトの基盤整備に重点がおかれ、プロジェクト目標に直結する成果に関連した活動（普及活動の実践を通じてC/Pの能力を強化する活動）の多くは後半に予定されていることから、これらの成果の発現も必然的には後半に集中して現れてくる予定である。現在のところすべての成果は、一様にプロジェクト目標の達成にむけて貢献するように計画されており、有効性は高いものになると予測されるが、プロジェクト目標の達成度及び有効性の結論は今後の努力と、効率的活動によるところが大きく、現時点で結論を出すのは時期尚早である。なお、国際機関等により本プロジェクトが表彰され、注目をあびたという追い風もある。

4-1-3 効率性

- ・現在までのところ、投入は概ね計画通り順調に実施されてきており、成果 1~3 に関しては投入量に見合った成果が発現してきていることが確認されている。したがって、プロジェクトの効率は確保されているといえるが、重要な成果（成果 4、5）の期限内達成は現時点では不明であり、プロジェクト後半の活動では、達成を視野に入れた活動が望まれる。

4-1-4 インパクト

(1) 上位目標達成の見込み

- ・本プロジェクトは上位目標達成に貢献するように設計されている。しかし、上位目標の達成には時間を要し、それがいつ達成するかは調査時点ではまだ見えていない。

(2) 実施機関の組織・制度等への影響

- ・普及に関する各種手法を熱心に受け止めている。本プロジェクトは、2003年10月中旬にハッサン二世賞及びFAOの優良案件奨励賞を受賞していることもあり、漁業省内での関心も高まっているが具体的な行動はなされていない。
- ・本プロジェクトの実施担当部門である、CQPM Larache 校の VPA（零細漁民普及）は CNV（全国普及センター）と改名された。しかし、CNV になって、その役割、業務範囲、人員、予算等がどうなるのか、明確に文書で確認できなかった。

(3) 漁民の生活や態度の変化

- ・普及活動がようやく動き出した所であり、未だ目に見える形での影響は出てきていない。

(4) グローバル・イシューへのインパクト

- ・本プロジェクトは、貧困削減、環境保全及びジェンダー平等・女性の能力強化といった、グローバル・イシューへの配慮がなされている。その取り組みの1つとして、準C/Pとして、普及拠点8校中7校において、準C/Pとして活躍する女性の普及員コーディネーターが配置された。これは、本プロジェクトのジェンダー面でのインパクトといえようが、漁村というイスラム漁村での社会の中ではまだまだハードルは高く、功を焦るとかえってマイナスの効果がでるおそれもある。受け入れやすい事柄から順次

時間をかけてすすめることが望ましい。

(5) ネガティブ・インパクト

- ・調査時点では負のインパクトは観察されなかった。

以上、プロジェクトの前半はベースライン調査やそれに基づく普及テーマの選定、テーマごとの普及プログラムの策定等普及の土台作りに費やされており、実際の漁村での普及活動は始まったばかりであって、目に見える形でのインパクトが出てくるのは今後であり、現時点で評価するのは時期尚早である。

4-1-5 自立発展性の見込み

- ・本プロジェクト終了後に、水産技術の普及事業がどのような枠組み（組織・制度・予算・人員）でなされるのか明確になっていないため、自立発展性に多少の不安がある。
「モ」国側が枠組み（普及員制度の確立等）に着手するためには、本プロジェクトの効果がある程度発現し、効果が理解される必要がある。
- ・技術面においても、C/P が技術を理解するだけではなく、真に技術力がついたといえるためには、フィールドにおける実践を通じて知識・技能を向上させる必要がある。
- ・本プロジェクトは、前半において、ベースライン調査やそれに基づく普及テーマの選定、テーマごとの普及プログラムの策定等の準備作業に時間を要しており、実際の普及活動は始まったばかりである。ある程度実践活動を積み重ねることにより、C/P の知識・技能を向上させるとともに、政策決定者が普及活動の効果を理解できるよう、成果を明示できるようにする必要がある。

以上、問題がない訳では無いものの、国際機関（FAO）や「モ」国国内（ハッサン二世賞）から優良プロジェクトとして表彰を受けたことも追い風となり、注目されつつあるプロジェクトとなっている。「モ」国漁業省の普及関連予算も増加しつつあり傾向にあり、自立発展の可能性はかなり高いと見られるが、その可能性をより確実にするためには、プロジェクト後半に予定されている地域密着型、デマンド・オリエンテッド型普及活動の有効性を証明することが重要である。

4-2 結論

調査団と「モ」国側漁業省関係者は、本プロジェクトの基本戦略として、以下の点で合意した。

- ・本プロジェクトは、単に普及システムの形を構築するのみならず、普及活動を漁民の社会・経済条件改善に繋げることが目的である。
- ・よって、C/P、V/C 及び日本人専門家が、漁民グループとの接触・対話を推進することが極めて重要である。

プロジェクトは、概ね PDM、PO に沿って計画通り順調に進捗している。2001 年には、零細漁民の実態調査が実施され、零細漁民のニーズ・関心が明らかにされた。この結果に基づき、本プロジェクトで取り上げる普及テーマ 6 項目が選定され、2002、2003、2004 の各年度において、2 テーマずつの普及プログラムを開発することとしている。調査時点までに、既に 4 テーマの普及プログラムが開発されている。普及対象となっている零細漁民は、非識字率が極めて高く、また、方言性の強いアラビア語やベルベル語しか理解しない漁民も多い。これを考慮し、フランス語や標準アラビア語の教材だけでなく、視聴覚教材も適宜作成したことは時間・経費を要したものの効果が期待できる。実際の普及活動に当たる V/C は 8 校で各 3 名（男性 2 名、女性 1 名、ただし Dakhala 校は男性のみ 2 名）合計 23 名配置され、V/C に対する基礎研修、テーマ研修及び V/C と C/P の話し合いは日本人長短期専門家も参加し、数多く実施されている。供与された機材を利用した移動教室も開

始された。これらの活動を通じて C/P や V/C の能力は着実に強化されつつある。現時点でのプロジェクトの進捗度は概ね計画通りであり、そのことから、プロジェクト終了時まで所期の目的は達成される可能性が高いといえる。しかし、前半の活動は主にプロジェクトの基盤造りに重点がおかれ、以下のようなプロジェクト目標に直結する重要な活動の多くは後半に予定されている。

(1) 既に選定された 6 テーマに関して

- ・ 4 テーマのプログラムは開発されたが、更に 2 テーマの普及プログラムの開発が必要である。
- ・ 既に開発された 4 テーマについて、V/C は研修を受け、実際に普及活動を開始しているが、現場での普及活動を積み重ねること (OJT) により、知識・技能の向上を図る必要がある。また、より多くの漁村で普及活動を実践することにより、面的拡大を進める必要がある。
- ・ 「モ」国の漁村は大きく分けて、地中海側、大西洋北部及び大西洋南部の 3 つに区分され、地域によって自然条件、社会条件及び経済条件に差がある。既に開発された 4 テーマは、ベースライン調査に基づき、零細漁民のニーズに基づいて開発されたものではあるものの、地域特性はあまり考慮されずに、一般的な内容となっている。今後は、普及活動を促進させると共に、地域固有のニーズも汲み上げ、プログラムの改良に取り組む努力が必要である。例えば、第 4 テーマの「品質・衛生管理」については、短期専門家が注力した対象地域では非常に好評であるものの、他の地域の現状にはそぐわず、現状の再調査とプログラムの改良が求められる。

(2) 既に選定された 6 テーマ以外の追加テーマの開発の必要性

- ・ 普及活動を通じて、より漁民と接触・対話の機会が増える事によって、既に選定された 6 テーマ以外にも重要なテーマがあると考察されている。上述の通り、「モ」国零細漁民を取り巻く自然条件、社会条件及び経済条件には大きな地域差がある。今後は、より地域の固有事情に応えられる普及プログラムの開発が必要である。C/P には、漁民のニーズ把握と新テーマ開発の能力を身に着けることが望まれる。

移動教室が稼動し始めたことから、漁村において、漁業普及については本プロジェクトへの関心が高まっている。また、「モ」国漁業省は、本プロジェクトとは別に PDA 計画 (66ヶ所の揚げ浜建設計画) 及び VDP 計画 (漁民の村造り計画) を推進している。併せて、これらの計画地域では、漁民の組織化も進められているため、本プロジェクトの普及活動を推進させる効果があると期待され、今後の動向が注目される。

第5章 今後の計画

5-1 今後の活動における方向性

本調査を終え、日本側調査団はプロジェクトに対して以下の方向性を示した。

- (1) プロジェクトが策定した6項目テーマの普及活動
 - ・ これまでに実施されてきた4テーマの普及活動
再度レビューを行い、漁民にとって有効な普及活動の活性化が望まれる。
 - ・ 今後実施する活動
テーマ「水産資源の保全」については、漁民の生計を圧迫しないこと、「漁業技術」に関しては地域の特性を考慮することが望まれる。
- (2) 地域別普及活動の活性化
 - ・ 普及活動に関する人員確保
専任 C/P、V/C の人員増加が求められる。また、「モ」国政府により建設予定の PDA (66ヶ所) に配置される普及員とプロジェクトメンバーとの協調が望まれる。
 - ・ 普及用車両
現在までに2台の普及用車両が配備されており、2004年度に2台、2005年度に2台の供与を予定している。これらは普及活動を行う上で有効なツールであり、迅速な購入、配備が望まれる。
 - ・ 漁村における女性活動
社会的・地域的な違いを考慮し、地域慣習に沿った普及活動が望まれる。
- (3) プロジェクトによる実際の普及活動
 - ・ 漁民からのニーズを基に、漁民及び V/C により企画立案され、プロジェクトメンバーにより選考、実施される普及活動「ミニ・プロジェクト」を計画している。これはプロジェクト目標の達成のために非常に有効な手段と考えられるため、今後の実施が強く期待される。
- (4) モ国側自助努力の可能性
 - ・ 現在、「モ」国側は管理経費の多くを負担しているが、出張経費等の運営経費は日本側が多くを負担している。普及活動の自立発展性のためには、今後の「モ」国側負担率の増加が望まれる。出張経費の「モ」国負担率は2003年度の実績は25%、2004年度は50%を予定している。
- (5) 地域別普及活動実施のためのベースライン調査のフォローアップ
 - ・ 今後、地域別の普及活動を活性化させるためには、過去に行ったベースライン調査のデータを参考に、再度、同じ地域で調査を行うことにより、漁村における潜在的ニーズを分析する必要がある。

5-2 要検討事項

本調査時に「モ」国政府より、以下の7項目に対する支援が日本側に要請された。JICA はこれらを日本に持ち帰り、引き続き検討することとした。

- (1) 普及教材作製のための印刷工場を建設する。
- (2) 2003年度に供与予定の移動教室用車両2台及び追加視聴覚機材供与の早期実現をす
る。追加で供与予定の移動教室用車両2台を、2004年度内に供与する。
- (3) 本邦研修を受けていない C/P 及び8校から各1名以上の V/C に対し、本邦研修を実施

する。

- (4) 短期専門家の派遣期間の延長（短期専門家は重要なテーマを担当しているが、言葉の問題もあり、技術移転に時間がかかる。派遣期間が短く、慣れた頃には帰国するケースが多いため。）
- (5) 現在計画されているミニ・プロジェクトの実践に関し、資機材購入、集会所建設等の支援をする。
- (6) プロジェクト期間を延長し、「モ」国側のさらなる能力強化を図るとともに、アフリカ諸国を対象とする零細漁民普及事業の第三国研修を実現させる。
- (7) CQPM Larache に研修生宿泊施設を併設する。

別添1 プロジェクトPDM (和文)

プロジェクト対象地域: 18名(6校 X3名)の普及員コーディネーター(V/C)が選定した12-18サイト

ターゲットグループ: 零細漁民(男女)

作成日: 2002年3月8日

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
【上位目標】 零細漁民(男女)の社会・経済状況の向上及び沿岸漁業資源を保全する。	1.2010年までに、地域間の所得格差が是正される。 2.2010年までに、沿岸漁業資源に関する知識が指導・啓蒙される。(指標明細A)	1.漁業省5ヵ年計画 2.・普及プログラム(漁業資源)の活動記録 ・技術現地適応化/女性グループ活動促進化事業における、漁業資源の活動事例記録 ・V/C指導報告書	・零細漁民(男女)の生活環境に大きな変化が生じない。 ・漁業省が沿岸漁業資源に関する他の取組も同時に実施される。
【プロジェクト目標】 漁村において効率的な普及システムが構築され、普及活動が行われる。	1.選定サイトにおいて活発に活動を行っているグループの数が増える。(指標明細B) 2.モロッコ政府の普及分野の予算措置と予算執行状況が、プロジェクト開始時に比べ増加する。 3.モロッコ政府独自で実施した普及活動数が、プロジェクト開始時に比べ増加する。	1.・漁民への聞き取り調査 ・V/C指導報告書 ・漁民による自己診断 2.漁業省会計報告 3.漁業省普及活動計画書	・漁業省がプロジェクト成果を生かし、普及制度を整備する。
【成果】 1.零細漁民(男女)の漁家状況(漁業形態、資源、生活状況等)が明らかになる。 2.零細漁民(男女)へ普及するテーマごとの普及プログラムが作成される。 3.V/Cを養成するカリキュラム・教材が作成され、V/Cの技術能力が向上する。 4.サイトにおいて普及活動が展開される。	1.零細漁民の実態及びニーズに合った普及テーマが選定される。(指標明細C) 2.2006年までに6テーマの普及プログラムが充実される。(指標明細D) 3-1.V/Cを養成する研修プログラム(テーマごと及び基礎研修)が充実される。(指標明細E) 3-2.2005年までに3/4のV/Cが基礎研修及び(テーマごとの)普及プログラム研修を修了する。 4-1.2004年までに、2/3のV/Cが普及プログラムのテーマに従って、効果的な移動教室を開催できるようになる。(指標明細F) 4-2.2005年までに、6テーマの普及プログラム内容について、担当サイトにおける漁民の意識が向上される。(指標詳細G) 4-3.2006年までに、V/Cの計画・実施・モニタリング・評価能力が向上する。(指標明細H) 4-4.2006年までに、技術現地適応化/女性グループ活動促進化事業に参加した、漁民の問題解決能力が向上する。(指標明細I)	1.・漁村調査報告書 ・アンケート調査データ・ベース ・活動計画(PO,APO) ・V/C指導報告書 ・漁民への聞き取り 2.・(テーマごとの)カリキュラム ・(テーマごとの)V/C研修用教材 ・(テーマごとの)漁民研修用教材 ・(テーマごとの)移動教室用視聴覚教材 3-1.カリキュラム ・V/Cが行う研修評価記録(テーマごと及び基礎研修) ・基礎研修マニュアル 3-2.プロジェクトによる研修実績記録 4-1.・V/C指導報告書 ・プロジェクトによる巡回指導 4-2.・V/C指導報告書 ・漁民の(テーマごとの)普及プログラム評価記録 4-3.・技術現地適応化/女性グループ活動促進化計画書の内容 ・V/C指導報告書 ・プロジェクトによる巡回指導 4-4.・漁民によるグループ活動自己診断記録 ・V/C指導報告書	

<p>5.普及活動のモニタリング・評価、フィードバックメカニズムが構築される。</p>	<p>5.フィードバックメカニズムが構築される。(指標明細J)</p>	<p>5.・V/C 指導報告書 ・プロジェクト記録(定例連絡会議議事録) ・プロジェクト記録(普及システム諮問委員会議事録)</p>	
<p>【活動】 1.漁家調査を実施し、テーマごと(品質管理、海上安全、ジェンダー、漁業資源等)の現状及び問題点を明らかにする。 1-1.ベースライン調査を実施する。 1-2.漁民にニーズに基づいた、普及テーマを選定する。 2.零細漁民(男女)へ普及するテーマごとの普及プログラムを作成する。 2-1.(テーマごとの)カリキュラムを作成する。 2-2.(テーマごとの)V/C 研修用教材を作成する。 2-3.(テーマごとの)漁民研修用の教材を作成する。 2-4.(テーマごとの)移動教室用視聴覚教材を作成する。 3.V/Cを育成する。 3-1.(テーマごとの)普及プログラム研修を実施する。 3-2-1.基礎研修のカリキュラムを開発する。 3-2-2.基礎研修テキストを作成する。 3-2-3.基礎研修を実施する。 3-2-4.普及員マニュアルを作成する。 4.担当サイトにおいて普及活動を展開する。 4-1.各V/Cの担当サイトを選定する。 4-2.(テーマごとの)移動教室を開催する。 4-3.漁民をグループ化し、技術現地適応化/女性グループ活動促進化事業を計画する。 4-4.組織運営研修(リーダー・会計、識字教室)を開催する。 4-5.先進地視察研修を実施する。 4-6.グループ活動をモニタリングする。 4-7.漁民によるグループ活動事例発表大会を開催する。 4-8.グループ活動を、漁民及びV/Cが自己診断する。 5.普及活動のモニタリング・評価(M&E)、フィードバックメカニズムを開発する。 5-1.V/Cの活動をM&Eするための方法をシステム化する(V/C指導報告書、V/C連絡会議等)。 5-2.普及活動をM&Eする(普及成果報告会の開催、成果集の発行等)。 5-3.5-1~2に基づき、普及プログラムや研修事業を改良する。 5-4.評価結果を次のプログラム開発に反映させる。 5-5.モロッコの普及制度を検討するための諮問委員会を開催する。</p>	<p>【投入】 <u><モロッコ側></u> 1.人材 (1)長期カウンターパート 1)プロジェクトダイレクター 2)プロジェクトマネージャー 3)プロジェクト副マネージャー 4)海洋教育社会職業推進局C/P 5)ララシュC/P (2)短期カウンターパート 必要に応じ派遣 2.施設 日本人専門家の執務室を含むCQPM Larache全体の施設 3.ローカルコスト プロジェクトの活動に係る経費</p>	<p><u><日本側></u> 1.人材 (1)長期専門家 1)チーフアドバイザー 2)業務調整 3)漁民教育 4)水産普及 (2)短期専門家 必要に応じ派遣 2.カウンターパート研修 年間2-3名 3.機材 (1)普及用機材 (2)カリキュラム開発用機材 (3)研修用機材 (4)視聴覚機材 (5)移動教室用車両等 4.ローカルコスト プロジェクトの活動に係る経費</p>	<p>・支局支所、ONP、INRH等現場の協力が継続的に得られる。 ・V/Cが選定したサイトの零細漁民(男女)にプロジェクトが受け入れられる。 ・移動教室用の車両が計画通り供与される。</p> <p>【前提条件】 ・V/Cが普及活動を行う時間、移動手段、手当が確保される。</p>

※指標明細の配布は省略させていただきます。

モロッコ零細漁業改良普及システム整備計画 (PDM 指標明細)

作成日：平成 14 年 3 月 8 日

作成者名：CQPM Larache C/P, DFMPSP C/P, 日本人専門家

指標明細 A

1. PDM 該当部分： <u>上位目標</u> ・プロジェクト目標・成果 (零細漁民(男女)の社会・経済状況の向上及び沿岸漁業資源を保全する。)					
2. 指標：2. 2010 年までに、沿岸漁業資源に関する知識が指導・啓蒙される。					
3. 目標値：2010 年 5 月までにはレベル A となる			基準年：2002 年 (レベル D)		
4. 達成予定年度：	1 年目 (2002 年)	2 年目 (2003 年)	3 年目 (2004 年)	4 年目 (2005 年)	5 年目 (2006 年)
	レベル D	レベル D	レベル C	レベル B	レベル A
5. 指標/目標値の説明 (プロジェクト活動の進捗に従い、漁業資源にむけた指導・啓蒙状況を以下のレベル A~D で判定。)					
レベル A: プロジェクト対象サイト以外においても、モロッコ政府独自で漁業資源に関する普及活動が行われる。					
レベル B: 技術現地適応化/女性グループ活動促進事業にて、漁業資源保全の保全に向けた取組が行われる。					
レベル C: 漁業資源に関する普及プログラムが開発され、移動教室により普及される。					
レベル D: 漁業資源に関する普及活動が十分行われていない。					
6. データ入手及び検証方法 普及プログラム (漁業資源) に関する活動記録、技術現地適応化/女性グループ活動促進事業に関する、漁業資源の活動事例記録、V/C 指導報告書を参考に検証。					
7. 備考 ・漁村調査結果より、漁民の漁業資源保全のニーズは啓蒙活動が実施されていないことから、高くない。漁民が興味のあるテーマを優先すると、漁業資源管理に関するプログラム開発は 2 年目以降になると考えられる。 ・沿岸漁業資源の保全は、単に普及活動のみで解決されるものではなく、漁業省によって、研究開発、漁獲制限、流通開発等、総合的に進めていかなくてはならない事項である。従って、プロジェクトとしての指標は実施可能な内容に留める。					

指標明細 B

1. PDM 該当部分：上位目標・ プロジェクト目標 ・成果 (漁村において効率的な普及システムが構築され、普及活動が行われる。)					
2. 指標：1. 選定サイトにおいて活発に活動を行っているグループの数が増える。					
3. 目標値：2004年には全グループの40% 2006年には全グループの60%				基準年：2002年(0%)	
4. 達成予定年度：	1年目 (2002年)	2年目 (2003年)	3年目 (2004年)	4年目 (2005年)	5年目 (2006年)
	—	20%	40%	50%	60%
5. 指標／目標値の説明（次の6項のうち、4項目以上がYESの場合、「活発に活動を行っているグループ」とみなし、組織化された全グループの割合で判定する。）					
① グループにおける役割（リーダー、会計）が決まっている。					
② V/Cの巡回指導の際に、メンバーの6割が参加する。					
③ グループ内でミーティングが開催されている。					
④ 技術現地適応化／女性グループ活動促進化事業について、メンバーの8割がグループで決定した内容に従って、共同活動を行っている。					
⑤ 漁民自らが自分の活動をモニタリング・評価し、グループ活動を改善できる。					
⑥ グループの構成員が増えている。					
6. データ入手及び検証方法 漁民への聞き取り、V/C指導報告書、漁民による自己診断を参考に検証する。					
7. 備考					

指標明細 C

1. PDM 該当部分：上位目標・プロジェクト目標・ 成果 1 (1. 零細漁民（男女）の漁家状況（漁業形態、資源、生活状況等）が明らかになる。)					
2. 指標：1. 零細漁民の実態及びニーズに合った普及テーマが選定される。					
3. 目標値：2005年5月にはレベルAとなる			基準年：2002年（レベルB）		
4. 達成予定年度：	1年目 (2002年)	2年目 (2003年)	3年目 (2004年)	4年目 (2005年)	5年目 (2006年)
	レベルB	レベルB	レベルA	レベルA	レベルA モロッコ独自で実施
指標／目標値の説明（選定されたテーマの適切度を以下チェックリストに従い、(はい=2, 普通=1, いいえ=0) で評価し、以下のレベルA～Cで判定) レベルA: 適切な普及テーマが選定されている。（判定総合得点 8-10 点） レベルB: より適切な普及テーマの選定をめざす。（判定総合得点 5-7 点） レベルC: 普及テーマの内容を再検討する必要がある。（判定総合得点 0-4 点）					
テーマ選定の適切度 チェックリスト					評価
1. 漁民のニーズと合っているか。					
2. 行政の施策と合致しているか。					
3. 一部の漁民だけでなく、公正に零細漁民（男女）のニーズに合ったテーマか。					
4. テーマの内容は問題解決可能な内容か。					
5. V/Cが漁民との対話を通して、新たな普及テーマを選定できるか。					
総合評価得点					/10
5. データ入手及び検証方法 漁村調査報告書、アンケート調査データ・ベース、活動計画(PO, APO)、V/C 指導報告書、漁民への聞き取り調査を相対的に検証する。					
6. 備考					

指標明細 D

1. PDM 該当部分：上位目標・プロジェクト目標・ 成果 2 (2. 零細漁民（男女）へ普及するテーマごとの普及プログラムが作成される。)					
2. 指標：2. 2006 年までに 6 テーマの普及プログラムが充実される。					
3. 目標値：2005 年 5 月にはレベル A となる 開発テーマ数：6 テーマ 開発内容：各テーマのカリキュラム、V/C 用 教材、漁民用教材、視聴覚教材				基準年：2002 年(0%)	
4. 達成予定年度：	1 年目 (2002 年)	2 年目 (2003 年)	3 年目 (2004 年)	4 年目 (2005 年)	5 年目 (2006 年)
	—	レベル C	レベル B	レベル A	レベル A モロッコ独 自で実施
5. 目標/目標値の説明（開発された普及プログラムの充実度を 3 段階評価（はい=2, 普通=1, いいえ=0）で評価し、総合評価をレベル A~C で判定する。） レベル A: 漁民の現状に合った、よい普及プログラムが開発された。（判定総合得点 15-20 点） レベル B: まあまあ良い普及プログラムが開発された。（判定総合得点 10-14 点） レベル C: 普及プログラムを再検討する必要がある。（判定総合得点 0-9 点）					
普及プログラム 充実度チェック項目					評価
1. C/P と共同でプログラム開発し、C/P が独自で普及プログラムを開発・改良できる様、技術移転をおこなったか。					
2. カリキュラムは無理のないスケジュールとなっているか。					
3. カリキュラムは、漁民の現状を踏まえ、知識を段階的に向上できる内容となっているか。					
4. コミュニケーション手法（普及方法）は適切であったか。					
5. 利用者（V/C 及び漁民）の視点に立って作成されているか。					
6. 予算・人員を考慮した内容になっているか。					
7. 教材（V/C 用、漁民用、視聴覚教材）は理解しやすかったか。					
8. （漁民の）ニーズを満たす普及プログラムの内容となっているか。					
9. 普及システム諮問委員会の結果及び漁民からのリクエストに従って、内容を改良したか。					
10. 漁民（男女）が公正に便益を受けられる内容となっているか。					
総合評価得点					/20
6. データ入手及び検証方法 (テーマごとの) カリキュラム、V/C 研修用教材、漁民研修用教材、移動教室用視聴覚教材の作成状況を検証。					
7. 備考 ・充実度チェック項目 10 は、テーマを開発する際に、零細漁民（男女）の役割について検討したかをチェックする（例：資源管理では、小規模漁船漁業のみでなく、採貝藻漁業についても内容が盛り込まれているか。組織化では女性グループへの働きかけについても章が設けられているか）					

指標明細 E

1. PDM 該当部分：上位目標・プロジェクト目標・ 成果3 (3. V/C を養成するカリキュラム・教材が作成され、V/C の技術能力が向上する。)					
2. 指標：3-1. V/C を養成する研修プログラム（テーマごと及び基礎研修）が充実される。					
3. 目標値：2004年5月にはレベルAとなる			基準年：2002年(0%)		
4. 達成予定年度：	1年目 (2002年)	2年目 (2003年)	3年目 (2004年)	4年目 (2005年)	5年目 (2006年)
	レベルC	レベルB	レベルA	レベルA モロッコ独 自で実施	レベルA モロッコ独 自で実施
5. 指標/目標値の説明（研修プログラムの充実度を3段階評価（はい=2, 普通=1, いいえ=0）で評価し、総合評価をレベルA~Cで判定する。） レベルA: 研修プログラムは充実されている。（総合評価得点 15-20） レベルB: 研修プログラムはほぼ充実している。（総合評価得点 10-14点） レベルC: 研修プログラムを再検討する必要がある。（総合評価得点 0-9点）					
研修プログラム 充実度チェック項目					評価
1. 講義内容（テーマごと及び基礎研修）は現状（V/Cのレベル）に適したものであったか。					
2. V/Cに対するコミュニケーション手法（教授法）は適切であったか。					
3. 研修の日数、場所、回数、時間は適切であったか。					
4. 講師は指導内容に熟知していたか。					
5. 講義内容は解りやすかったか。					
6. 資料・テキストは解りやすかったか。					
7. カリキュラムはV/Cのニーズに合っていたか。					
8. 実践的な内容であったか。					
9. 研修内容は能力差に配慮した内容であったか。					
10. 普及活動の進め方について理解し易く且つ活動意欲を感じるプログラムであったか。					
総合評価得点					/20
6. データ検証方法 カリキュラム、V/Cの研修評価記録、基礎研修マニュアル					
7. 備考					

指標明細 F

1. PDM 該当部分：上位目標・プロジェクト目標・ 成果 4 (4. 漁村において普及活動が展開される。)					
2. 指標：4-1. 2004年までに、2/3のV/Cが普及プログラムのテーマに従って、効果的な移動教室を開催できるようになる。					
3. 目標値：2004年までにはレベルBとなる				基準年：2002年(0%)	
4. 達成予定年度：	1年目 (2002年)	2年目 (2003年)	3年目 (2004年)	4年目 (2005年)	5年目 (2006年)
	—	レベルC	レベルB	レベルA	レベルA モロッコ独自で実施
5. 指標／目標値の説明（プロジェクト活動の進捗に従い、V/Cの移動教室開催能力を以下のレベルA～Eで判定） レベルA：プログラムの内容・教材のほぼ全てが活用され、それぞれの地域に合った形で開催されている。 レベルB：プログラムの内容・教材のほぼ全てがそのままの形で活用されている。 レベルC：プログラムの一部は活発に活用されているが、活用されていない部分も多い。 レベルD：プログラムを一応参考にされているが、指導どおりに開催していない。 レベルE：プログラムの内容・教材は全く活用されず、指導どおりに開催していない。					
6. データ入手及び検証方法 V/C指導報告書、プロジェクトによる巡回指導					
7. 備考					

指標明細 G

1. PDM 該当部分：上位目標・プロジェクト目標・ 成果 4 (4. 漁村において普及活動が展開される。)					
2. 指標：4-2. 2005年までに、6テーマの普及プログラム内容について、担当サイトにおける漁民の意識が向上される。					
3. 目標値：2004年5年までにはレベルAとなる				基準年：2002年(0%)	
4. 達成予定年度：	1年目 (2002年)	2年目 (2003年)	3年目 (2004年)	4年目 (2005年)	5年目 (2006年)
	レベルC	レベルB	レベルA	レベルA モロッコ独自で実施	レベルA モロッコ独自で実施
5. 指標/目標値の説明（漁民の普及プログラム（移動教室）事業をとおしての意識の向上度合いを3段階評価（はい=2, 普通=1, いいえ=0）で評価し、総合評価をレベルA~Cで判定する。 レベルA： 漁民の意識は向上している。（総合評価得点 8-10 点） レベルB： 漁民の意識は多少向上している。（総合評価得点 5-7 点） レベルC： 漁民の意識は全く向上されていない。（総合評価得点 0-4 点）					
意識向上度合い チェック項目					判定
1. 普及プログラムの参加率が高まっているか。					
2. 普及プログラムでテーマに関する知識が増えたか。					
3. プログラムをとおして、普及活動あるいはV/Cに親密感を感じたか。					
4. 普及プログラムの内容をとおして、漁民とV/Cの問題の共有化がなされたか。					
5. 問題の共有化がなされた漁民とV/Cの改善に向けた取組姿勢がみられたか。					
総合評価得点					/10
6. データ入手及び検証方法 V/C 指導報告書、漁民の（テーマごとの）普及プログラム評価記録					
7. 備考					

指標明細 H

1. PDM 該当部分：上位目標・プロジェクト目標・ 成果4 (4. 漁村において普及活動が展開される。)					
2. 指標：4-3. 2006年までに、V/Cの計画・実施・モニタリング・評価能力が向上する。					
3. 目標値：2006年5月にはレベルBとなる				基準年：2002年(0%)	
4. 達成予定年度：	1年目 (2002年)	2年目 (2003年)	3年目 (2004年)	4年目 (2005年)	5年目 (2006年)
	—	レベルD	レベルC	レベルC	レベルB
5. 指標/目標値の説明(プロジェクト活動の進捗に従い、V/Cの活動計画・実施・評価能力を3段階評価(はい=2, 普通=1, いいえ=0)で評価し、総合評価をレベルA~Dで判定する。) レベルA: 2/3以上のV/Cの総合評価得点が15点以上となる レベルB: 1/2以上のV/Cの総合評価得点が15点以上となる。 レベルC: 1/2以上のV/Cの総合評価得点が10-14点となる。 レベルD: 1/4以上のV/Cの総合評価得点が10点以上となる。					
V/C活動計画・実施・評価能力 チェックリスト					評価
1. 零細漁民(男女)とV/Cの間に信頼関係が築かれているか。					
2. 担当サイトの社会(ジェンダー)・経済的な背景を考慮した計画となっているか。					
3. 活動内容は、対象漁民(男女)と共に計画され、活動内容について共通の認識が得られているか。					
4. 予算内で効果的な活動が出来る内容となっているか。					
5. V/Cは事業課題の改善に向けた(改善策、適正技術、適切指導方法)を身に付けているか。					
6. V/Cは事業の進捗に従い、適切な指導・助言を行っているか。					
7. 80%のメンバーが自ら計画した事業に参加しているか。					
8. 関係機関との連携が考慮されているか。					
9. 事業の評価、改善点を明確にし、次年度にむけて展開が具体化されているか。					
10. (漁民の視点より)普及員の指導方法は適切であったか。					
総合評価得点					/20
6. データ入手及び検証方法 技術現地適応化/女性グループ活動促進化計画書の内容、V/C指導報告書、プロジェクトによる巡回指導					
7. 備考					

指標明細 I

1. PDM 該当部分：上位目標・プロジェクト目標・ 成果 4 (4. 漁村において普及活動が展開される。)					
2. 指標：4-4. 技術現地適応化/女性グループ活動促進事業に参加した漁民の問題解決能力が向上する。					
3. 目標値：2005年5月にはレベルBとなる				基準年：2002年(0%)	
4. 達成予定年度：	1年目 (2002年)	2年目 (2003年)	3年目 (2004年)	4年目 (2005年)	5年目 (2006年)
	—	レベルD	レベルC	レベルB	—
5. 指標/目標値の説明(プロジェクト活動の進捗に従い、技術現地適応化/女性グループ活動促進事業に参加した漁民の問題解決能力を以下のレベルA~Dで判定) レベルA: 問題解決能力は向上している。(総合評価得点18-20点) レベルB: グループ間で解決策を見出せるものもある。(総合評価得点15-17点) レベルC: グループ活動が活発化しているが、問題解決能力は低い。(総合評価得点10-14点) レベルD: グループ活動を始めた段階で問題解決能力はない。(総合評価得点0-9点)					
漁民(男女)の問題解決能力 チェックリスト					評価
1. 漁民間に現状を改善する意欲があるか。					
2. メンバー間で問題の共有化はなされているか。					
3. 問題を解決するための、技術的手段を知っているか。					
4. 問題を解決するために、外部ソース(技術者、機関)を知っているか。					
5. 情報収集能力はあるか。					
6. グループの企画力(活動計画)はあるか。					
7. 運営能力(予算管理、定例会議、議事録)はあるか。					
8. 活動計画に従って、メンバーの8割がグループで決定した内容に従って、共同活動を行っているか。					
9. 活動内容の波及性はあるか。					
10. メンバーが自分の活動をモニタリング・評価し、グループ活動を改善できるか。					
総合評価得点					/20
6. データ検証方法 漁民によるグループ活動自己診断記録及びV/C指導報告書					
7. 備考 ・これまで漁業省で実施してきた普及活動は漁民の問題解決能力を向上させるものではなかった。本プロジェクトで新たに取り組む。					

指標明細 J

1. PDM 該当部分：上位目標・プロジェクト目標・成果5 (5. 普及活動のモニタリング・評価、フィードバックメカニズムが構築される。)					
2. 指標：5. フィードバックメカニズムが構築される。					
3. 目標値：2006年5月にはレベルAとなる				基準年：2002年（レベルC）	
4. 達成予定年度：	1年目 (2002年)	2年目 (2003年)	3年目 (2004年)	4年目 (2005年)	5年目 (2006年)
	レベル C	レベルC	レベルB	レベルB	レベルA
5. 指標／目標値の説明（プロジェクト活動をモニタリング・評価するフィードバックシステムの状況が下記のチェック項目に従って、評価を行い、その状況を以下のレベルA～Cで判定する） レベルA： チェック項目の6つを満たす。 レベルB： チェック項目の4を満たす。 レベルC： チェック項目の3以下を満たす。					
フィードバックシステム チェック項目					
運営面	1. 各 V/C が普及活動を行える様、他業務との調整が各学校で調整されている。				
	2. 報告書（V/C 指導報告書、活動計画、その他）は定期的に提出されている。				
	3. V/C 連絡会議を開催し、各学校より V/C が参加している。				
	4. 報告書、連絡会議結果等の情報が関係部局（DFMPSP, CQPM, CPF 等）へ流れている。				
	5. 活動成果報告会の開催、活動事例集の発行が毎年なされている。				
	6. 普及活動を改善・検討していく委員会／部局（普及システム諮問委員会）が機能している。				
財政面	7. DFMPSP 及び各学校に普及活動を行う予算（車両、活動費、待遇、他）がプロジェクトによって確保されている。（回答待ち）				
6. データ入手及び検証方法 V/C 指導報告書、プロジェクト記録（定例連絡会議議事録）、プロジェクト記録（普及システム諮問委員会議事録）。					
7. 備考					

上記の、指標明細は、プロジェクトの進捗に従い、日本側、モロッコ側双方の了承の上、見直しを行う。

別添2 評価グリッド (和文)

評価グリッド・調査結果表

評価5項目による評価

評価項目	調査項目	必要な情報・データ(指標)	情報源	調査方法	調査結果	判定*
妥当性	上位目標の妥当性	1. 上位目標はモロッコの開発政策に合致しているか	国家経済社会開発計画等	資料レビュー、実施機関聞き取り	開発政策は、漁業省経済社会発展5ヵ年計画(99-03)を基本に進めて来ている。本プロジェクトは、2003年10月16日に故ハッサンII及びFAOから優良案件奨励賞を受賞している。2004からの新五ヵ年計画においてもこの方針は継続される見通しである。	A
		2. 上位目標は零細漁民のニーズに合致しているか。			プロジェクトでは初年度にベースライン調査を実施して受益者ニーズを明らかにし、それを下に活動計画を作成している。本プロジェクトの上位目標は受益者ニーズに整合する。	A
	プロジェクト目標の妥当性	1. プロジェクト目標は上位目標達成に有効に貢献するか。			プロジェクト目標は「漁村において効果的な普及システムが構築され普及活動が行われる」ことであるが、普及すべきテーマはベースライン調査に基づき、零細漁民のニーズに合致し、上位目標と整合性のあるテーマが選択されている。本プロジェクトは上位目標に貢献するべく計画されている。	A
		2. プロジェクト目標は零細漁民のニーズと整合性があるか。			プロジェクト計画はベースライン調査に基づき計画されており、零細漁民のニーズと整合性がある。	A
		3. プロジェクト目標は CQPM Larache あるいは DFMPSP のニーズ、業務内容と整合性があるか。			CQPM Larache の本プロジェクト担当部門はCNVとして独立することになっている。CNVの目的、業務内容と本プロジェクトのな目的、業務内容は同一の方向を目指している。	A
	プロ目、上位目標は我が国の援助方針に合致しているか	・プロジェクト開始後プロジェクトの方向性に影響を与えるような日本政府あるいはJICA本部の方針の変更はあったか	援助方針、国別事業実施計画	資料レビュー	<ul style="list-style-type: none"> 平成15年8月29日閣議決定された新政府開発援助大綱では重点課題の筆頭に「貧困削減」をあげている。 2000年9月の経済協力政策協議においては、対モロッコ協力の重点分野として以下の6分野が確認されている。 <ul style="list-style-type: none"> ① 農業及び水産業の開発・振興。 ② 農業用水、飲料水確保のための水資源開発。 ③ 基礎インフラの整備。 ④ 地方開発による地域格差是正。 ⑤ 環境。 ⑥ 社会開発支援 我が国はモロッコと漁業協定を締結しており(1985年以降毎年更新)、水産分野での協力は我が国の方針に合致している。 零細漁業改良普及を通じ、零細漁民の社会・経済状況の向上及び沿岸資源の保全を目指す本プロジェクトは上記我が国のODA基本方針及び対モロッコ協力の重点分野と整合性がある。 	A
	プロジェクト計画の妥当性	PDMに示された上位目標、プロジェクト目標、成果、活動、投入の関係は適切に設定されているか。			<p>計画はおおむね適切に設定されている。</p> <p>なお、細かく見るとPDMの細部にはいくつかの問題点が見られ、関係者の理解が異なる危険がある。しかし、これらは運用で解決できる問題であり、モロッコ側、日本側とも現時点でPDMの改訂の必要は感じていないが、理解の相違が表面化した点に関しては関係者間で協議の上共通理解を確立し文書化しておくことが望ましい。</p> <p>例えば以下のような議論がこれまでだされそれぞれ関係者間で議論されて解決しているが今後人が変わって同じ議論が蒸し返されないように何らかの形で文書化しておくことが望ましい:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上位目標にかかれた地域間格差是正よりもこのプロジェクトにおいては零細漁民の所得向上(あるいは生計向上)とする方が妥当ではないか。結論: その通りであり、その認識を進めてよい。 2. このプロジェクトでは普及システムの構築だけで実際の普及活動は含まれないのではないか。結論: 普及活動が一番難しいのは漁民との接し方であり、これは教室で会得するのは困難であって実際の普及活動のなかで習得されるべきものである。やってみることが重要。 3. PDM上位目標及びプロジェクト目標の行にかかれた外部条件はそれぞれプロジェクト目標及び成果の行にかかれるべきものではないか。結論: その通り。 	B
	カウンターパート機関選定の妥当性	カウンターパート機関としてCQPM Laracheを選定したことは適切であったか。			CQPM Laracheは、漁業省により零細漁民、沿岸漁民に対する普及活動の全国センターに選定された機関である。適切な選択であった。	A
	公平性の観点から妥当であるか	・効果の受益や費用の負担が公平か、TG以外への波及性はあるか、等	合同委員会議事録 実施機関、専門家	資料レビュー 聞き取り	・プロジェクト活動の直接の対象はV/Csが選定した14サイトであるが、プロジェクトによって普及システムが確立されればその裨益はモロッコ全国に及ぶ。公平性は確保されている。	A

* 判定基準:
A: very positive. B: positive. C: neutral. D: negative. E: very negative

評価グリッド・調査結果表

評価5項目による評価

評価項目	調査項目	必要な情報・データ(指標)	情報源	調査方法	調査結果	判定*	
	他のプロジェクトとの整合性	・他のプロジェクト(各国や日本あるいはモロッコ自身による他の援助プロジェクト等)との重複、補完状況	専門家 実施機関	聞き取り	・日本以外の協力 水産漁業展では、スペイン政府よりCQPM-Larache校へ救命ボートの寄贈があった例があるが水産分野におけるモロッコへの協力は下記日本によるものが圧倒的である。 ・JICAによる水産分野の協力 (1) 無償資金協力 1979年漁業技術者養成計画に500百万円の無償資金協力を実施した。その後1984年以降漁業振興計画、アガディール漁業高等技術学院拡充計画、沿岸漁業振興計画、漁船修理ドック建設計画、漁業訓練船建造計画、ララッシュ漁業技術訓練センター建設計画等に毎年3-15億円の水産分野無償資金協力を実施している。 (2) プロジェクト方式技術協力 これまでに水産専門技術訓練センター計画(アガディール高等漁業技術学院、1994.6~2001.6)及び高等海事学院(カサブランカ高等海事学院、1996.4~2001.3)2件の水産分野プロジェクト方式技術協力を実施している。 (3) 開発調査 零細漁村振興計画調査(1996.11~1998.7)を実施している。 本プロジェクトは上記これまでのJICAによる水産分野への支援の成果を活用しより効果あらしめるプロジェクトであり、競合・重複はなく、妥当なプロジェクトである	A	
	日本の技術の優位性はあるか	・日本の技術はモロッコ(実施機関)のニーズにできるものか	専門家 実施機関	聞き取り	・モロッコに水産分野での技術協力を行える国は限られている。我が国は水産分野の多方面でモロッコが必要とする技術を供与できる。特に零細沿岸漁業に関しては日本が圧倒的に優位性をゆうしており、また水産分野の普及制度におけるノウハウの蓄積度も高い。	A	
評価:以上の通り多くの視点から見て本プロジェクトの妥当性は高い。						A	
有効性	プロジェクト目標の達成の度合い	プロジェクト目標はどの程度達成されたか	専門家 CP 実施機関	資料レビュー 実施機関聞き取り、質問票	主として今後の活動による成果4及び成果5の達成の度合いが現時点では判断できず、結果としてプロジェクト目標の達成は今後の進捗にかかっている。	B	
	プロジェクトの成果の貢献度	成果の達成度はどの程度か			成果1, 2, 3はおおむね計画通りの進捗を見せており、プロジェクト終了時までには、すべて所期の成果が達成できると思われる。 成果4及び成果5は若干の遅れが見られる。原因または理由として、水産普及に関する経験がモロッコにおびて開始時点で皆無に近く、報告書作成の不慣れ等が考えられるが今後の現場実地研修やミニプロジェクトの推進により終了時までにはおおむね達成できると思われる。	B	
		プロジェクト目標達成における成果の貢献度はどの程度か。(プロジェクト目標達成の度合いが高いとして、それは本プロジェクトの実施の結果だと見えるか。他に大きな要因があるか。)				これまではプロジェクト活動の重点は基盤整備におかれ、プロジェクト目標に直結する成果の発現は後半に集中して現れてくると思われる。現在のところすべての成果は一様にプロジェクト目標の達成にむけて貢献するように計画されており、有効性は高いものになると判断されるが、結果の判定は今後の活動にまつ。	B
	外部要因	・漁業省がプロジェクト成果を生かし、普及制度を整備しようとしているか。				CQPMララッシュ校の普及担当部門を中心として普及員66名体制の構築し、零細漁業普及の全国展開を検討している。	B
		成果の達成以外にプロジェクト目標の達成に貢献した外部要因は何か。				本プロジェクトがFAOにより優良プロジェクトとして表彰されたこと、また国内的に優良プロジェクトに与えられるハッサン2世賞を受賞したこと、CQPMララッシュにより実施されている零細漁民の識字教育がユネスコから表彰されたこと等により漁業省幹部の注目をあびたことは貢献要因となる。	A
		プロジェクト目標の達成を妨げる要因(内部要因、外部要因)は何か。				(1) 零細漁民の漁獲の販路、価格が仲買人にコントロールされていること、(2) 移動漁民の存在 (3) 零細漁民と沿岸漁民の漁場摩擦等は阻害要因となる可能性がある。(1)、(2) については漁民組織化の推進による対応(内部条件化)が考えられるが(3) については対応策のさらなる検討が必要である。	B
評価:これまでの活動はプロジェクトの基盤整備に重点がおかれ、プロジェクト目標に直結する成果に関連した活動(普及活動の実践を通じてC/Pの能力を強化する活動)の多くが後半に予定されていることから、これらの成果の発現は後半に集中して現れてくる予定である。現在のところすべての成果は一様にプロジェクト目標の達成にむけて貢献するように計画されており、有効性は高いものになると判断されるが、プロジェクト目標の達成度及び有効性の結論は今後の努力と効率的活動によるところが大であり現時点で結論を出すのは時期尚早である。なお、国際機関等により本プロジェクトが表彰され、注目をあびたという追い風もある。						B	

* 判定基準:
A: very positive. B: positive. C: neutral. D: negative. E: very negative

評価グリッド・調査結果表

評価5項目による評価

評価項目	調査項目	必要な情報・データ(指標)	情報源	調査方法	調査結果	判定*
効率性	投入の適切さ					
	日本側投入	長期専門家			ほぼ計画通りの派遣が実施され、人数、専門分野、派遣期間、派遣時期、質ともおおむね適当であった。なおチーフアドバイザーが約1年間不在となったこと、仏語に堪能な専門家が少なかったためカウンターパートとのコミュニケーションに時間を要したことはプロジェクト活動にとってマイナス要素ではあったが、他の日本人専門家やモロッコ側カウンターパートの努力によりカバーされプロジェクト実施の効率性は確保されている。	B
		短期専門家			ほぼ計画通りの派遣が実施され、人数、専門分野、派遣期間、派遣時期、質ともおおむね適当であった。なお、当然ながら短期専門家は総じて重要なテーマを担当しており、その機能を最大限発揮させるためには派遣実施前に日本側とモロッコ側の十分なすりあわせが必要である。	B
		カウンターパート研修			カウンターパートの日本研修は、漁業省やCQPM幹部(校長、副校長)のプロジェクト理解をすすめる上で非常に有効であった。なお、これまではC/Pがすべてであったが、今後は準C/Pであり、実際の活動の中心となるV/Cの研修が多くなる予定である。	A
		機材供与			機種、仕様、数量、供与時期ともだいたい適当でありよく活用されている。特に車両は、活動上の必需品でありよく活用されている。	B
		運営経費			だいたい適当であった。今後はミニプロジェクト関連経費の増加が予測される。	B
	モロッコ側投入	長期カウンターパート			人数面では、計画通りのカウンターパートが配置された。しかしカウンターパートの多くは訓練校教官等の業務との兼務であり、非常な激務となっている。今後は作業量のさらなる増大が予測され、選任カウンターパートの増加が望まれる。	B
		短期カウンターパート			ベースライン調査や教材の作製に適材が配置され極めて有効であった。	A
		施設			以前職員官舎であった一棟が本プロジェクトのための専門棟に改装・提供された。適当であった。	B
		運営経費			ほぼ計画通りの投入がなされた。プロジェクト後半においては終了後の自立発展性を考慮しC/PやV/Cの出張旅費そのた運営経費の負担増が期待される。	B
	成果の達成度	・計画通りの成果が出ているか。 ・成果は投入された資源量に見合っているか			現在までのところ、投入量に見合って成果1, 2, 3は順調に発現してきている。従いプロジェクトの効率性は確保されているといえるが、重要な成果(成果4, 5)の期限内達成は微妙な状況にあり、プロジェクト後半の活動にかかっている。	B
	モロッコ側のオーナーシップ	当事者意識等			漁業省幹部の本プロジェクトへの関心は高く、カウンターパートの意欲も高いものがある。	A
	実施支援体制の効率性	合同調整委員会は機能したか			関係者間の理解促進・支援獲得面で有効であった。今後は決定権限をもつより上位の関係者の参加が期待される。	B
		国内支援委員会は機能したか			特に問題は生じていない。	B
<p>評価: 現在までのところ、投入量に見合って成果1, 2, 3は順調に発現してきている。しかしながら成果4, 5の達成は2004年度、2005年度の活動にかかっているため最終的な効率性は今後の進展を見て判断する必要がある。</p>						B
インパクト	上位目標達成の見込み	・零細漁民(男女)の社会・経済状況の向上の見通し。 ・普及活動は沿岸漁業資源の保全に役立っているか	実施機関、専門家、カウンターパート、漁民	聞き取り	現時点では普及システムの基盤が整備されつつある段階であり、上位目標への貢献が目に見えるようになるためには、個々の地方事情に対応した普及活動の推進結果をまつ必要がある。目指す方向に進みつつあることは確かであるが上位目標がいつ達成できるかを判断するのは時期尚早である。	=
	漁業省の政策への影響	本プロジェクトは漁業省の組織、制度、予算等に対して何らかのプラスあるいはマイナスの影響を与えたか。あるいは与える可能性があるか。	漁業省、実施機関、専門家、カウンターパート	聞き取り	普及に関する各種普及手法を熱心に受け止めている。全国普及センターの基盤が確保され、揚浜政策推進の意識が高まっている。普及制度全国展開政策が2004年度からの次期五カ年計画のなかでも示されるものと期待される。	A

* 判定基準:
A: very positive. B: positive. C: neutral. D: negative. E: very negative

評価グリッド・調査結果表

評価5項目による評価

評価項目	調査項目	必要な情報・データ(指標)	情報源	調査方法	調査結果	判定*
	零細漁民への影響	プロジェクトは零細漁民の意識、態度、生活に対し何らかの影響を与えたか。	実施機関、専門家、カウンターパート、漁民	聞き取り、質問票	移動教室に対する漁民の関心は高い。しかし、普及活動がようやく動き出した所であり、具体的な影響が出るまでに時間がかかる。	B
	グローバルイシューへの何らかのインパクトはあったか。(ありそうか。)	貧困削減面、女性の社会参加面等。	実施機関、専門家、カウンターパート、漁民		零細漁民の所得向上はまさに貧困削減そのものであり、本プロジェクトが狙う方向である。他方女性の社会参加に関してはプロジェクトでは常に意識しているが現在ではまだハードルが高い。	C
	その他	その他何らかのプラスあるいはマイナスの影響は見られるか。(出てきそうか。)			本プロジェクトで実施を始めた移動教室は他の省庁の注目を浴び、厚生省等でも導入の検討が始まった。	B
	評価: 上位目標の達成を含め、本プロジェクトのインパクトについてはプラスの芽が出始めているがその度合いを評価するのは時期尚早である。なお、今のところマイナスのインパクトの可能性は見あたらない。					
自立発展性	制度的側面	政策的支援、スタッフの配置・定着状況、類似組織との連携、運営管理能力等の観点	実施機関、専門家、カウンターパート	聞き取り	ララシュCQPMにおける本プロジェクトの担当部門がVPA(零細漁民普及)からCNV(全国普及センター)に昇格されたが、CNVになって、その役割・活動範囲が明確に文書化されていない。自立発展性の確保のためにはCNV(Centre National de Vulgarisation)の役割、目標、等、明確化するとともに、専任カウンターパートの増員が必要がある。	C
					計画では、プロジェクトの技術資料の完了(2006年以降)を待って、現V/Cが所属校にて普及員養成コースを設置し、最少66名の普及員養成を目指すとしている。	
	財政的側面	必要経費の資金源、公的補助の有無、自主財源、経理処理状況等の観点	実施機関、専門家、カウンターパート	資料レビュー 聞き取り	カウンターパート等モロッコ側要員の人件費、光熱水道費、施設費等はこれまでもすべてモロッコ側が負担している。その他活動経費としては、カウンターパート(V/Cを含む)旅費のうち、2003年度は25%、2004年度は50%をモロッコ側が負担することになっている。プロジェクト終了後の自立発展を考えるとこれまでJICAが負担していた経費を順次モロッコ側負担に切り替えていく必要があり、他方今後現場での活動が増えていくこと、普及員66名体制に向かって人件費が増大していくこと等を考慮すると必要経費総額も増加していく懸念がある。ララシュCQPMは元来教育・訓練機関であり普及機関ではなかったこともあり、普及活動のための予算枠はなかつたが2004年度より少額ながら普及分野関連の予算枠がもうけられることになったことはモロッコ側の熱意を示すものとして注目される。今後の予算配分額について、現時点では確かな展望が見えないが本プロジェクトの今後の成果が将来の予算配分に大きく影響すると思われる。	B
	技術的側面	移転された技術の定着状況、施設・機材の保守管理状況、現地の技術的ニーズとの合致状況等の観点	実施機関、専門家、カウンターパート、漁民	聞き取り	普及の対象となる技術(船用機器等)についてはモロッコ側に既に十分な技術の蓄積がある。他方それらの技術を普及する技術については、現時点ではV/C研修により理論が理解された段階である。今後実際に移動教室やミニプロジェクトの実践を通じて経験を積み重ねることにより、知識と技能が初めて身に付くものであり、今後のOJTにより強化する必要がある。	B
	資機材の維持管理	・資機材は適切に維持管理されているか ・部品、消耗品、燃料、紙等活動に必要な物資の入手方法・入手ルート・資金に問題はないか(特に入手に困難が予測される必要資材はあるか)	実施機関、専門家、カウンターパート、漁民	聞き取り	供与機材はおおむね適切に管理されている。しかし電圧の不安定等外部要因により問題が生じているケースが見られるが、適切な遮断設備の設置等防衛策をとることにより外部条件の内部化をはかる必要がある。	B
評価: 現時点ではプロジェクト終了後のモロッコにおける水産普及の枠組み(制度、組織、予算、人員等)がはっきり見えておらず、また技術面では普及対象技術においては十分な蓄積があるが普及の技術についてはプロジェクト後半の活動によりさらなる強化が必要である。プロジェクト終了までに自立発展性の一層の強化に向けての努力が望まれる。						B

* 判定基準:
A: very positive. B: positive. C: neutral. D: negative. E: very negative

別添3 プロジェクトに対するアンケート結果

モロッコ王国「零細漁業改良普及システム整備計画」
運営指導（中間評価）調査
専門家向け質問票

JICA 評価ガイドラインに従い評価グリッドを作製し、頂いた資料に従い埋めて見たものを添付します。ご覧のとおり空欄が多く残っています。以下の質問項目は、これを埋める目的で作製したものです。JICA 評価ガイドラインでは、中間評価では、プロジェクトが計画(すなわち PDM)に従い順調に進捗しているか、プロジェクト目標、上位目標が達成される見通しはどうか、評価 5 項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)の観点から問題はないか、を調査し、その結果に基づき、計画の手直し・軌道修正の必要はあるか、を調査する事を目的としています。専門家の方に対する質問を以下のとおり用意しました。ご回答の程宜しくお願い致します。(評価グリッドを埋めることを目的としていますので以下の質問に回答いただいてもあるいは添付グリッド案に直接埋め込んでいただいてもかまいません)。

なお、現行の JICA プロジェクト評価のガイドラインは 2001 年 9 月に制定されており、本プロジェクトの計画はそれ以前に策定されたため当時の PDM には現行ガイドラインと整合していない面もあり、回答困難な項目もあろうかと思えます。その場合は回答困難な理由あるいはご意見等をお書き頂ければ幸甚です。また御担当外の事項等で回答が不可能あるいは困難な設問に関しては回答欄を空欄とし、回答可能な項目のみ回答ください。(設問内容がプロジェクト全般にわたっている場合、たとえば「進捗は順調か」といった設問ではまずご自分の担当分野については「順調」か、「否」かお答えいただき、担当分野以外については特にご意見がおりの場合にのみコメントをお書きいただき、特に無ければ「わからない」あるいはノーコメントとしていただければ結構です。

回答者： 藤田 多佳夫 _____

指導分野：X チーフ・アドバイザー

- 業務調整
- 漁民教育
- 水産普及
- その他 (短期専門家等)

A. 達成度グリッドに関して

A1. 前提条件

1. PDM においては、前提条件が満たされるまでプロジェクトは、開始してはならないのが原則です。本プロジェクトの前提条件 「V/C が普及活動を行う時間、移動手段、手当が確保される。」は満たされましたか。

() プロジェクト開始前に満たされた。() 開始時には満たされていなかった現在は満たされている。(X) 現在、まだ満たされていないがプロジェクト活動への影響は小さい。() 満たされておらずプロジェクト活動への大きな支障となっている。

説明・コメント：現時点における普及用視聴覚機器搭載車の配備がタンタン・サーフィーの 2 台。内、サーフィーは、V/C 所属先事務所 (ITPM) の移転があり、通常の活動状況となっていなかった。車輛配備されていない地区は、最短の漁村でも数 10 キロ距離があり、普及活動範囲が限られている。今後の配備予定で、徐々に解消予定である。

A2. 投入

1. 日本側の投入 (これまでの実績及び決定済みの今後の予定)

(1) 長期専門家

派遣期間をお知らせください。

チーフアドバイザー※小林が回答

調整員※小林が回答

漁民教育※小林が回答

水産普及

(2) 短期専門家

各短期専門家の指導分野と派遣期間をお知らせください。

※小林が回答

(3) カウンターパート研修

各カウンターパートの研修期間と主要研修テーマをお知らせください。

※小林が回答

(4) 機材供与

年次別供与金額及び主要供与機材をお知らせください。

※小林が回答

(5) 現地運営経費

年次別、予算枠別現地経費の額をお知らせください。

※小林が回答

2. モロッコ側の投入

(1) 長期カウンターパート

PDM に記載された5種類のカウンターパートの年次別配置人数をお知らせください。2001年(2)、2002年(2)、2003年(4)

(2) 短期カウンターパート

年次別配置人数と担当業務をお知らせください。2001年(7:基礎調査5、調査表調整2) 2002年(9:Workshop/組織化・船外機) 2003年(9:Workshop/安全航海・品質衛生)

(3) ローカルコスト

年次別モロッコ側負担額をお知らせください。2001、2002(0)、2003(25%減)、2004(50%減予定)

A3 成果の実績

1. 「PDM 指標明細」に従い成果各項目の現時点(2003 年末)における到達レベル及びプロジェクト終了時の到達見込みレベルをお知らせください。

成果の指標	中間評価時点到達レベル		プロジェクト終了時到達レベル	
	計画	実績	計画	見込み
1	B	B	A	A
2	C	B	A	A
3-1	B	B	A	A
4-1	C	C-D	A	B
4-2	B	B	A	B
4-3	D	D	B	B-C
4-4	D	D	B	B-C
5	C	C	A	B

2. プロジェクト終了時まで計画レベルの達成が不可能あるいは困難と思われる成果があればその理由と考えられる対応策(計画変更を含む)をお書きください。

- ・ 達成困難な成果: 4-2以降5まで
- ・ 原因または理由: 普及車輛配備次第・普及活動の不慣れ・報告書作成の不慣れ

- ・考えられる対応策：現場実地研修・ミニプロジェクトの推進

A4. プロジェクト目標の達成度

1. PDM 指標明細 1. によれば 2003 年における「選定サイトにおいて活発に活動を行っているグループ」の数は全グループの 20%となっています。現状は何グループあり何パーセントでしょうか。

() グループ数 () %

説明・コメント：対象の漁村までの距離数 10 Km が普通である。早期車両配備が待たれる。

2. 指標 2 および 指標 3 にの数値を入れてください。

	普及分野政府予算	モロッコ政府が独自に実施した普及活動数
2000		
2001		
2002		
2003		
2004 見込み		

説明・コメント：資料入手努力中。現状にては、1999-2003年の5ヵ年計画書のみ。

3. プロジェクト目標達成の見込み

- () 現在の活動を継続することにより終了時まで達成すると思われる。
- () 現在の継続では達成困難であり、達成のためには軌道修正が必要。
- () 多少の修正では達成困難であり、目標値の変更等大幅な修正が必要。
- (X) 達成困難だが目標は修正すべきではなく期間の延長が必要。

説明・コメント：これまでは、実地研修を含めシステムのフレームワーク・基礎研修が主体であった。今後は、現地実地研修、現場における実用化研修を主体とする普及形態を採用する必要がある。現在普及員を将来養成するであろう教員を対象に技術移転がなされており、普及員養成コースを開設し、実際普及員が誕生するのが、2年間教育として、2006年以降である。

A5. 上位目標達成の見込み

1. 地域間の所得格差是正に向かって前進しつつあることを示す事実が見られればお書きください。

コメント：

2. 沿岸漁業資源保全が前進していることを示す事実があればお書きください。

コメント：

3. 外部条件 達成の見込み

- () 零細漁民の生活環境に大きな変化が生じない見込みである。
- (X) 多少の変化は見込まれるが上位目標達成に影響をあたえるほどではない。
- () 大きな変化が予測され上位目標達成に影響を与えられる。

説明・コメント：上位目標達成には更に数年の延長が示唆される。普及業務の特徴である。

(X) 漁業省が沿岸漁業資源に関する他の取り組みも同時に実施する見込みである。

() 漁業省の取り組みは不十分で上位目標達成に悪影響を及ぼすと思われる。

説明・コメント：簡易船着場 PDA の建設目標を 66 箇所、各政府機関代表 19 箇所を中心に、零細漁業をカバーさせる。としている。

B. 実施プロセスに関して

1. 別添「実施プロセスグリッド」記載の各項目に関してご意見・コメントを記入ください。

同様の質問の繰り返しが多く、一本化していただきたい。

C. 五項目評価に関して

C1. 妥当性（PDMに示された「成果」「プロジェクト目標」「上位目標」は評価時においても目標として意味を持つか。モロッコの国策、受益者のニーズ、日本側方針等）

1. 上位目標に関して

(1) 「中間評価調査表 III 評価結果要約 4計画の妥当性」では「開発政策は、漁業省経済社会発展5カ年計画（99-03）を基本に進めて来ている。」ので妥当性があるとしていますが、本プロジェクトは同五カ年計画中のどの部分に照らして妥当性があるとされるのでしょうか。

説明：第1部漁業部門の分析診断、漁業資源・零細漁船・海藻採取・訓練教育・国内消費・安全の項。その他、平成10年7月零細漁村振興計画調査。

(2). 同じく「中間評価調査表 III 評価結果要約 4計画の妥当性」では、「受益者ニーズをベースに進めている関係から、本ステージまでは整合する。」とかかれています。このことは、ベースライン調査に基づき普及6項目を選定した経緯からもうなずけますが、実際に活動を開始してみた結果として、選定6項目の内容に修正の必要は感じられますか。

コメント：修正は、要しない。

(3) 実際に沿岸漁民への普及のニーズとして、“あなた自身”が確認している普及のアイテム（船外機講習、安全航海・・・）を教えてください。

コメント：零細漁民用の漁船は（南部3-4名、北部2名の乗り組み）船外機の故障が多く、出漁の出来ない船が多い。また、操業途中で、故障することもあり、非常に危険な状態にある。凡そ50%が故障ないし何らかのメンテ上の問題を抱えている。安全航行には、この他、救命具のみならずコンパス、GSPや魚探および最寄・所属港・仲間同士の漁船との無線連絡、安全に関する装備、湾口内の航行法等、各種の安全事項が厳守されることが要求される。

2. プロジェクト計画の妥当性

(1) プロジェクト目標は上位目標達成のために有効ですか。

(X) プロジェクト目標が達成され、外部条件が満たされれば上位目標は達成されるだろう。

() プロジェクト目標、外部条件は上位目標達成のため重要ではあるが、それだけでは上位目標は達成されず他にも重要な条件が多い。

() プロジェクト目標と上位目標の直接の関連性は薄い。

コメント・説明：時間的問題を除き、普及活動が順調に推移することで達成可能である。

(2) 実施機関選定の妥当性

本プロジェクトはCQPM Laracheをセンターとして組み立てられているがこの選択は適切であったか。

() 大変適切であった。

(X) まままあといえる。

() あまり適切でなかった。

説明・コメント：何とも言えない。全土対象の場合、国の中央（首都）にするのが自然であると思われる。

C2. 有効性に関して

1. プロジェクト目標達成のために成果、外部条件は適切に設定されていますか。
 (X) 過不足なく適切に設定されている。
 () 重要な項目が欠けていて、成果をすべて達成し、かつ外部条件が満たされてもプロジェクト目標が達成できるとは限らない。
 () プロジェクト目標達成のために不要もしくは重要度の低い成果が設定されている。

説明・コメント：現状ではV/C,P/Cの人事配置面で若干の問題がある。将来的にはラユーン・ダハラ地区（日本はモロッコ国土としてまだ承認していない）の取り扱いに関し、明確にする必要がある。

2. プロジェクト目標達成のために、現在の活動あるいは成果以外で、必要（あるいはきわめて有効）と思われるが現在の活動計画には含まれていないものがあればお書きください。
 a. プロジェクト活動のなかに追加取り組みが可能と思われる事柄。
 零細漁業では、出稼ぎ漁民がおり、季節と共に移動するため、プロジェクトの直接的恩恵が希薄になる。その分、間接的ではあるが留守家族対象の活動実施で、掌握できる可能性が高い。
 b. プロジェクトの中ではどうしようもないが、関係者には取り組んでもらいたいと思われる事柄。

4. 外部条件「漁業省がプロジェクト成果を生かし、普及制度を整備する」に関して
 () 十分満足できる
 (X) 十分とはいえないがプロジェクト目標達成を阻害するほどではない。
 () 満足とはいえず、プロジェクト目標達成への悪影響は無視できない。

説明・コメント：将来的に（教材6テーマ終了時）普及員養成コースを開設し、普及員66名の養成・配置を考慮している。

C3. 効率性（投入/活動内容がどれくらい成果に結びついたか）に関する質問

1. プロジェクトの成果を達成するために、現在の投入計画及び活動計画は適切ですか。
 (X) 過不足なく、適切である。
 () 重要な項目の欠落がある。（記述されていない活動を補完的に実施せざるをえなかった等）
 () 不要な項目あるいは重要性の低い項目が含まれている。

説明：これまでは、理論・基礎研修主体で推移した。今後は、実用場面における普及活動実地指導になるため、主張経費が増大する傾向になる。

2. 円滑に活動を実施し、成果を達成する上での阻害要因、貢献要因があれば記述ください。
 a. 阻害要因：ローカルコスト負担、普及員の身分処置（資格制度化）。
 b. 貢献要因：これまでの点の活動から面の活動への理解と共に、普及員養成の必要性が理解される。

2. 【進捗管理活動について】

- (1) 本プロジェクトでは「モニタリング評価計画書」が策定されていますがモニタリングの実施は順調でしたか。

[] よく出来た。[] だいたい出来た。[] 出来なかった。

理由/コメント：始めたばかりであり、現時点では回答できない。いずれにしろ、本訓練は、普及業務を問わず、基本業務であり、じっくり育成したい。

- (2) モニタリングで報告された問題点に対する対応は適切だったか。
 [] 適当であった。[] だいたい適切であった。[] 適切でなかった。
 理由/コメント：今後、十分なる対応で接したいと考えている。

(3) 【カウンターパートの意欲】

カウンターパートは、成果を達成するための意欲を示し、自主的に努力したか（日常の勤務態度など）。

[] とても努力した。[X] 努力した。[] 努力は感じられなかった。

理由/コメント：会議・研修では非常に熱心さを感じる。しかしながら、まだ途上であり、今後の努力に期待したい。現状では、V/Cs, C/Ps 共に、上下の差が目立ち、これまでの経験の有無による所が大きい。

3. 【日本側の投入の適切さについて】（実施済み及び今後実施が計画されている投入について）

(1) 長期専門家の派遣

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
人数		4	
専門分野		3	
派遣時期		3, 6, 11月	
派遣期間		2-3年	
技術力			2
指導力			3

コメント：単独行動の取れない人が大半で、意思疎通にも通訳を介しての理解となるため、どうしても後手に回ることが多い。会議議事録、事務連絡書等、日本語ですら書けぬ人が多く、派遣以前の問題とも考えられる。注意すると機嫌が悪くなり、時にはキレルこともある。人選には十分なる気配りを期待したいと思います。

(2) 短期専門家の派遣に関して

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
人数		8	
専門分野		7	
派遣時期			2
派遣期間		4-10ヶ月	
技術力			6
指導力			2

理由/コメント：現地側の C/P 配置遅れ、機材購入時期遅延等にて、十分なる技術移転が出来なかった短期専門家がいた。

(4) カウンターパートの日本研修

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
人数		5	1
専門分野		4	
研修時期		夏期から冬期	
研修期間		2週間-3ヶ月	
研修内容		5	1

理由/コメント：研修受入先からもクレームを戴いた。今後十二分に注意をしたいと、考えている。

(5) 機材供与

	適当であった	だいたい適当であった	適当でなかった
機種		視聴覚機器搭載移動車	

仕様		視聴覚機器	
数量		2台/年	
供与時期		02年末より	

理由/コメント：

供与された機材の中で活用度が低い機種があれば書いてください。

機材名；視聴覚機器搭載移動普及車輛

理由；対象の零細漁民までの距離（最短平均数10Km）、活動上の走行距離等、車輛は必需品である。

4. 【モロッコ側投入の適切さについて】

(1) モロッコ側はR/Dに記載された投入は約束通り投入しましたか。

	投入された	だいたい投入された	投入が不足していた
長期C/Pの配置		4	
短期C/Pの配置		23	
ローカルコスト負担		25%	
必要な施設の整備		0	

説明/コメント：

(投入が不足していた場合、何が不足していたか具体的に示してください。)

5. 支援体制について

(1) モロッコ漁業省の各部局やCQPM Larache 上層部のプロジェクトに対する認識、協力の度合いはどうでしたか。

協力的であった。 だいたい協力的であった。 あまり協力的でなかった。

理由/コメント：非常に熱心であり、何事も前向きに捉えて戴いている。

(2) 合同調整委員会は機能しましたか。

有効に機能した。 少しは役にたった。 あまり役にたたなかった。

理由/コメント：末端の集合単位である零細漁村は、複数の問題が同時発生しているため、関係省庁も複数に上る。協力し合うことが前提だが、デマケが明確にされておらず、思わぬ所で、ブレーキが掛かる事もある。将来的には、更なる調整が必要になろう。

(3) 国内支援委員会は機能しましたか。

有効に機能した。 少しは役にたった。 あまり役にたたなかった。

理由/コメント：モロッコまでの距離感が拭えず、温度差が感じられる。

6. 外部条件について

外部条件1. 支局支所、ONP, INRH等現場の協力が継続的に得られる。

十分に得られた。

不十分ではあるが成果の達成を阻害するほどではない。

協力は得られず成果の達成に悪影響があった。

コメント：V/C基礎研修で、講師招聘等の面では協力が得られているが、現場における協力体制まで取れていないのが現状である。今後はより多くの機関と協力し、より一層の投資効果を上げたい。

外部条件2. V/Cが選定したサイトの零細漁民(男女)にプロジェクトが受け入れられる。

十分受け入れられた

不十分ではあるが成果の達成を阻害するほどではない。

漁民に受け入れず成果の達成に悪影響があった。

コメント： 実際の所、普及移動車輛の配置が2ヶ所のみで、その地区ではフル回転中である。

外部条件3・移動教室用の車両が計画通り供与される。

(X) 計画通り供与された。

() 台数、供与時期等不十分ではあるが成果の達成を阻害するほどではない。

() 計画通りの供与は得られず成果の達成に悪影響があった。

コメント： 供与済み台数は2台/年で、今後4台を予定している。配備済みの地区は順調に普及活動の範囲が縦横に拡大しつつある。

C4. インパクト（プロジェクトを実施した結果、どのような正負の変化が直接的、間接的に現れたか）

1. 上位目標の達成見通し

() 2010年までに達成すると思う

(X) 2010年までに達成するかどうか微妙である。

() 2010年までに達成するとは思えない。

理由・コメント： プロジェクトの影響は、今後の結果に譲らざるを得ない。

2. 漁業省の政策（組織、制度、予算、人事等）に、プロジェクトはどの程度影響を与えたか。

影響度： [] 大きい。 [X] 多少あった。 [] ない。 [] 分からない。

理由/コメント： 普及に関する各種普及手法を熱心に受け止めている。本年10月中旬ハッサン II、FAOの優良案件奨励賞を受賞している。

3. 零細漁民の意識、態度、生活等への影響

影響度： [] 大きい。 [] 多少あった。 [] ない。 [X] 分からない。

理由/コメント： 普及活動がようやく動き出した所であり、影響が出るのはずと後のはなしである。普及事業は、活動に伴う影響は地味で目立たないのが特徴である。

4. 地球規模の課題への影響

(1) 環境保全面

影響度： [] 大きい。 [] 多少あった。 [X] ない。 [] 分からない。

理由/コメント：

(2) 貧困救済面

影響度： [] 大きい。 [] 多少あった。 [] ない。 [] 分からない。

理由/コメント： 現状では何とも言えない。

(3) ジェンダー平等、女性の社会参加面

影響度： [] 大きい。 [] 多少あった。 [X] ない。 [] 分からない。

理由/コメント： 何とも言えない。これまでジェンダーのみの活動はなされていない。

(4) 地域の平和構築・安全保障面

プロジェクトの継続が重要な要因である。

C5. 自立発展性（援助終了後、被援助国の機関・組織がどれだけプロジェクトの正の効果を維持することが出来るか 組織、財政、技術、人材育成など）

1. ご送付頂いた中間評価調査票の記述では、本プロジェクトの自立発展性について大きな不安が感じられます。本プロジェクトの自立発展性を高めるためにどのような施策が有効とお考えでしょうか。ご意見をお願いします。

ご意見： 実際の普及が途に着いたばかりである。プロジェクトの中心である普及手法が継続されることで、自立発展性が期待できる計画で進んでいます。

D. その他

JICA 運営指導（中間評価）調査団

1. 本プロジェクトの今後のありかたにつきご意見をお願いします。

ご意見：これまでのフレームワークから脱し、現場指導に移行する時期と考えている。地味ではあるが、レポーテリング・フィールドワーク・M&Eの確立等V/Cの充実を目指し、一方、零細漁村は、普及活動実施とそれに必要な組織をつくり、漁村の活性化を図りたい。

2. 今回の経験をふまえ、今後モロッコ国において別のプロジェクトを企画・実施する場合、あるいは他の国において漁業改良普及分野で類似の協力をを行う場合、留意すべき事項等につきご意見を御願います。

ご意見：零細・貧困共に、広範な分野であるが、何らかの利益に繋がることを行うことでは共通点がある。双方共に、単一の原因で問題を形成しておらず、複数の要因が絡み合っている。この解決には、総合的な手法で望みたいと考えています。

ご協力ありがとうございました。その他ご意見等がありましたら記入願います。

Mid-term Evaluation
Establishment of Extension System for Artisan Fisheries
Questionnaire to the Counterpart Personnel

Japan International Cooperation Agency (JICA) has been implementing the 5-year Technical Cooperation for the “Establishment of Extension System for Artisan Fisheries” from June 1, 2001, with the Ministry of Fisheries at CQPM Larache. Under the Japanese regulations, all the international cooperation projects must be evaluated towards the middle time of the cooperation period in order to clarify if the cooperation has been smoothly implemented, what are the problems for smooth implementation, and make the Recommendations to the Project (to make it more certain that the Project purpose is achieved and that the outcome of the Project is sustained.), including the amendment to the Project Plan, if necessary.

With this regards, your cooperation will be highly appreciated by replying to the following questions.

Please understand that this questionnaire sheet is prepared to cover very wide aspects of the Project and you may find that some of the questions are difficult for you to answer. **In such a case please skip such questions and reply only to those questions to which you can reply.**

Your cooperation is highly appreciated.

Name: 配布8名、回収8名

- Position: 1 Project Director
 1 Project Manager
 1 Co-manager of the Project
 1 Counterpart from DFMPSP
 4 Counterpart from CQPM Larache
 0 Others

A. Relevance of the Project (Is the Overall Goal and the Project purpose consistent withform to the National Development Plan?)

A1. What is your opinion on the importance of the Overall Goal of the Project, i.e. “To improve the socio-economic conditions of artisanal fisherpersons along with conservation of marine resources.” ?

- (8) Will become more important in the future.
 (0) Will remain as important as now.
 (0) Will be less important in the future.

Reasons/comments;

- Anew system needs on adaptation phase.

- Because it will allow fishermen to improve their knowledge and their knowhow in parallel to their social and economic conditions and preservation of maritime resources, marine background and environment.
- The protection of marine resources is in a close relation to the increase of artisanal fishermen's income.
- Because of the importance of the national development plan which is increasing/reinforcing more.
- If artisanal fishermen respect following guides Maintenance of outboard engine and Cooperative guide in addition to all the guides.

A2. Do you think the Project Purpose, i.e. "To develop and establish effective extension system.", meets the actual current needs of artisanal fisherperson?

(8) Yes, meets very much.

(0) Meets to some extent.

(0) Does not meet so much.

Reasons/comments:

- Heavy participation of fishermen is the system.
- Fishermen are interested in extension actions in order to improve their knowledge and develop their work methods. Also, they search to expose their problems in order to find appropriate solutions.
- Fishermen express their interest towards extension actions.
- First of all, fishermen accept positively the training actions and they find in them an open space to express their problems and search for concrete solutions.
- With the help of V/Cs and didactic materials that are found in mobile units.
- With the development of themes that interest the needs of fishermen.

A3. Do you think "the training of extension coordinators" is one of the major roles and responsibilities of CQPM LARACHE?

(6) Yes, a very important role.

(0) Yes, to some extent.

(2) No, CQPM LARACHE has many other more important roles than the training of extension coordinators.

(0) No, There are more appropriate organizations than CQPM LARACHE for such activities.

Reasons/comments:

- In addition to the development of extension materials and mobile class programs.
- It is desirable to have this task to National Center of Marine Extension(CMVM) of Larache.
- The CQPM Larache is having the necessary pedagogical and didactic equipment. It remains as a training leader in the field of marine extension.
- Because now, it has acquired the necessary know-how and contains the appropriate equipment. In addition, its reputation has reached all the institutes.
- Because it is now well experienced and it has all the means for this purpose.

A4. Have there been any significant changes of the policies of the Government of Morocco, or changes of socio-economic situations in Morocco, which might increase or decrease the relevance of the Project, since the Project was started?

(8) Yes, there have been changes and the importance of the Project has been increased.

(0) Yes, there have been changes and the importance of the Project has been decreased.

(0) No, there have not been such a big changes and the importance remains at the similar degree..

Comments;

- Thanks to the support provided by NGO to artisanal fishermen's cooperatives and groupes in addition to the creation of PDA(point de débarquement aménagé) and VDP (Village de pêcheurs) by Ministry of Marine Fishery.
- The Ministry has expressed its will to help and support fishermen through the construction of PDA and VDP.
- Because now, there is an adjustment/development of fishing sites through the construction of PDA and VDP. Also, fishermen's groups (either cooperatives or others) benefit from a considerable support of national and international NGOs.
- With the construction of fishermen's village (VDP).

B. Effectiveness of the Project. (Is the Project Purpose likely to be achieved? How far the outputs of the Project contributes to the achievement of the Project Purpose?)

B1. How do you evaluate the achievement of the Project Purpose, i.e. To develop and establish effective extension system.”?

(8) I am confident that it will be achieved during the project term of 5 years.

(0) It may be achieved by the end of 5-year project term, but I am not sure.

(0) It is difficult to be achieved by the end of 5-year project period.

Comments/Reasons.

- Everything depends to the role of Japanese experts and the team of JICA Larache on what concerns the rhythm of the accomplished work and the provided equipment.
- Necessity of making evaluation by the concerned people to know more.
- Because of the interest given to this project by the concerned parts and consequently, the middle term results that are realized.
- Yes, it is possible and they can participate in the increase of the income.
- Through the six guides and the cooperation of V/Cs with fishermen, we can reach our objectives.
- Until now, all the steps of the project are effectively implemented.

B2. What is your evaluation on the current degree of the achievement of the Project? Please write the reasons that support your answer.

The current degree of the project achievement:

(1) is reached to the higher level than I expected.

(7) is reached to the level as I expected (as scheduled).

(0) is not reached to the level as I expected in some parts.

(0) is not reached to the level as I expected at all.

Reason / Comments:

- It has reached the level that we wished because many V/Cs trainings have been done and the elaboration of materials has been also accomplished in addition to the realization of mobile classes.
- Japanese experts play a very important role in the improvement of the level of this project and its success.

B3. How much have the Activities and the Outputs of the Project contributed/will contribute to the achievement of the Project Purpose?

(6) Contributed/will contribute very much.

(2) Contributed/will contribute to some extent.

(0) Not so much contributed/will contribute.

Comments;

- Training of V/Cs according to the program.
- Development of 2 themes/year according to the planned calendar
- Acquisition of 2 mobile units per year.
- Extension actions have been developed and their number has increased/
- V/Cs' training have been realized according to the planned program.
- Pedagogical materials (guides and leaflets) have been elaborated.
- With the training and sensitization of fishermen, their life style will improve.
- With the training and sensitization of fishermen and implementation of mini projects.

B3a. The project executed the baseline survey in the first year. Was this survey effective for the achievement of the Project Purpose?

(2) Not so much worthy to spend time and money.

(0) Very useful, worth for time and money, for the achievement of the Project Purpose.

(6) Very useful, not only for the achievement of this project, but also useful for various purposes.

Comments:

- The contact with the targeted public makes it possible to know their real needs and real life and work condition.
- Thanks to the survey, Japanese experts and their counterparts could diagnose artisanal fishermen's problems and needs. They could make a list of extension themes in order to select at the end of main themes.
- This survey has helped us to determine the needs of fishermen in teams of training (6 extension themes)
- It has raised the problematics of artisanal fishermen and the needs of V/Cs in terms of training.
- Yes, it simplifies well the work.
- Because it has helped in understanding problems of artisanal fishery.

B3b Based on the result of the baseline survey, the Project selected 6 themes for extension, i.e.

1. Promotion de l'organisation des pêcheurs.
2. Maintenance du moteur hors-bord.
3. Sécurité maritime.
4. Qualité et hygiène.
5. Technique de pêche.
6. Préservation des ressources marines.

Do you think the selection of themes were appropriately done ?

- (8) Yes, all six themes are very appropriate
(0) Some are appropriate, some are not and needed to be reviewed.

Comments:

- The six selected themes is the success of artisanal fishermen, because respecting and applying the guides of 6 themes brings to security and success of artisanal fishermen.

B4. Has CQPM LARACHE obtained good support from staff in the field (DPM, ONP, INRH) for the achievement of the Project Purpose?

- (7) Yes, obtained very good cooperation, for example (Basic training,).
(0) Some cooperation was obtained but not enough.
(0) Cooperative relationship with staff in the field was very poor.

Comments;

- The Delegation of Maritime Fisheries (DPM) intervenes in the survey and facilitate the communication with fishermen.
- The National Office of Fisheries (ONP) provides to the Project all kinds of necessary documents.
- The national Institutes of Fishery Resources (INRH) intervenes in V/Cs' training.
- Surveys and examinations/checking have been well done. The visits to fish markets and INRH were so easy. Extension actions are taking place in a good way.
- Realization of surveys (DPM), Training actions (INRH), Visits to fish markets (ONP)

B5. Is the Project accepted by the artisanal fisherperson in the sites V/Cs selected?

- (7) Yes, very much accepted
(1) Some accepted, Some not accept
(0) Not so much accepted.

Comments:

- Some are just thinking about their own profit and request financial aids and donations (equipment)
- Participation of fishermen in the actions.
- Fishermen react positively to the propositions of V/Cs and participate actively to the execution/implementation of some activities.
- Good cooperation and motivation of fishermen.

B6. What do you think are the major factors that facilitated and/or hampered the achievement of the Project to date?

Facilitating Factors:

- Human resources and equipment
- Training of V/Cs
- Implementation of extension programs and activities
- The progress of extension program and activities.
- Training of V/Cs
- The permanent contact between V/Cs and fishermen.
- The importance of mobile class themes which select the proper needs of fishermen.
- The serious work of experts and the will of counterparts.
- Human and material means such as: audiovisual equipment, mobile units, guides, leaflets and V/C's training.
- V/Cs motivation and fishermen's predisposition.
- The will of cooperator (Japanese experts and Moroccan counterparts)
- The project's investment for sites.
- Confidence in the Moroccan-Japanese cooperation
- Collaboration of other institutes (ONP, INRH)/Japanese experts
- Predisposition of fishermen
- Motivation of V/Cs and counterparts.
- Experience
- Objective
- Budget
- Investment
- Collaboration work between experts and counterparts

Hampering Factors:

- Lack of necessary equipment for printing and editing materials.
- Lack of printing equipment.
- Lack of communication of fishermen.
- High rate of illiteracy.
- Lack of printing equipment.
- Illiteracy.

C. Efficiency of the Project. (How efficiently the inputs and the activities of the Project were utilized for the achievement of the Outputs of the Project?)

C1. Outputs of the Project

C1a. How far do you think the outputs of the Project were achieved?

Output 1. Practices and situation of artisanal fisheries are understood.

(3) I am confident that it will be achieved during the project term of 5 years.

(4) It may be achieved by the end of 5-year project term, but I am not sure.

(0) It is difficult to be achieved by the end of 5-year project period.

Comments;

- There had been many field visits and discussion had been held with fishermen about all kinds of problems.

Output 2. Extension programs on relevant themes for fisherpersons are developed.

(7) I am confident that it will be achieved during the project term of 5 years.

(0) It may be achieved by the end of 5-year project term, but I am not sure.

(0) It is difficult to be achieved by the end of 5-year project period.

Comments;

- No motivation of V/Cs.
- Mobility and change of some but not others.
- Elaboration of materials according to the planned annual program.
- The elaboration of materials and guides is done according to the standards and deadlines fixed by the experts.
- Each year there is a development of extension programs.

Outputs 3, Curriculum and teaching materials are developed and technical capacity of V/Cs is improved.

(6) I am confident that it will be achieved during the project term of 5 years.

(1) It may be achieved by the end of 5-year project term, but I am not sure.

(0) It is difficult to be achieved by the end of 5-year project period.

Comments;

- Many technical and basic trainings have been done.
- Training and guides improve the technical capacity of V/Cs.
- Until now, there was development of materials according to the fixed standards.

Output 4. Extension activities are carried out effectively on selected sites.

(7) I am confident that it will be achieved during the project term of 5 years.

(0) It may be achieved by the end of 5-year project term, but I am not sure.

(0) It is difficult to be achieved by the end of 5-year project period.

Comments;

- If the extension actions of the other sites are the same as those of CQPM Larache.
- Mobil classes of the 2 themes that are already developed are done in a regular way. So far the remaining 4 themes, they are going to be realized in the same way.
- Yes, on what concerns VCs of CQPM Larache.
- There is already the start of mobile classes for the two first themes.

Output 5. Monitoring, evaluation and feedback mechanism is established.

- (5) I am confident that it will be achieved during the project term of 5 years.
 (2) It may be achieved by the end of 5-year project term, but I am not sure.
 (0) It is difficult to be achieved by the end of 5-year project period.

Comments;

- Necessity of monitoring this activity after the end of the project.

C2. Inputs to the Project and Efficiency**C2a. Japanese Input**

Do you think Japanese experts dispatched for the Project of the Project were appropriate?

a. Long term experts

	Very appropriate	Appropriate	Not so appropriate	Not appropriate at all
Number of experts	3	5	0	0
Field of specialty	1	6	1	0
Timing of dispatch	5	3	0	0
Period of stay	2	5	1	0
Technical capability	2	6	0	0
Communication ability	1	6	1	0

b. Short term experts

	Very appropriate	Appropriate	Not so appropriate	Not appropriate at all
Number of experts	5	3	0	0
Field of specialty	2	5	1	0
Timing of dispatch	7	1	0	0
Period of stay	2	4	2	0
Technical capability	5	3	0	0
Communication ability	2	5	1	0

Comments;

- Some important themes such as “Quality and Hygiene” and “audiovisual techniques” need an important duration and the duration of short term experts is not sufficient.

c. Provision of machinery and equipment

	Very appropriate	Appropriate	Not so appropriate	Not appropriate at all
Kind of equipment	3	3	1	0
Specifications	1	4	2	0
Number of equipment	0	1	6	0
Timing of provision	0	0	7	0

Comments;

- It was desirable to equip in parallel the workshop which is reserved for development, making and editing of audio-visual and printing materials.
- Lack of printing equipment, if we want to assure the continuing of work after the project.
- Lack of coordination in choosing equipment.

- Lack of workshop of printing

d. Training of counterpart personnel in Japan

	Very appropriate	Appropriate	Not so appropriate	Not appropriate at all
Number of trainee	3	3	1	0
Timing of training	1	4	2	0
Duration of training	0	1	6	0
Contents of training	0	0	7	0

Comments;

- The rhythm and number of training in Japan should be more supported.
- Very beneficial for trainees. I wish that there will be other training in Japan for the benefit of Project Manager in order to acquire good knowledge about the aspects that are related to communication techniques/skills towards fishermen.
- The training courses were so interesting that is why there should be the organization of other trainings mainly in communication field and to the benefit of counterparts and V/Cs.

C2b. Do you think Moroccan inputs for this Project was appropriate?

		Very appropriate	Appropriate	Not so appropriate	so	Not appropriate at all
Land, bldg and facilities	Quantity, Size	5	3	0		0
	Quality	4	4	0		0
Long-term counterparts	No.	2	6	0		0
	Quality	1	7	0		0
Short-term counterparts	No.	3	5	0		0
	Quality	3	5	0		0
V/Cs	No.	1	7	0		0
	Quality	2	5	1		0
Extension staffs	No.	3	5	0		0
	Quality	2	6	0		0
Budgetary allocation for expenses	Amount	1	7	0		0
	Timing	1	7	0		0

Comments;

- Without any comments. The work has been done according to the fixed objection.

D. Impact of the Project

D1. How much has the project had impact on you and your work? Please choose one appropriate answer below.

◆ Your workload:

7 Increased very much 1 Increased to some extent 0 same as before 0 reduced

◆ Your motivation:

7 Increased very much 0 Increased to some extent 1 same as before 0 reduced

◆ Your confidence:

7 Increased very much 1 Increased to some extent 0 same as before 0 reduced

Comments;

D2. Do you think the Overall Goal of the Project, “To improve the socio-economic conditions of artisanal fisherpersons along with conservation of marine resources.”, will be achieved in the near future?

(7) Will surely be achieved by 2010.

(1) May be achieved by 2010, but I am not confident.

(0) It is difficult to be achieved by 2010.

Reasons/Comments;

- My wish is to accomplish this objective before 2010 and for a good number of fishing sites.
- Practice if theme implementations.
- By the implementation of some mini-projects and improvement of fishermen's practice especially on what concerns safety and security and preservation of marine resources quality.
- Implementation of some mini-projects.

D3. Do you think the MPM will establish their own extension system and regulations from the outcomes of the Project?

(8) Yes, I am confident.

(0) I doubt.

(0) I do not think so.

Reasons/Comments;

- To inspire from the Japanese experience.
- By inspiring from VPA Project and its human means of which it has invested a lot.
- Because MPM give importance to this project.

D4. Do you think that the living environment of artisanal fisherperson will change drastically?

(8) Yes, I am confident.

(0) I doubt.

(0) I do not think so.

Reasons/Comments;

- Not radically but a noticeable improvement that concerns behaviors and attitudes of fishermen will be concrete in near future.
- Not radically but an important change is so likely in terms of improvement of technical knowledge, management and their productivity.
- Not radically but there is going to be a positive change.
- It depends on the investment of mini projects and cooperatives.

D5. Do you think that other efforts for the conservation of marine resources will be implemented by the MPM?

(8) Yes, I am confident.

(0) I doubt.

(0) I do not think so.

Reasons/Comments;

- By forced regulations and also sensitization of professionals and the work of INRH.
- Establishing the appropriate regulation.

E. Sustainability of the Project

E-1. Do you think CQPM LARACHE's role and responsibility as the center of extension activity will continue to be important in the future?

(8) Will become more important.

(0) Will remain unchanged.

(0) Will become less important.

Comments/Reasons;

- if we provide it with all necessary equipment for a good operation of the project.
- Yes, if it is equipped with the necessary human and material means in order to fulfil this mission.
- They are regulated to develop new themes that reflect the new needs of fishermen in addition to assure advanced trainings to V/Cs in a continuous way.

E-2. Do you think Moroccan government would allocate enough budget for the extension activities?

(8) Yes, I will.

(0) No, I will not.

(0) I do not know.

Reasons/Comments;

E-3. Do you think most of V/Cs trained through the Project remain in extension activities?

(8) Yes, I think so.

(0) I doubt.

(0) No, I do not think so.

Comments:

- Provided that V/Cs' training is maintained.
- Because they are well motivated to this activity and DFMS has invested a lot in their training. In addition, V/Cs know well the artisanal fishery.

E-4. Do you think CQPM LARACHE and V/Cs will obtain enough technical knowledge during the project period and can utilize them for the extension activities after the completion of Japanese cooperation?

(8) Yes, I am confident

(0) I doubt

(0) No, I do not think so.

Reasons/Comments

- It is our object.
- There was development of V/Cs' guide in addition to trainings of technical character.

E-5. What are the major problems CQPM Larache currently faces, or is likely to face in the future?

Problems:

- Lack of necessary equipment for development and edition of audio-visual and printing materials.
- If it is most equipped with the appropriate equipments (video and printing)
- If V/Cs are not sufficiently trained about audiovisual techniques and printing works.
- Equipment of workshop/mobile units.
- Lack of necessary equipment and materials for the elaboration of audiovisual and printing materials.
- Lack of mobile unit.
- Maintenance of pedagogical equipment and mobile units.
- Lack of equipment for production of pedagogical materials.
- Lack of equipment for the production of pedagogical materials.
- Lack of equipment for the printing materials
- Area where to welcome trainees-VCs.

E-6 What are the major problems V/Cs face now?

- Appropriate technical training should be improved.
- Means of transport (mobile units)
- Well equipped means of transport to reach the enclosed sites (mobile units)
- Lack of well-equipped means of transport.

E-7 What are the major problems artisanal fisherpersons face now?

- Lack of training and qualification
- Insufficient basic infrastructures in some fishing sites.
- Absence of a professional organization in some fishing sites.

- Lack of training and qualification
- Lack of material support and appropriate equipment for the accomplishment of the professional activity.
- Lack of organization
- Infrastructure
- Organisation
- Organisation
- Qualification
- Infrastructure
- Non-taxed fuel
- Infrastructures (PDA, VDP)
- Illiteracy an problem of training.
- Lack of infrastructures such as fish market, stores, etc.
- Lack of infrastructures in most of the sites.
- Lack of infrastructures.

F. Others

F-1. Please feel free to give comments on the Project, issues and lessons related to the Project, or the problems that should be solved.

Thank you very much for your cooperation.

Mid-term Evaluation
Establishment of Extension System for Artisan Fisheries
Questionnaire to the V/Cs

Japan International Cooperation Agency (JICA) has been implementing the 5-year Technical Cooperation for the “Establishment of Extension System for Artisan Fisheries” from June 1, 2001, with the Ministry of Fisheries at CQPM Larache. Under the Japanese regulations, all the international cooperation projects must be evaluated towards the middle time of the cooperation period in order to clarify if the cooperation has been smoothly implemented, what are the problems for smooth implementation, and make the Recommendations to the Project (to make it more certain that the Project purpose is achieved and that the outcome of the Project is sustained.), including the amendment to the Project Plan, if necessary.

With this regards, your cooperation will be highly appreciated by replying to the following questions.

Please understand that this questionnaire sheet is prepared to cover very wide aspects of the Project and you may find that some of the questions are difficult for you to answer. **In such a case please skip such questions and reply only to those questions to which you can reply.**

Your cooperation is highly appreciated.

Name: 配布 23 名、回収 12 名 _____

CQPM/ ISTPM/ITPM

Place: 回収 : 3 CQPM Larache, 2 ITPM Al Hoceimaa, 3 ITPM Tantan, 3 CQPM Laayoune, 1 CQPM Dakhla

Q1. The Project is based on the pre-conditions, i.e. “Time, transportation, allowance for V/C s are secured.” Do you think this condition is met?

- (6) Yes, I am satisfied.
- (4) Met to some extent, but not enough.
- (0) Far from satisfactory.

Reasons/comments;

- VCs efforts are increasing while the motivation is decreasing. The precondition fees should increase.
- Especially the transport issue that concerns the acquisition of mobile units which takes more time.
- Especially the transport (mobile units)
- In fact in order to take my meals, I am obliged to go to town (Larache) in unfavorable conditions (rain dangerous road, badly frequented)

Q2. Based on the result of the baseline survey, the Project selected 6 themes for extension, i.e.

1. Promotion de l'organisation des pêcheurs.
2. Maintenance du moteur hors-bord.
3. Sécurité maritime.
4. Qualité et hygiène.
5. Technique de pêche.
6. Préservation des ressources marines.

Do you think the selection of themes were appropriately done ?

(10) Yes, all six themes are very appropriate

(2) Some are appropriate, some are not and needed to be reviewed.

Comments:

- Since the purpose of the project is based on the improvement of artisanal fishermen's life, it is noticeable that these are classified according to the order of priority.
- The theme "fishing technique" is not sufficient.
- Because they are the main themes that cover artisanal fishing sector and that reflects fishermen's needs.
- There are necessary themes to artisanal fishermen and fishing.
- They are essential themes for fishermen and they reflect their needs.
- I think that the 6 themes regroup all the training needs of artisanal fishewrmen.
- Each theme should be developed in order not to fall into generalities.
- VCs should participate to all courses of 6 themes.
- Lack of themes on problems of women
- Out of the actions that have been don e in the sites, fishermen request themes on navigation and fishing instruments such as GPS, depth gauge, magnetic compass.
- Weakness of theme in relation to women's activity

Q4. About the training courses for V/Cs

Q4a. How many times did you participate in the training courses by the Project?

a. Formation basique: _____fois : 5,5,1,7,5,3,7,2,3,5,6,5

b. Formation thématique: : _____fois : 5,5,1,2,1,1,2,2,2,2,5

Q4b. Which training courses are useful and which are not ?

Courses very useful:

- Profesional organization, maintenance of outboard engine, quality and hygiene, preservation of marine rsources, fishing techniques
- Maintenance of outboard engine,
- Gender approach, communication, maintenance of outboard engine.
- Gender approach, communication, maintenance of outboard engine.
- Gender approach, communication
- All the courses are useful for VCs. However, we should not forget that these courses are transmitted a population in which the majority of persons are illiterate artisanal fishermen.

- Training about social and economic analysis
- All the courses that were selected by the Project and MPM were so interesting.
- Outboard, participatory approach, gender approach, communication, marine biology
- All the courses were so useful especially participatory approach, gender approach and communication methods

Course to some extent:

- marine safety
- marine oceanography, physics and chemistry
- marine oceanography, physics and chemistry
- marine biology
- marine biology, oceanography, fishing techniques

Not so much useful:

- fishing technique

Comments:

- Because fishermen give more importance to maintenance of outboard engine and fishing techniques

Q4c. How do you think about the training materials (textbook, video-tape, etc.,)

(5) very good

(7) good but some improvement necessary

(0) not so good

Comments:

- For instance, the outboard engine video tape seems to be so vulgar and it does not show anything special to artisanal fishermen.
- They help in understanding training courses.
- Insufficient documents
- It is necessary to have a simple, effective and clear vocabulary in the materials.

Q4d. How do you think about the training methods?

(5) very good

(6) good but some improvement necessary

(0) not so good

Comments:

- I prefer practical methods of training.
- Sometime there was academic courses, no given documents, Field visits were few.
- No specialists visits to the sites. Courses are so scientific and no sufficient documents.
- In my point of view, traditional methods should be avoided.
- The training is so technical. Lack of practical trainings.
- The system of periodical basic training and theme training is of a great usefulness

Q4e. How do you think about the training instructors?

(3) very good

(6) good but some improvement necessary

(1) not so good

Comments:

- There is always the good as well as the bad.
- Explaining by OHP only is not sufficient. There should be the use of other methods.
- good but some improvement necessary, especially on what concerns INRH
- good but some improvement necessary, mainly people of INRH who are so scientific.
- good but some improvement necessary, especially those who belongs to INRH
- Experienced instructors in the field of artisanal fishery should be chosen.
- Some are so good, such as Mr. El Boukhari while some instructors such as those of INRH give so detailed courses that are unuseful for extension works.
- VCs should be considered as trainer.
- VCs have different kinds of specialists and some of them can understand well while others not.

Q4f. What do you suggest to improve the training courses?

Your suggestions:

- The training should be more practical.
- To increase the duration of field visits.
- To avoid busy days.
- Necessity of practical methods because fishermen do need them
- To choose themes that are of a big usefulness to VCs
- To reserve more time to some training
- To have more interest in practical side.
- Diversifying training places.
- Reserve more time for important themes. Do not forget practical aspect. Diversify training places.
- Increase time for some training. diversify training places.
- I prefer practical workshops instead of courses (exposition, account, magisterial, etc.)
- To focus on practical training through implementation of visits to fishermen's sites. There, we can do extension actions.
- To take into consideration the training needs of VCs
- Improvement of time rates that are reserved for each session. To give information about the subjects that are going to be tackled in the planned sessions in advance.
- The project should be conscious of VCs preoccupations.

Q5. Sur les classes mobiles

Q5a. How many times did you participated in the mobile classes ?

_____ Fois: 0,0,0,0,0,0,1,3,3,21,33,36

- We do not have yet the mobile class
- Mobile classes are not received.

Q5b. How was the fisherpersons acceptance?

-Subjects which received good acceptance:

- Creation of cooperative, maintenance of outboard engine, marine safety, quality of hygiene, protection of environment, weather condition, fishing techniques
- Quality and hygiene-protection of environment, maintenance of outboard- fishing techniques, creation of cooperative.
- Marine safety, Quality and hygiene, protection of environment, fishing techniques,
- Outboard, Quality and hygiene, creation of cooperative
- Outboard, Quality and hygiene, marine safety
-

-Subject which was not accepted well:

- professional organization

Comments:

Q5c. How do you evaluate teaching materials (book, video, etc)?

-Very good points:

- Facilitating the regrouping, Giving a value to the idea of the theme, Facilitating the communication, The pedagogical materials are so good.
- Easy to take and distribute, low cost, global, illustration
- Easy to take and distribute, illustration, explain and facilitate the task of VCs.
- Easy to take and distribute, low cost, global, illustration
- Video, leaflet
- The help in transmitting the messages to artisanal fishermen in a good way.
- They facilitate the animation of extension subjects.
- Good illustration of subjects that are tackled in the guides, leaflets and video.
- To help VCs to transmit his message easily to fishermen

-Points needed to be improved:

- There should be fiscal reinforcement, Translating the video tape of outboard motors.
- Make posters, use more illustrations
- Make posters, put more illustrations
- The guide should be translated into Arabic.
- I suggest that the pedagogical materials should be a memorandum/record that reflects the thinking of fishermen.
- Photo camera and video camera
- Feedback that should exist between VCs and the fishermen during the transmission of the message

Q5c. How do you evaluate teaching methods?

-Very good points:

- VC bases on his own capacities as first. However the given methods are too weak.
- I insist on the use of practical methods
- Good communications with fishermen, They answer the needs of fishermen.
- Good communications with fishermen, They answer the needs of fishermen.
- Good communications with fisherwomen, They answer the needs of fisherwomen.
- Participation of VCs, workshops

-Points needed to be improved:

- VC should be a training which is certified by diploma.
- Fishing techniques, marine safety.
- I think that guides should be translated into dialectal Arabic (for fishermen) and standard Arabic (for VCs)

Q6 What do you think are most important subjects which fisherperson wants to be solved urgently?

Comments:

- Problems that are related directly to their social and economic situation such as fuel problems, problems of buying fishing gears.
- Maintenance of outboard engine, marine safety, fishing techniques.
- Improvement of infrastructure such as construction of stores, fuel station, and a mooring place.
- Realization of PDA, such as construction of stores, fuel station; commercialization of fish
- Illiteracy-improvement of life conditions such as providing ovens.
- Creation of cooperative. However, the conflicts between fishermen block this creation
- Problems with administration (DPM), professional papers.
- To consider VCs as trainers and not as students.
- In addition to the under mentioned subjects, I think that there exists a subject which is more interesting and likely related to fishermen's social life. It is the social insurance.
- Fishing techniques, GPS, safety
- Promotion of women organization
- Subjects of social character
- Improvement of their sites, biological rest, problems between those who are using hand lines and long lines and those who are using Gill nets and trammel nets.

Q7. What do you suggest to improve the extension systems?

Q7a. At V/Cs level

- Motivation (increase of allowance), To give them all kinds of documents he needs. Extension should be a function.
- In order to improve the extension system on the level of VCs, I insist on the use of practical methods.
- Organizing more trainings. Maintain workers to develop new themes of mini projects for the sake of fishermen.

- To visit often important sites such as Imesouane.
- Organization of more trainings and in different regions. Inviting VCs to develop new themes for fisherwomen.
- To be conscient about the importance of their work as VCs. To be well trained about all the concepts that can help them in accomplishing their work.
- Reserve sufficient time
- Motivation and encouragement through the improvement of the condition (transport, protection against risks that can be faced while doing actions, to insure personal and material means so that he can improve his intellectual and instructive skills.
- To be in a permanent contact with fishermen, To be conscious of the task he is assuming

Q7b At CQPM Larache level

- No suggestion
- To be equipped with production means of audiovisual and printing materials.
- Staff investment through different kinds of trainings
- To be endowed with sufficient financial means.
- To have communication means; materials audiovisual. To have sufficient financial means.
- To have communication means; materials audiovisual. To have sufficient financial means.
- Nothing to mention for the moment.
- Difficult access to sites. Some fishermen do not understand our tasks, to gain their confidence.

Q7c At JICA level

- Increasing fiscal reinforcement
- Organizing visits to Japan for VCs
- It is good.
- To give more interest to the extension activity
- Search for the improvement of the extension activity through an adaptation of other successful extension experiences of other countries.
- the improvement of the extension activity through an adaptation of other successful extension experiences of other countries.
- Improvement of extension activity through the adaptation of other successful extension experiences of other countries.
- To choose well the appropriate moment of basic training.
- To assure traineeships to all VCs to get more experience.
- Weak productivity, negligence, carelessness. Difficulty of life

Q7d. At the level of the Ministry of Fisheries

- Creating a status to VCs
- It is good and it assists well to the extension system
- To give more means to DFMPSP in order to develop this activity.
- Nothing to mention for the moment.

Q8 How much has the project had impact on you and your work? Please choose one appropriate answer below.

◆ **Your workload:**

7 Increased very much 4 Increased to some extent 1 same as before 0 reduced

◆ **Your motivation:**

5 Increased very much 5 Increased to some extent 1 same as before 0 reduced

◆ **Your confidence:**

8 Increased very much 2 Increased to some extent 1 same as before 0 reduced

Comments;

- Nothing to mention.

Q9. Do you notice any change, in attitude, mind, policy, system, etc. as the result of the project?

- a. **Male fisherperson:** (2) Yes, much. (8) Yes, a little. (0) No. (2) I do not know. (0) No answer
- b. **Female fisherperson:** (0) Yes, much. (3) Yes, a little. (0) No. (2) I do not know. (7) No answer(there are no female fisherperson)
- c. **Ministry of Fisheries:** (6) Yes, much. (3) Yes, a little. (0) No. (2) I do not know. (1) No answer

Q10 What are the major problems V/Cs face now?

- Transport, motivation, documents
- Motivation
- Lack of infrastructure in some sites, To reach enclosed sites.
- It is difficult to reach some sites: time-transport
- Lack of communication means
- Lack of infrastructure in some sites
- Lack of communication means. To reach enclosed sites.
- After the arrival of mobile unit, difficulties have decreased
- Difficulty of convincing females of the importance of mini projects. Conservative families.
- Insufficient experience the fact that results difficulties in convincing fishermen's families of the usefulness of projects

Q11 What are the major problems artisanal fisherpersons face now?

- Confidence, time of communication, place of communication
- Transport, fishing gears, maintenance of outboard engine

- Work productivity, sometimes commercialization prices are less interesting.
- Weak productivity which is due to bad weather conditions
- Commercialization prices are not encouraging.
- commercialization prices are less interesting.
- Fishermen's difficulties have decreased after the opening of PDA
- Lack of meeting rooms, conservative families.

Q12 Please answer your portion of your extension activities against your daily job.

5%: 1
15%: 2
25%: 3
30%: 3
50%: 2
90%: 1

Q13 What kind of subjects is it the most useful for artisanal fisherperson's activities?

Please answer your opinion.

- Professional organization, maintenance of outboard motors.
- Maintenance of outboard, marine safety
- Marine safety, maintenance of outboard engines, fishing techniques
- Marine safety, maintenance of outboard engine, fishing techniques
- Marine safety, fishing techniques
- The subject of social insurance takes an important place in fishermen's discussions.
- Safety, hygiene and quality
- Professional organization, valorization of sea products, literacy, social assistance

F. Others

F-1. Please feel free to give comments on the Project, issues and lessons related to the Project, or the problems that should be solved.

Comments:

- The artisanal fishermen's output has been well improved thanks to extension.
- Human sciences such as sociology and social psychology can help VCs in understanding well the situation.

Thank you very much for your cooperation.

別添4 ミニッツ (英文・仏文)

**THE MINUTES OF MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE MID-TERM EVALUATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES OF THE GOVERNMENT
OF
THE KINGDOM OF MOROCCO
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE ESTABLISHMENT OF EXTENSION SYSTEM
FOR ARTISANAL FISHERIES**

The Japanese Mid-term Evaluation Team (hereinafter referred to as 'the Team') organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as 'JICA') and headed by Mr. Kiyoshi Katsuyama, visited the Kingdom of Morocco (hereinafter referred to as 'Morocco') for the purpose of evaluating, jointly with the Moroccan Evaluation Team of Ministry of Fisheries, the Project for the Establishment of an Extension System for Artisanal Fisheries in Morocco (hereinafter referred to as the 'Project') from January 6 to 17, 2004.

During its stay, the Team has carried out a field survey and held a series of meetings with the Moroccan authorities.

As a result of the survey and meetings, both sides agreed to report to their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereby.

Rabat, January 16, 2004



Mr. Kiyoshi KATSUYAMA
Team Leader,
Mid-term Evaluation Team,
Japan International Cooperation Agency
Japan

Mr. Mohamed RHARBAOUI
Director,
Dept. of Maritime Training and
Social and Professional Promotion,
Ministry of Fisheries
Kingdom of Morocco



THE MID-TERM EVALUATION REPORT FOR THE PROJECT

1 INTRODUCTION

Based upon the Record of Discussions (hereinafter referred to as 'the R/D') signed on March 2001, the Government of Japan and the Government of Morocco have been implementing the Project since June 1, 2001. The Project is scheduled to be implemented for five (5) years and is to complete on May 31, 2006.

At the mid-term of the Project, JICA dispatched the Mid-term Evaluation Team to Morocco to evaluate the Project jointly with Moroccan authorities and to give advice to the Project in elaborating implementation plans for the remaining period.

2 MEMBERS OF THE EVALUATION TEAM

2-1. Japanese Side

Mr. Kiyoshi KATSUYAMA Leader	Director, Fisheries and Environment Division, Forestry and Natural Environment Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)
Mr. Naoshi TAMURA Fisheries Extension	Officer, Office of Overseas Fisheries Cooperation, Fisheries Agency, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, Government of Japan
Mr. Michiyuki KEMMOTSU Evaluation Analysis	Consultant
Mr. Ryutaro KOBAYASHI Planning Evaluation	Officer, Fisheries and Environment Division, Forestry and Natural Environment Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)

2-2. Moroccan Side

Mr. Youssef OUATI	Head of Cooperation Division, Cooperation and Legal Affairs Directorate, Ministry of Fisheries
Mr. Nourredine HAMDANI	Head of Fisheries Structure Division, Maritime Fisheries and Aquaculture Directorate, Ministry of Fisheries
Mr. Brahim BOUDINAR	Director, ISTPM Agadir Ministry of Fisheries
Mr. Ahmed MEHDAOUI ALAOUI	Representative, Delegation of Maritime Fisheries Larache, Ministry of Fisheries

3 OBJECTIVES OF THE EVALUATION

Objectives of the evaluation of the Project are as follows:

- (1) To evaluate achievement in accordance with the original plan described in the R/D, Tentative Schedule of Implementation, Plan of Operation (hereinafter referred to as 'PO') and Project Design Matrix (hereinafter referred to as 'PDM': ANNEX 1); and
- (2) To recommend and suggest necessary measures to be undertaken after the mid-term review of the cooperation and the Project to the authorities of the respective Governments.

4 METHODOLOGY OF THE EVALUATION

4-1. Achievements of the Project

Inputs (Japanese side and Moroccan side) were confirmed and evaluated, and then the degrees of the achievements of inputs, outputs, project purpose, and overall goal were examined by using indicators shown in PDM.

4-2. Implementing process of the Project

From the aspect of project management, implementation process was assessed and evaluated.

4-3. Evaluation viewpoints

The evaluation was conducted from the viewpoints of five evaluation criteria as shown below:

(1) Relevance

To assess whether the project overall goal in long-term has a consistency with the development policy of Morocco, whether the project purpose meets Moroccan's needs, and whether the project purpose meets Japan's cooperation policy.

(2) Effectiveness

To assess whether the project purpose has been achieved, and whether the project design has been effective to achieve the project purpose.

(3) Efficiency

To assess appropriateness of Project inputs (resources) by focusing on timing, cost and Outputs generated from Inputs.

(4) Impact

To assess direct and indirect Impacts in viewpoints of both 'positive' and 'negative' by project implementation.

(5) Sustainability

To assess potentiality and possibility of dissemination of project benefits and further development by focusing on points of policies, institutional capacity, technical ability, funds possibility, and social-cultural concerns.

5 RESULTS OF EVALUATION

The results of the evaluation are summarized into Achievement Grid (ANNEX 2) and Evaluation Grid (ANNEX 3). The summary of the results is given hereinafter.

5-1. Accomplishment of the Project (refer to the Achievement Grid for details)

5-1-1. Accomplishment of the Inputs

The plan and the actual results of inputs made in the first three Japanese fiscal years are as follow (JFY2001: 1.6.2001-31.3. 2002, JFY2002: 1.4.2003-31.3.2003, JFY2003: 1.4.2003-31.3.2004. JFY2003 include some inputs which are not realized yet but scheduled to be done by the end of March 2004.)

A. Japanese Inputs

(1) Long-term experts

It was planned to dispatch 4 Long-term experts, one each in 4 categories, namely Chief Advisor, Coordinator, Expert in Fisheries Extension and Expert in Fisherperson Education.

Total 5 Long-term experts in the 4 fields, as shown below, were actually dispatched as planned. (Total 113 M/Ms in June 2001 to March 2004). But the chief adviser was absent for about 12 months period.

T. Fujita (Chief adviser) 2001.6.1-2002.2.18, 2003.3.1-2004.6.9

M. Hattori (Coordinator) 2001.6.1-2004.5.31

S. Yoshida (Fisheries Extension) 2001.9.5-2003.9.4

A. Hayashi (Fisheries Education) 2002.2.10-2004.2.9

A. Ishikawa (Fisheries Extension) 2003.10.15-2005.10.14

(2) Short-term experts

Short-term experts were planned to be dispatched when necessary.

Total 9 experts (9 trips, 42 M/Ms) were dispatched as follows;

JFY 2001: 3 experts (communication methodologies, resource management, fisheries economics) total 15.3 M/Ms,

JFY 2002: 3 experts (systematization; repairing of outboard motor, audio-visual education) total 11.7 M/Ms

JFY 2003: 3 experts (communication methodologies, audio-visual education, quality of sea products) total 15M/Ms

(3) Training of counterparts in Japan

It was planned that 2 to 3 counterparts per year were invited to Japan for the training.

Total 5 counterparts were trained in Japan (2.39 M/Ms in total)

FY 2001: 1 counterpart (fisheries extension system) total 0.36 M/Ms,

JFY 2002: 2 counterparts (fisheries extension system) total 0.73M/Ms,

JFY 2003: 3 counterparts (extension techniques in maritime fisheries) total 1.3M/Ms

(4) Following equipment were provided as planned

JFY 2001 (2001.6-2002.3)

Amount (unit: 1000 Japanese yen): 11,290

Main items: 2 4-wheel drive vehicles, 4 computers and auxiliary equipment, 2 video-cameras, 1 TV monitor, 1 slide projector, audio equipment, etc

JFY 2002 (2002.4-2003.3)

Amount (unit: 1000 Japanese yen): 11,287

Main items: 2 mobile class trucks, 2 generators, 2 25hp outboard motors, 2 sets audio equipment, 6 cut models of outboard motor.

JFY 2003 (2003.6-2004.3)

Amount (unit: 1000 Japanese yen): 12,100

Main items: 2 mobile class trucks, 2 generators, 2 25hp outboard motors, 2 sets audio equipment, 1 color copying machine

Total amount is: Japanese yen 34,677,000

(5) Operating expenses

Following expenses were spent. (amount in 1,000 Japanese yen)

Japanese Fiscal Year	2001	2002	2003	Total
General expenses	6,326	7,000	7,655	20,981
Local adaptation cost	8,828	7,800	8,582	25,210
Total	15,154	14,800	16,237	46,191

B. Moroccan inputs

(1) Long-term counterparts

The following long-term counterparts were planned to be assigned.

- 1) Project Director
- 2) Project Manager
- 3) Co-manager of the Project
- 4) Counterparts from the Ministry of Fisheries (DFMPSP)
- 5) Counterparts from CQPM Larache
- 6) Counterparts from CPF

In addition to the above, 3 V/Cs (2 male and 1 female) each at 8 institute are agreed to be assigned.

The actual assignment made was as follows;

- 1) 4 Long-term counterparts from DFMPSP.
 - RHARBAOUI Mohamed (Director)
 - EL KOUHEN Ahmed (Division Manager)
 - BELRHAZI Azedine (In Charge of Cooperation Monitoring Service)
 - EL ASRI Abdellah (In Charge of Education Programs)
- 2) 4 Long-term counterparts from CQPM Larache
 - AZAOUI Abdellah (Director)
 - NATAQ Ahmed (Equipment Manager)
 - AMMI Abdelilah (Chief of Pedagogy)
 - EL ASSLAOUI El Arbi (Tchnician)
- 3) 23 V/Cs (3 V/Cs each at 7 institutes and 2 V/C at CQPM Dakhla) were appointed, out of which 7 (1 from each institute except CQPM Dhakla) were women.

(2) Short-term counterparts

Short-term counterparts were planned to be appointed when necessary.

Actual appointment was made as follows;

3 Short-term C/Ps were assigned for the baseline study in 2001.

- For developing the extension program and preparation of teaching materials, working teams were formed for each theme, each consists of Japanese experts and Moroccan counterparts, long-term and Short-term, total 8 to 10 staffs per working team. Actual number of Short-term counterparts assigned were as follows;
8 in 2002 (5 for fisherperson organization, 3 for repair of outboard motor)
8 in 2003 (3 for maritime security, 5 for quality and hygienic control)

(3) Land, Building and Facilities including offices for Japanese experts

One building, together with land and facilities within the campus of CQPM Larache for the project office was provided as planned.

(4) Operating expenses

- 1) Expenses for maintenance of building and cost for utilities (electricity and water) for the office were born by the Moroccan side.
- 2) Wages and salaries for the Moroccan staff (C/Ps and VCs) were born by the Moroccan side.
- 3) In 2003, 25% of traveling expenses was born by Moroccan side in 2004 50% will be born.

As the conclusion, the inputs from both Moroccan and Japanese sides were done appropriately as planned.

5-1-2. Accomplishment of the Activities

Activities have been done as follows;

(1) Baseline survey

During the year 2001, the baseline survey was made by the Japanese and Moroccan joint team to clarify the situation of artisanal fisherpersons and clarify needs and interests of them.

(2) Selection of extension themes.

Based on the results of the baseline survey, the following six themes were selected as the extension themes.

- 1) Organization of Fisheries Cooperative
 - 2) Maintenance of Outboard Engine
 - 3) Marine Safety
 - 4) Quality and Hygiene of Sea Products
 - 5) Fishing techniques
 - 6) Conservation of Fisheries Stock
- (3) Development of extension programs and implementation of training courses

Development of training courses and its execution were planned as follows and implemented as planned until year 2003.

Year	Basic Training	Thematic courses			Technique adaptation
		Development of themes	V/C Training	Mobile class	
2002	Basic1	theme1・2	theme1・2	theme1・2	---
2003	Basic2	theme3・4	theme3・4	theme3・4	theme1~2
2004	Basic③	theme5・6	theme5・6	theme5・6	theme1~4
2005	Basic④	theme⑦・⑧	theme⑦・⑧	theme⑦・⑧	theme1~6
2006	Evaluation				

※ Basic③④and、 theme⑦・⑧ will be done only by V/Cs

5-2. Analysis of five evaluation criteria (refer to the Evaluation Grid for details)

5-2-1.Relevance

(1) Relevance of Overall Goal

The Overall goal is consistent with the 5-year plan (1999-2003) of the Ministry of Fisheries of Morocco as well as with the needs of artisanal fisherpersons. This policy is expected to be continued in the next 5-year plan (2004-2005) which is already adopted.

(2) Relevance of the Project Purpose

The Project is well designed to meet the needs and interest of artisanal fisherpersons based on the findings of the baseline survey and to contribute to the achievement of the Overall Goal

(3) Consistency with Japan's ODA policy

1).Japan's Official Development Assistance Charter, approved by the cabinet on 29th August, 2003, put the poverty reduction on top of the priority issues.

2).The conference of the policy of economic cooperation between Morocco and Japan held in September 2000, confirmed the 6 priority fields. The first of those six priority fields is to promote the development of agriculture and fishery. The purpose of this project is consistent with this.

3) Japan's technology of fishery, as well as the extension system of it, are well established and suitable as the item of the technical cooperation with Morocco.

(4)Relevance of project design

Relationship among overall goal, project purpose, outputs, activities and inputs is designed appropriately in PDM.

(5)Selection of implementing agency

CQPM Larache was selected by MPM as the National Center of Maritime Extension. The selection was relevant.

(6)Relevance from the viewpoint of social justice.

The direct target of the project activities is 14 sites selected by V/Cs. But it can be expected that benefit could spread to all coastal area of Morocco.

(7) Consistency with other projects

Japan has been cooperating with Morocco in fishery field every year since 1979. This includes mainly grant aid cooperation which allowed the construction of CQPM of Larache as well as technical cooperation through the implementation of the Project related to the development of coastal fisheries and industry of fisheries in ISTPM Agadir and dispatch of Japanese experts to the Ministry of Fisheries. This Project is designed to strengthen synergies and results of such fruitful cooperation.

(8) Suitability of Japanese technology

Considering this ideal cooperation between Japan and Morocco and taking into account the leadership role played by Japan in the field of fisheries, mainly its developed experience and knowledge in the field of coastal and artisanal fishery, cooperation in the field of fishery extension is relevant.

Overall relevance:

The Overall Goal and the project purpose are consistent with the national development policy of Morocco and the ODA policy of Japan. It is also consistent with the needs of artisanal fisherpersons of Morocco. No overlap with other projects is seen. Relevance of the Project is kept very high.

5-2-2. Effectiveness

So far, outputs are achieved in accordance with the plan and all the outputs achieved are contributing effectively to the achievement of the project purpose. However, some of the outputs should be strengthened during 2004-2005 in order to achieve the expected effectiveness.

5-2-3. Efficiency

So far outputs 1, 2 and 3 have been achieved proportionally compared with amount of inputs and efficiency of implementation of the Project has been secured. However, achievement of outputs 4 and 5 depends on the activities during 2004 and 2005 and overall efficiency will be judged after analyzing the outcome achieved at the end of the Project.

5-2-4. Impact

Although there appears some preliminary signs that have positive impact, including the achievement of the overall goal of the Project can be obtained, it is premature to judge impact at this stage. No negative impact is observed yet.

5-2-5. Sustainability

(1) Institutional aspect

The base of extension system for artisanal fisherpersons with the CQPM Larache as the center is established and the Project VPA is already incorporated in the CNV. But the role (mandate and responsibility) the personnel and the budget of CNV need to be clarified more.

It is planned to train 66 extension staff and VCs will become the trainer for them. This is an activity which is necessary for the development of extension systems on national level.

(2) Financial aspect.

Moroccan side bore following expenses so far.

1) Moroccan side provided land, building and facilities for the Project and bore the expenses for the maintenance.

2) As the part of operating expense, it was agreed that the Moroccan side will bear portion of traveling expenses of C/Ps and V/Cs, 25% in 2003 and 50% in 2004. CQPM Larache was education, training and extension center. The budget for the extension activity is included in the operating budget.

(3) Technical aspect

With regards to the object of extension such as outboard motors, fisherpersons organization, etc., Moroccan side has already piled up the necessary technology. With regards to the technology of extension, theoretical knowledge will be obtained through the classroom training but it is necessary to carry on such classroom training through the organization of on-the-job training in order to improve skill and knowledge of extension staff.

(4) Maintenance of equipment.

The maintenance of provided equipment is well managed. However, some cases happened that the equipment is damaged by unstable electric voltage. The effort of self protection against such unfavorable outside condition is needed, for example install effective current breaker system.

Overall sustainability:

Although there are some facts which indicate that the Project is sustainable, it should be reinforced in order to make the framework of the extension system clear (system, organization, budget, personnel, etc.). It is necessary to use all sufficient resources to insure continuity and sustainability of the Project.

6 Conclusion and Recommendations

6-1. Conclusion

The Moroccan side and the Japanese side have agreed on the followings as the fundamental strategy of the Project. ;

- (1) The ultimate goal of the Project is not a mere establishment of extension system as a form, but the important matter is how the extension activities can contribute to the improvement of the socio-economic conditions of fisherpersons.
- (2) Therefore, it is essential that the counterparts, V/Cs and the Japanese experts should continue promoting contact and dialog with fisherpersons' groups for this purpose.

The Project has made progress generally in accordance with the plan (as described in PDM and PO) In 2001, the baseline survey was made and clarified the needs/interests of artisanal fisherpersons.

Based on the results of the baseline survey, 6 themes for extension were selected and decided to develop the extension programs for two themes each in the year 2002, 2003 and 2004 respectively and program for 4 themes were developed by now. Especially, the developing audiovisual materials which are considered as tools of extension for the illiterate fisherpersons. The teachers of the 8 fisheries training institutes were appointed as V/C step by step (totally, 23 V/C were appointed) and the training courses for the said V/Cs were conducted and various meetings among C/Ps and V/Cs with the participation of Japanese experts were also held. The actual extension activities with mobile class are also started. As the results, the ability of the C/P and V/C has been strengthened in accordance with the plan by the basic training and the training of six themes. In short, it can be said that the progress of the Project so far is satisfactory. This means that it is possible that the Project Purpose is achieved at the end of the Project period. However, in order to achieve the Purpose of the Project, it is necessary to take into consideration the importance of the activities to be executed in the later half of the project period. Such activities include;

- (1) related to 6 selected themes;
 - 1) Extension program for 4 themes are developed and development of two more themes is needed.
 - 2) Strengthening of 4 themes is required. V/Cs have been trained but activities related to these extension themes started only recently. In addition in order to level up skills and knowledge of V/Cs, more experience through the on-the-job training is needed. It is also necessary and beneficial to extend the area of extension activities.
 - 3) Extension programs for 4 themes were developed but improvement of content is needed through the feedback of the execution activities. Especially it is desired to improve the contents of the theme No.4 Quality and Hygiene of Sea Products.
- (2) Necessity to develop extension programs other than already selected 6 themes.

Contact and communication with fisherpersons through the extension activities revealed that there would be some other important themes. The socio-economic situation, as well as the natural environment surrounding artisanal fisherpersons are different by region. The Moroccan coast can roughly be classified in three regions, namely Mediterranean, Northern Atlantic and Southern Atlantic. Each region has their specific problems and needs for extension.
- (3) Activities of the Project are being progressed and dialogs with fisherpersons are started in the Project, Needs of regionally specific and detailed themes other than prepared six themes become apparent. So it became necessary to refine actual approaches treated as the requirements of the fisherpersons.

Now, interests in the project activities have been increased in target fisherperson's villages. And the Ministry of Fisheries is constructing the PDA and VDP in some seashore which promotes organization of fisherpersons.

This shows the involvement of the Ministry of Fisheries in strengthening in efficient way regional extension activities of the Project. And the actual extension activities are carried out by C/P, V/C, and Japanese experts. These will contribute to the achievement of some of the project activities until termination of the Project.

With the understanding of the situation as mentioned above, the Moroccan side submitted to the Japanese side the request as per the Annex 4. The Japanese side stated that the request of Morocco includes some item for which action can be taken as soon as possible but the other needs further investigation after their return to Japan.

6-2. Recommendations

1. Six extension themes

The activities for the six selected themes shall be continued with following recommendations in mind.

(1) Four themes developed in previous years.

Four extension themes were developed so far and extension activities have been started but only in limited regions. It is recommended to extend the activities to many numbers of execution and in wider area of many coastal regions of Morocco. It is also recommended to monitor the execution and through the feed back of the monitoring, the effort to review the contents of the extension program to make it more attractive and effective to the fisherpersons.

(2) Two themes to be developed in 2004.

The last two themes out of six selected, i.e. "Conservation of Fishery Stock" and "Fishing Techniques" will be developed and executed in 2004. At the development of these new themes, it is recommended to apply approaches in such manner that approaches which will not affect the livelihood of the artisanal fisherpersons on the one hand and that will be accepted by the regional fisherpersons community on the other hand.

2. Activation of the regional extension activities

In order to activate the regional extension activities, the followings are recommended.

(1) Providing man-power for the extension activities

1) The Moroccan side has assigned the agreed number of C/Ps and V/Cs. But many of them are engaged in the Project only on part-time basis. It is expected that the workload of C/Ps and V/Cs will increase and more number of full-time C/Ps including V/Cs will be required.

2) Dispatch of sufficient extension staff to cooperate with C/Ps and V/Cs

The Moroccan government policy to construct about twenty VDP and 66 PDAs requires the dispatch of sufficient extension staff in order to facilitate the work of V/Cs and achieve extension activities.

(2) Extension vehicles

The extension vehicles provided to the Project lead to interests of fisherperson through these activities. Smooth purchase and disposition of these vehicles are recommended.

(3) Women activities in Fisherperson's villages

There exist the differences of social and regional situations. So it is expected that issue of women activities (such as food processing, handicraft carpet making, capturing clam, etc) should be developed in relation to local customs.

3. Actual extension activities in the Project

The Project is planning to introduce the "Micro-Project" system. This is the small project related to the extension themes kept. It is identified, planned, and implemented by V/Cs with the participation of fisherperson groups and the support by the Japanese experts. V/Cs, with the collaboration of fisherperson groups, shall make the plan for such Micro Project and submit the proposal to the Project. Upon approval of the proposal by the committee in charge of the Mini-Projects selection, composed of the Japanese experts and Moroccan counterparts, the Mini Project will be implemented. Such plan is considered to be very effective for the achievement of the project purpose. It is strongly recommended to implement such Mini-Project.

4. Sustainability of the Project.

At the initial stage of the Project, the Moroccan side had born, mainly the cost for the project office, including land, building, furniture, utilities and its maintenance as well as the wages and salaries for C/Ps and V/Cs. But the operating expenses, such as traveling, etc. were generally born by the Japanese side. In 2003, the Moroccan side shared 25% of the traveling expenses and it is expected to increase to 50% in 2004. Considering the sustainability of the Project after the cooperation period, it is recommended to increase the Moroccan financial share bearing each year.

5. Follow up of baseline survey for regional extension activities

The analysis of the baseline survey is global therefore not enough to meet the needs and interests of fisherpersons in each region. Moreover, it is necessary and urgent matter to analyze the potential needs of each region considered by C/Ps and V/Cs in order to promote other extension activities and suggest appropriate solutions in the field of extension.

ANNEX 1. PDM

ANNEX 2. Achievement Grid

ANNEX 3. Evaluation Grid

ANNEX 4 Recommendation from the Moroccan side

ANNEX 1. Project Design Matrix (PDM): The Project for the Establishment of an Extension System for Artisanal Fisheries (Version-1)

Duration: June 1, 2001 ~ May 31, 2006

Beneficiaries: Artisanal Fishers

Implementation Agencies: MPM and JICA

Date of Preparation: January 29, 2002

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>[Overall Goal] To improve the socio-economic conditions of artisanal fishers along with conservation of marine resources.</p>	<p>1. Iron out regional differences of income by 2010. 2. Knowledge regarding conservation of marine resources will be extended by 2010 (for detailed list of indicators, see list A).</p>	<p>1. 5 year plan of the MPM 2. Activity report of extension program (marine resources) • Case study report of program of technique adaptation / promotion of women's activity that dealt with marine resources conservation. • V/C activity report</p>	<p>• Living environment of artisanal fisherperson will not drastically change. • Other efforts for the conservation of marine resources will be implemented by the MPM.</p>
<p>[Project Purpose] To develop and establish effective extension system.</p>	<p>1. Number of active group from the selected sites will increase (for detailed list of indicators, see list B) 2. Amount of budget planned and executed by the MPM will increase compared to 2001. 3. Extension activities implemented by the MPM themselves will increase compared to 2001.</p>	<p>1. Interviews to fisher persons • V/C activity report • Self-evaluation reports from fisherperson 2. Accounting report of the MPM 3. Extension activity plan prepared by the MPM.</p>	<p>• The MPM will establish their own extension system and regulations from the outcomes of the Project.</p>
<p>[Outputs] 1. Practices and situation of artisanal fisheries are understood. 2. Extension programs on relevant themes for fishers are developed. 3. Curriculum and teaching materials are developed and technical capacity of V/Cs is improved. 4. Extension activities are carried out effectively on selected sites. 5. Monitoring, evaluation and feedback mechanism is established.</p>	<p>1. Extension themes based upon the situation and needs of artisanal fisherperson are selected (for detailed list of indicators, see list C). 2. 6 themes of extension programs will be completed (for detailed list of indicators, see list D). 3-1. Training courses (themes and basic training) for V/Cs will be completed (for detailed list of indicators, see list E). 3-2. 3/4 of V/Cs will complete training course (basic and themes) by 2005. 4-1. 2/3 of V/Cs will be able to conduct effective mobile classes based upon the themes of extension program by 2004 (for detailed list of indicators, see list F). 4-2. Fisherperson in the selected sites will be aware of the contents of 6 themes of extension program by 2005 (for detailed list of indicators, see list G). 4-3. The capacity of V/Cs to plan, implement, M&E will be increased by 2006 (for detailed list of indicators, see list H). 4-4. Problem solving ability of fisherperson who participated in program of technique adaptation/promotion of women's activity will increase by 2006 (for detailed list of indicators, see list I). 5. Feedback mechanism will be established (for detailed list of indicators, see list J).</p>	<p>• Baseline survey reports. • Database of baseline survey. • Action plan (PO, APO) • V/C activity report • Interviews to fisher persons 2. Curriculum (for each themes) • Texts for V/Cs (for each themes) • Texts for fisherperson (for each themes) • Visual aids for mobile class (for each themes) 3-1. Curriculum • Evaluation from V/Cs after each training (themes and basic training) • Manual of basic training 3-2. Training record of the Project 4-1. V/C activity report • Field visits 4-2. V/C activity report • Evaluation from fisherperson after each extension program 4-3. Contents of the program of technique adaptation / promotion of women's activity • V/C activity report • Filed visits 4-4. Self-evaluation reports from fisherperson • V/C activity report</p>	<p>• V/C activity report</p>

<p>[Activities]</p> <p>1. Study the situation and problems on relevant extension themes (hygiene and quality of marine products, marine safety, gender and development, marine resource conservation, etc.).</p> <p>1-1. To implement baseline survey.</p> <p>1-2. To select Extension themes based upon needs of artisanal fisherperson.</p> <p>2. Development of extension programs for fisherpersons.</p> <p>2-1. To develop curriculum (for each themes).</p> <p>2-2. To develop texts for V/Os (for each themes).</p> <p>2-3. To develop texts for fisherperson (for each themes).</p> <p>2-4. To develop visual aids for mobile class (for each themes).</p> <p>3. Training of V/Cs.</p> <p>3-1. To conduct training course (for each themes).</p> <p>3-2-1. To develop curriculum for basic training.</p> <p>3-2-2. To develop texts for basic training.</p> <p>3-2-3. To conduct basic training.</p> <p>3-2-4. To develop extension manuals.</p> <p>4. Apply extension activities in selected sites.</p> <p>4-1. To select sites for each V/C.</p> <p>4-2. To implement mobile class (for each themes).</p> <p>4-3. To form group of fisherperson and plan program of technique adaptation/promotion of women's activity.</p> <p>4-4. To hold management trainings (leader, accountant, literacy courses).</p> <p>4-5. To implement study tours.</p> <p>4-6. To monitor group activity.</p> <p>4-7. To hold seminars of group activities by artisanal fisherperson.</p> <p>4-8. To evaluate the activity by artisanal fisherperson themselves and also by V/Os.</p> <p>5. Development of a monitoring, evaluation (M&E) and feedback mechanism for extension activities.</p> <p>5-1. To systematize the methodologies to M&E the activities of V/Os (V/C activity reports and regular meetings etc.).</p> <p>5-2. To M&E the extension activities (workshops of extension activities, publication etc.)</p> <p>5-3. Based upon result of 5-1-2., recommend an improvement plan for the extension and training programs.</p> <p>5-4. To reflect the evaluation results in the development of new program.</p> <p>5-5. To hold Extension System Establish Committee to examine extension system of Morocco.</p>	<p>of indicators, see list U).</p> <p>[Inputs]</p> <p>< Moroccan Side ></p> <p>1. Personnel</p> <p>(1) Long-term counterparts</p> <p>(1) Project Director</p> <p>(2) Project Manager</p> <p>(3) Co-manager of the Project</p> <p>(4) Counterparts from DFMPSP</p> <p>(5) Counterparts from CQPM Larache</p> <p>(6) C/Ps from CPF</p> <p>(2) Short-term counterparts</p> <p>Will be appointed when necessary</p> <p>(3) V/Cs (2male 1 female) x6 institutes=18</p> <p>2. Land, Building and Facilities</p> <p>All facilities of CQPM Larache including offices for Japanese experts</p> <p>3. Operational costs necessary for implementation</p>	<p>-Minutes of regular meeting</p> <p>-Minutes of Extension System Establish Committee</p> <p>< Japanese Side ></p> <p>1. Personnel</p> <p>(1) Long-term experts</p> <p>1) Chief Advisor</p> <p>2) Coordinator</p> <p>3) Fisheries Extension</p> <p>4) Fisherperson Education</p> <p>(2) Short-term experts</p> <p>Will be dispatched when necessary</p> <p>2. Counterpart Training</p> <p>2-3 person/year</p> <p>3. Equipment</p> <p>(1) Equipment for extension activities</p> <p>(2) Equipment for curriculum development activities</p> <p>(3) Equipment for training activities</p> <p>(4) Audiovisual equipments</p> <p>(5) Vehicle for Mobile Unit etc.</p> <p>4. Local cost expenditure</p>	<p>-Continuous supports from staff in the field (DPM, ONP and INRH) are available.</p> <p>-The Project will be accepted by the artisanal fisherperson in the sites V/Cs selected.</p> <p>[Pre-conditions]</p> <p>-Time, transportation, allowance for V/Cs are secured</p>
--	--	---	---

Evaluation Inquiry	Information/data required	Information Source and data collection methods	Findings	Evaluation*
Overall Achievement of Inputs			Inputs were made appropriately in general in accordance with the plan and utilized well for the project activities.	A
Japanese Inputs	Long-term experts, number, field of specialty, timing and period of dispatch 1) Chief Advisor 2) Coordinator 3) Fisheries Extension 4) Fisheriesperson Education	Project report, hearing from JE/CP	Total 5 LT experts in the 4 fields, as shown below, were dispatched as planned. [Total 113 Person-months during the period from June 2001 to March 2004] But the chief adviser was absent for about 12 months period. T. Fujita (Chief adviser) 2001.6.1-2002.2.18, 2003.3.1-2004.6.9 M. Heiton (Coordinator) 2001.6.1-2004.5.31 S. Yoshida (Fisheries Extension) 2001.9.5-2003.9.4 A. Heyashi (Fisheries Education) 2002.2.10-2004.2.9 A. Ishikawa (Fisheries Extension) 2003.10.15-2005.10.14	B
	Short-term experts, number, field of specialty, timing and period of dispatch Will be dispatched when necessary	Project report, hearing from JE/CP	JFY 2001 3 experts (communication methodologies, resource management, fisheries economics) total 15.3 PMs, JFY 2002 3 experts (systematization, repairing of outboard motor, audio-visual education) total 11.7 PMs JFY 2003 3 experts (communication methodologies, audio-visual education, quality of sea products) total 15 PMs Total 9 trips 42 PMs, as planned.	A
	Training of C/Ps, Number (2.3p.a.), period, timing, contents of training	Project report, hearing from JE/CP	JFY 2001 1 counterpart (fisheries extension system) total 0.36 PMs, JFY 2002 2 counterparts (fisheries extension system) total 0.73 PMs, JFY 2003 3 counterparts (extension techniques in maritime fisheries) total 1.30 PMs Total 5 counterparts, 2.39 PMs, as planned	A
	Provision of equipment, kind, number, specification and timing (1) Equipment for extension activities (2) Equipment for curriculum development activities (3) Equipment for training activities (4) Audiovisual equipments (5) Vehicle for Mobile Unit etc.	Project report, hearing from JE/CP	Following equipment were provided, (1) Equipment for extension activities (2) Equipment for curriculum development activities (3) Equipment for training activities (4) Audiovisual equipments (5) Vehicle for Mobile Unit etc. Amount spent for the provision of equipment as follows (1,000 Japanese yen) JFY2001 KY11,290, JFY2002 KY11,287, JFY2003 KY12,100 Total KY34,677 Vehicles for mobile class room are planned to be provided two units per year for 3 years. But, to confirm the utilization status of the previous year is the condition of provision for next year. The status for 2002 is already confirmed.	A
	Operation expenses	Project report, hearing from JE/CP	Operating expenses spent (Japanese yen 1,200) JFY2001 JFY2002 JFY2003 Total General Expenses 6,326 7,000 7,655 20,981 Local adaptation 8,828 7,800 8,582 25,210 Total 15,154 14,800 16,237 46,191	A

Evaluation Inquiry	Information/data required	Information Source and data collection methods	Findings	Evaluation*
Moroccan Inputs	(1) Long-term counterparts 1) Project Director 2) Project Manager 3) Co-manager of the Project 4) Counterparts from DFMPSP 5) Counterparts from CQPM Larache (2) 3 V/CS (2 male and 1 female) each at 6 institute	Project report, hearing from JE/CP	(1) Following 8 LT counterparts were assigned in accordance with the plan. -4 from DFMPSP RHARBAOUI Mohamed(Project Director), EL KOUHEN Ahmed(Project Manager), BELRHAZI Azedine, EL ASRI Abdellah -4 from CQPM Larache AZAOUI Abdelah(Project Co-manager), NATAO Ahmed, AMMI Abdellah, EL ASSLAOUI El Arbi (2) 23 V/CS (3 V/CS each at 7 institutes and 2 V/CS at CQPM Dhakla) were appointed, out of which 7 are women.	A
	(2) Short-term counterparts Will be appointed when necessary	Project report, hearing from JE/CP	-3 ST C/Es were assigned for the baseline study in 2001 -For developing the extension program and preparation of teaching materials, working teams were formed for each theme, each consists of both JE and Moroccan counterparts. LT and ST, total 8 to 10 staffs per working team. Short-term counterparts assigned for this purpose are: 8 in 2002 (5 for fisherman organization, 3 for outboard motor repair) and 8 in 2003 (3 for maritime security, 4 for quality and hygienic control)	A
	Land, Building and Facilities All facilities of CQPM Larache including offices for Japanese experts	Project report, hearing from JE/CP	Project office with necessary furniture was provided as planned at CQPM Larache.	A
	Operational costs necessary for implementation	Project report, hearing from JE/CP	1. Utilities (water and electricity) and maintenance for the project office were born by Moroccan side 2. Wages and salaries for Moroccan staff were paid 3. In 2003, 25% of traveling expenses was born. In 2004, PAV at CQPM Larache will become CNV, an autonomous institute and increase of budget for the project is expected, including uprating the Moroccan ratio of traveling expense to 50%	B
Evaluation for inputs is done by the following criteria A: Done appropriately (necessary and sufficient) B: Not appropriate in some points but damage to the project is little C: Not appropriate and could damage the project, but likely to be recovered in due course D: Not appropriate (too little, too much, too small, too big etc.) and could damage the project unless some drastic countermeasure is taken.				

Achievement Grid(2)

ANNEX 2

Achievement of items other than inputs

Information/data required	Information Source and data collection methods	Findings	Evaluation*
Achievement of Outputs	Definition Achievement Level A to D of indicators is in accordance with the "Detailed List of Indicators (Version 1)", attached to "the Minutes of Meetings" between Management Consultation Team, JICA and Department of Maritime Training and Professional Promotion, Ministry of Fisheries of Kingdom of Morocco.		
Achievement of Output 1. "Practices and situation of artisanal fisheries are understood"	<ul style="list-style-type: none"> Extension themes based upon the situation and needs of artisanal fisherperson are selected (for detailed list of indicators, see list C). Baseline survey reports. Database of baseline survey. Action plan (PO/APO) V/C activity report Interviews to fisher persons 	In 2001, the baseline survey was made by the team of 3 Japanese ST experts and 5 Moroccan ST counterparts and the baseline survey report and the database of the baseline survey were completed by the early 2002. Based on the survey, six themes were selected. However, some additional analysis of data base will be necessary for the practical activities in the regional extension.	B
Achievement of Output 2. Extension programs on relevant themes for fisherpersons are developed	<ul style="list-style-type: none"> Curriculum (for each themes) Texts for V/Cs (for each themes) Texts for fisherperson (for each themes) Visual aids for mobile class (for each themes) 	It is planned to implement two themes of extension programmed each year. The followings are developed and produced: Program: themes 1, 2, 3, 4 Guidebook for V/C: themes 1, 2, 3, 4 and sub-guidebook for theme 1 Textbook for fisherperson: themes 1, 2, 3 Video materials for themes 1 and 2.	B
Achievement of Output 3. Curriculum and teaching materials are developed and technical capacity of V/Cs is improved.	<ul style="list-style-type: none"> 3-1. Training courses (themes and basic training) for V/Cs will be completed (for detailed list of indicators, see list E). 3-2. 3/4 of V/Cs will complete training course (basic and themes) by 2005 	5 basic courses and 2 thematic courses have been implemented. Curriculum and training materials for each course are prepared before each training course. Following training courses were held: Basic: 1st October 2002. 20 V/Cs (90%) participated. 2nd January 2003. 21 V/Cs (95%). 3rd March 2003. 21 V/Cs (95%). Thematic: 1st March 2003 21 V/Cs (95%), 2nd May 2003 13 V/Cs (82%) Attained Level B as planned	B
Achievement of Output 4. Extension activities are carried out effectively on selected sites	<ul style="list-style-type: none"> 4-1. 2/3 of V/Cs will be able to conduct effective mobile classes based upon the themes of extension program by 2004. Baseline: Level zero in 2002. Target line: Level B by 2004, Level A by 2005. 4-2. Fisherperson in the selected sites will be aware of the contents of 6 themes of extension program by 2005. Baseline: Level C in 2002. Target line: Level B by 2003, Level A by 2004. 4-3. The capacity of V/Cs to plan, implement, M&E will be increased by 2006. Baseline: Level zero in 2002. Target line: Level D by 2003, Level C by 2004, Level B by 2006. 4-4. Self-evaluation reports from fisherperson -V/C activity report Baseline: Level zero in 2002. Target line: Level D by 2003, Level C by 2004, Level B by 2005 	<ul style="list-style-type: none"> 14 sites were selected. mobile classes for 2 themes were started from 2002. Achieved Level B in 2003, as planned. The continuous dialogue with fisherpersons is essential for the Project. <p>Although some facts that fisherpersons are aware of some of the contents of 6 themes, the extension activities at the field has only been started recently. The achievement of this indicator relies on the activities of 2004 and 2005.</p> <p>Activities for this indicator, namely field experience of vulgarization is planned to be implemented in 2004 and 2005. So, it is out of scope of evaluation at this time. However, Micro project in some selected areas will be effective for OJT training of V/Cs and fisherpersons.</p> <p>Activities for this indicator, namely field experience of vulgarization is planned to be implemented in 2004 and 2006. So, it is out of scope of evaluation at this time.</p>	B

* Progress is evaluated with following marks:

A: Ahead of the plan B: almost as planned C: behind the plan but will be recovered by the end of project term D: Progress is far behind the plan and the review of the plan is needed.

Achievement Grid(2)

ANNEX2.
Achievement of items other than inputs

Evaluation Inquiry	Information/data required	Information Source and data collection methods	Findings	Evaluation*
	Overall achievement of Output 4		Evident progress is observed for the indicator 4-1, but the activities for other indicators are scheduled to be executed in 2004-2005. So, it is premature to judge the achievement of Output 4.	B
Achievement of Output 5. Monitoring, evaluation and feedback mechanism is established	5. Feedback mechanism will be established. Baseline: Level C in 2002. Target line: Level B by 2004, Level A by 2006.	·VIC activity report	Regular meeting and reporting system is established. It can be said that the monitoring, evaluation and feedback system is established, in other words, target level of C is attained. However the level of reporting by VCs is low and necessary to be strengthened.	B
Situation of Important assumptions	· Continuous supports from staff in the field (DPM, ONP and INRH) are available? · The Project will be accepted by the artisanal fisherperson in the sites VCs selected? · Vehicles for mobile classes are provided on schedule?	Project report, hearing from JE/CP Project report, hearing from JE/CP	Some cooperation, e.g. for training courses for VCs, baseline survey, etc., was obtained, but not enough to such level as "Continuous supports from staff in the field". The Project was not accepted yet at such level as desired as the extension activities were just started. But neither the negative reaction was observed.	B
Factors influenced the achievement of outputs	hampering factors Facilitating factors	Project report, hearing from JE/CP Project report, hearing from JE/CP	Vehicles (essential for extension activities) are delivered to 2 items (Safi and Tantan). It is planned to provide two vehicles in 2003 and 2004 after confirming the utilization status of previously supplied vehicles. It is already confirmed that the System for recording, information collection and management in extension is not well established. Status and qualification of extension staff is not clear. Budget for extension activity in future is not clear.	B
Overall Achievement of Outputs		Project report, hearing from JE/CP	Participation of 3 Japanese ST experts and 5 Moroccan ST counterparts for baseline survey. Understanding for "activity at point to activity at area" and necessity of training extension staff Achievement for outputs 1, 2 and 3 shows progress generally in accordance with the planned target and likely to attain the target before the end of the project period. Major activities related to the outputs 4 and 5 are scheduled to be executed during the years 2004 and 2005. It is expected that all the outputs will be achieved by the end of the project with the effort in coming years.	A
Achievement of [Project Purpose] To develop and establish effective extension system.	1. Number of active group from the selected sites will increase (for detailed list of indicators, see list B) 2. Amount of budget planned and executed by the MPM will increase compared to 2001. 3. Extension activities implemented by the MPM themselves will increase compared to 2001.	· Interviews to fisher persons · VIC activity report · Self-evaluation reports from fisherperson · Accounting report of the MPM · Extension activity plan prepared by the MPM.	Major effort in the first half of the project period is made to establish base for the extension activities, such as baseline survey, selection of themes of extension, preparation of curriculum and training materials and execution of classroom training. T MPM budget for the fishing extension has been steadily increased. The evaluation team could not find the increase of the budget, but as the expectation of the Moroccan Government for this project is significant, it is hoped that enough budget will be allocated for future activities. Extension activities implemented by the MPM themselves have been increased in such fields as alphabetization, maritime security, creation of cooperatives, etc.	B
	Overall achievement of Project purpose		The project has achieved so far the establishment of the base of the project, namely baseline survey, selection of extension themes, preparation of training materials of selected extension themes etc. This suggests that the project purpose is possible to be achieved by the target year of 2006. However, in order to achieve the project purpose, it is not enough that VCs obtain theoretical knowledge. Practical knowledge through the on-the-job training (OJT). The activities related to such important outputs for achievement of the project purpose are scheduled to be executed in the years 2004 and 2005. Whether the project purpose will be achieved or not depends a lot on the activities in 2004 and 2005 and continuous effort by all the related persons and organizations is required.	A
				B

* Progress is evaluated with following marks:

A.: Ahead of the plan. B.: almost as planned. C.: behind the plan but will be recovered by the end of project term. D.: Progress is far behind the plan and the review of the plan is needed.

Achievement Grid(2)

ANNEX2
Achievement of items other than inputs

Evaluation Inquiry	Information/data required	Information Source and data collection methods	Findings	Evaluation*
Factors influenced the achievement of the project purpose.	Facilitating factors	Project report, hearing from JE/CP	The Project activities so far was mainly for the establishment of the base of extension activities. Now, the actual extension activities were just started and neither facilitating nor hampering factors have not seen yet. With the effort to achieve the remaining outputs, the project purpose will also be achieved.	B
The achievement of [Overall Goal] To improve the socio-economic conditions of artisanal fisherpersons along with conservation of marine resources.	1. Iron out regional differences of income by 2010. 2. Knowledge regarding conservation of marine resources will be extended by 2010 (for detailed list of indicators, see list A).	1. 5 year plan of the MPM2. - Activity report of extension program (marine resources) - Case study report of program of technique adaptation /promotion of women's activity that dealt with marine resources conservation. - V/C activity report	The interpretation of the Overall Goal by the Project is to make artisanal fishery sustainable. In other words it is "to improve income level of artisanal fisherperson" and "to make artisanal fishery sustainable" rather than "iron out the regional difference". Things are moving toward the target, but such things take long time. It is too early to judge when can be reached.	B
Situation of Important assumptions	- Living environment of artisanal fisherperson will not drastically change.	Project report, hearing from JE/CP, fisherpersons	Some changes are observed but not so much as effecting the attainability of Overall goal.	B
Factors influenced the achievement of the project purpose.	- Other efforts for the conservation of marine resources will be implemented by the MPM. Facilitating factors Hampering factors	Project report, hearing from JE/CP, fisherpersons Project report, hearing from JE/CP	MPM plans to construct 66 PDA. Extension activities for artisanal fishery is to be covered by extension network at 66 PDA and 19 regional offices of the central government. According to the results of baseline survey, fisherperson are worried about the decrease of marine resources. Although no scientific data is available to verify such worry, if the marine resources actually reduce drastically it could become the hampering	A
Pre-conditions	- Are time, transportation, allowance for V/Cs are secured.	Project report, hearing from JE/CP	Regular meeting and reporting system is established.	C

* Progress is evaluated with following marks:
A: Ahead of the plan. B: almost as planned. C: behind the plan but will be recovered by the end of project term. D: Progress is far behind the plan and the review of the plan is needed.

Evaluation	Evaluation inquiry	Required data or information	Information source	Method	Findings	Evaluation
Relevance	Relevance of Overall goal	1. Is the Overall Goal consistent with the government policy of Morocco	National development Plan	Data review, interview with MPM	Consistent with the 5-year development plan (1999-2003) of the Ministry of Fisheries, which stress the importance of extension systems to artisanal fisherpersons. The development plan for coming five years (2004-2008) is expected to keep same policy. The Overall Goal is consistent with the government policy of Morocco.	A
		2. Is the Project Purpose consistent with the needs/interest of artisanal fisherperson?		Data review, interview with MPM, CP, fisherperson	The baseline survey made in the first year examined the needs of fisherperson. Based on the results of the said survey, the Plan of operation was made. The Project is consistent with the needs of the artisanal fisherpersons.	A
	Relevance of Overall goal	1. Does the project purpose contribute to the achievement of the overall goal? 2. Is the Project Purpose consistent with the needs/interest of artisanal fisherperson? 3. Is the Project Purpose consistent with the needs/interest of CQPM Larache and DFMPSP?			Project purpose is "to develop and establish effective extension system." The themes for extension are selected to contribute to the overall goal. The project is designed to meet the needs/interest of artisanal fisherperson based on the findings of the baseline survey.	A
	Are Project Purpose and Overall Goal consistent with ODA policy of Japan?	*Are there any change of policy of Japanese Government or JICA headquarters which caused influence on the direction of the Project after it started?	JICA	Data review	DFMPSP is the department of the Ministry of Fishery, responsible for extension. The division of CQPM Larache responsible for this project is now reorganised as the National Center for Extension. The Project Purpose is consistent with the needs/interest of CQPM Larache and DFMPSP. 1. Japan's Official Development Assistance Charter, approved by the cabinet on 29th August, 2003, put the poverty reduction on top of the priority issues. 2. The conference of the policy of economic cooperation between Morocco and Japan held in September 2000, confirmed the 6 priority fields. The first of those six priority fields is to promote the development of agriculture and fishery. The purpose of this Project is consistent with this. 3. Japan's technology of fishery, as well as the extension system of it, are well established and suitable as the item of the technical cooperation with Morocco.	A
	Relevance of Project design	Are relationship among overall goal, projectpurpose, outputs, activities and inputs designed in PDM appropriate?			Relationship among overall goal, projectpurpose, outputs, activities and inputs designed by PDM is appropriate in general. However, there are several points, where the meaning is not clear and might be understood different way by different reader. In case such occurs, collective understanding should be made and recorded in certain documents.	B
	Selection of implementing agency	Is CQPM Larache appropriate to implement this project?			The division of CQPM Larache responsible for this project is now reorganised as the National Center for Extension. Selection was made appropriately.	A
	Relevance from the viewpoint of social justice.	- Is benefit of the outcomes and bearing of the cost fairly distributed? - Is the benefit likely to be diffused widely to those who are not direct target of the project?	MPM, CP, JE	hearing	The direct target of the Project activities is 14 sites selected by V/Cs. But it can be expected that benefit could spread to all over Morocco through the establishment of extension systems by the Project.	A
	Consistency with other projects	- Relation with other projects implemented in Morocco by Japan, other donors or by Morocco (Conflict, overlap, supplementary synergy etc.)	MPM, CP, JE	hearing	Japan has been cooperating with Morocco in fishery field every year since 1979. This include grant aid cooperation for the construction of CQPM Larache, technical cooperation with ISTPM Agadir and dispatch of expert to the Ministry of Fishery. This Project is designed to utilize the result of such other cooperation and to increase the effect of them.	A
	Suitability of Japanese technology	Is Japanese technology suitable for Moroccan situation?	MPM, CP, JE	hearing	Japan has been cooperating with Morocco in fishery field every year since 1979 and understand fishery situation of each other. Japan is dominant among the world in coastal and artisanal fishery as well as fishery extension.	A
	Evaluation: The Overall Goal and the Project Purpose are consistent with the national development policy of Morocco and the ODA policy of Japan. It also consistent with the needs of artisanal fisherperson of Morocco. No collision with other project is seen but on the other hands, some synergy effect can be expected. Relevance of the Project is kept very high.					A

*Evaluation is made with following marks:
A: very positive. B: positive. C: neutral. D: negative. E: very negative

Evaluation Grid

ANNEX 3.
Evaluation by 5 criteria

Evaluation	Evaluation Inquiry	Required data or information	Information source	method	Findings	Evaluation
Effectiveness	Achievement of Project Purpose	To what extent has the project purpose been, or will be, achieved?	MPM, CP, JE	Data review, hearing	Level of extension will surely be improved but it is not certain whether the extension system will become as effective as planned, because the activities related to some important outputs, output 4 and output 5, are planned to be executed in the year 2004 and 2005. The achievement of the project purpose depends largely on the project activities from now on.	B
	Contribution by project outputs	To what extent have the outputs been, or will be, achieved?	MPM, CP, JE		Activities for Outputs 1, 2 and 3 have been progressed in accordance with the plan and those outputs are likely to be achieved during the project period. Major activities for outputs 4 and 5 are scheduled to be executed during 2004 and 2005 and it is expected to be achieved through the activities planned for 2004 and 2005, such as mobile classroom and mini-projects.	B
	Outside factors	To what extent has outputs contributed to the achievement of the project purpose?	MPM, CP, JE		Until now, major activities were done for the establishment of the base of extension system, such as baseline survey, selection of extension themes, preparation of training program for selected themes and classroom training. The important outputs related to the achievement of the Project purpose are planned to be obtained in 2004 and 2005, through the activities such as execution of extension work by the mobile classroom or mini-projects. It is expected that the effectiveness of the Project will be high but the final results depend much on the future activities.	B
		Is the MPM going to establish their own extension system and regulations from the outcomes of the Project?	MPM, CP, JE		MPM is going to establish their own extension system with followings: (1) To reorganize the division of CQPM Larache responsible for this project into "National Center of Extension"(CNV). (2) To train 66 extension staff at CNV and assign them around all coast of Morocco.	B
		What factors, other than the outputs of the project, has contributed or will contribute the achievement of the project purpose?	MPM, CP, JE		The project was awarded the prizes, namely the merit of 2003 by FAO and the prize of Hassan II Environment. Also UNESCO prize was given to CQPM alphabetization course. Those honor caused made favourable atmosphere to the project among Moroccan government.	A
		What factors (inside and outside of the project) has hampered or will hamper the achievement of the project purpose?	MPM, CP, JE		The facts such as (1) the buyer control of sales and price of fish, (2) issue of migrant fishermen (3) conflict between coastal and artisanal fishermen could become the hampering factors. (1) and (2) could be solved by creation of fishermen's groups/organizations. The further study to countermeasure (3) is needed.	B
		Evaluation: The major activities of the project has so far been to establish the base of extension system. The important activities related to achieve outputs directly connected with the project purpose is planned to be executed in 2004 and 2005. All the outputs are designed to contribute the achievement of the project purpose and the effectiveness of the project depends much on the activities in 2004 and 2005.				B

*Evaluation is made with following marks:
A: very positive. B: positive. C: neutral. D: negative. E: very negative

Evaluation	Evaluation inquiry	Required data or information	Information source	method	Findings	Evaluation	
Efficiency	Appropriateness of inputs						
	Japanese inputs	LT experts	C/P, J/E	hearing	Long-term experts were dispatched appropriately almost as planned. The facts such as absence of chief advisor for about 12 months and language(french) problem of some experts have given negative effect to the project activity but the efforts made by related persons(Japanese experts and Moroccan counterparts) and organization restored the damage and the efficiency of the project was secured.	B	
		ST experts: number	C/P, J/E	hearing	Short-term experts were dispatched appropriately as planned. However, in order to obtain maximum results of ST experts, more exchange of views is necessary.	B	
		Training of C/P in Japan	C/P, J/E	hearing	Counterpart training in Japan has been very effective to give key-persons of the Ministry of Fishery and CQPM Larache better understanding of the project. Training in Japan was done for counterparts only so far, but it will be done for V/CS also from now on.	A	
		Provision of equipment: kind of equipment	C/P, J/E	hearing	Equipment was provided appropriately as planned and well utilised for project activities, especially vehicles for mobile classroom are essential for the extension activities.	B	
		Operating expenses: amount	C/P, J/E	hearing	Operating expenses were disbursed appropriately. Expenses for mini-projects will be added in future.	B	
		Moroccan inputs	LT counterpart	C/P, J/E	hearing	The number of the long-term counterparts assigned was just as planned. However, most of them are part time, having other jobs as the teacher of the institute, etc. This means their workload was very high. From now on, the workload is expected to be increased and more full time counterparts will be desired.	B
			ST counterpart : number	C/P, J/E	hearing	Short-term counterparts were assigned appropriately as planned and were very effective in baseline survey and preparation of training materials.	B
			Land, building and facilities	C/P, J/E	hearing	generally appropriate	B
			Operating expenses	C/P, J/E	hearing	25% of travelling expenses of C/Ps and V/CS were born by Moroccan side in 2003. Considering the sustainability after the project period, enough allocation of budget is desired for future activities, for example 50% of travelling expenses in 2004..	C
		Degree of outputs achieved	-Are outputs achieved as planned? -Are outputs reasonable compared with amount of inputs?	C/P, J/E	hearing	So far, reasonable outputs (outputs 1, 2 and 3) have been achieved as planned. So it can be said that the efficiency of the project activities is secured. However, the important activities related to output 4 and output 5 are left for execution in 2004 and 2005 and total efficiency depends lot on the activities of the later half.	B
		Ownership of Moroccan side	Consciousness of "our project"			The Ministry of Fishery is very sincere to establish extension system for artisanal fisherpersons. The Counterparts are very devoted to work with the Project. The ownership of the Moroccan side has been very high.	A
		Efficiency of supporting system	Has JCC functioned well? Has Supporting committee in Japan functioned well?			It was useful to get better understandings of the project by various related organizations. In future, higher ranked officers with the decision making power of organization is desired to be involved/participated.. Functioned effectively.	B
			Evaluation: So far outputs 1, 2 and 3 have been achieved, reasonable compared with amount of inputs. It has been efficient However, achievement of outputs 4 and 5 depends on the activities during 2004 and 2005.				B

Evaluation Grid

ANNEX 3.
Evaluation by 5 criteria

Evaluation criteria	Evaluation inquiry	Required data or information	Information source	method	Findings	Evaluation
Impacts	Achievement of overall goal	Is the socio-economic conditions of artisanal fisherpersons likely to improve? Have extension activities influenced to conservation of marineresources?	MPM, CP, JE, fisherperson	hearing	The project is at the stage of establishing the base of extension system. In order to see the contribution to the Overall Goal, it is necessary to wait the result of extension activity based on the specific local conditions. It is sure that the things are moving towards the direction aimed but it is too early to judge when and how the overall goal will be achieved.	-
	Influence to the policy of MPM	Are there any influence on policy, organization, budget, system, laws, etc. of MPM?	MPM, CP, JE, fisherperson	hearing	MPM is going to establish their own extension system with followings: (1) To reorganize the division of CQPM Larache responsible for this project into "National Center of Extension"(CNV). (2) To train 66 extension staff at CNV and assign them around all, with further promotion of construction of PDAs.	A
	Influence to the fisherperson	Are there any influence to the life, attitude etc. of fisherperson?	MPM, CP, JE, fisherperson	hearing	Fisherpersons interest in the mobile classroom is very high. However the extension activities are just started and it is too early to find visible change yet..	B
	Impact on the global issues.	to issue of poverty reduction to issue of gender equality and women empowerment	MPM, CP, JE, fisherperson	hearing	The project aims for the improvement of income of artisanal fisherpersons that is the poverty reduction itself. As regards to the issue of gender, the project keep it always in mind but at the hurdle is still high at this stage..	C
	Other impacts	Are there any other influence, positive or negative, likely to appear?	MPM, CP, JE, fisherperson	hearing	Other Ministries, for example the Ministry of Health showed interest on the mobile classroom system introduced by the project and studying the possibility of introducing it for their activities.	B
Evaluation: Although some good impacts are started to appear, it is too early to observe any impact yet. No negative impact is observed yet.						
Sustainability	Institutional aspect	<ul style="list-style-type: none"> Importance of environmental issues in National Development Plan Role of CNV and demarkation with other organization in the national policy of Fisheries extension. 	Hearing at the related authorities, JE	project report, hearing	The base of extension system for artisanal fisherpersons with the CQPM Larache as the center is established and VPA is reorganized as CNV. But the role (mandate and responsibility) the personnel and the budget of CNV is not clearly shown yet. In order to secure the sustainability, these must be clearly confirmed. It is also necessary to increase the full time counterparts. It is planned to train 66 extension staff and VCs will become the trainer for them. This is a part of develop extension systems on national level.	C
	Financial aspect	<ul style="list-style-type: none"> proper placing of personnels C/Ps remain in Fisheries extension budget, financial back-up system of decision making in future plan 	Hearing at the related authorities, JE	project report, hearing	Moroccan side bore following expenses so far. (1) provided land, building and facilities for the project and bore the expenses for the maintenance. (2) As the part of operating expense, it was agreed that the Moroccan side will bear portion of traveling expenses of C/Ps and VCs, 20% in 2003 and 50% in 2004. CQPM Larache was originally education and training center, not extension center, and had no specific budget for extension activities. But it is decided that from the year 2004, they will allocate certain amount of budget for extension activities. This shows that the Moroccan side is eager to establish the extension systems but it is not clear whether sufficient budget will be allocated in future or not. It will much depend on the outcome of the Project.	B
	Technical aspect	<ul style="list-style-type: none"> Will technology transfer be necessary for activities completed during the project period? 	Hearing at the related authorities, JE	project report, hearing	With regards to the object of extension such as outboard motors, fisherpersons organization, etc., Moroccan side have already piled up the necessary technology. With regards to the technology of extension, theory will be understood by Moroccan side through the classroom training but it is necessary to improve skill and knowledge by on-the-job training.	B
Maintenance and operation of equipment	<ul style="list-style-type: none"> Is equipment maintained properly? Are necessary spare parts and consumables for activities, obtainable without much delay? 	Hearing at CNV, JE	project report, hearing	The maintenance of provided equipment is well managed. However, some cases happened that the equipment is damaged by unstableness of electric voltage. The effort of self protection against such unfavorable outside condition is needed, for example install effective current breaker system.	B	
Evaluation: Although there are some facts which indicate that the project is sustainable, it is still very weak as the frame of extension of fishery technology (system, organization, budget, personnel, etc.) is not clear yet. The effort to strengthen the sustainability is needed.						

*Evaluation is made with following marks:
A: very positive, B: positive, C: neutral, D: negative, E: very negative

ANNEXE 4

Recommendations of the Moroccan Side

1. To equip a workshop for printing works and for the development and production of extension texts and manuals
2. To activate the provision of 2 mobile class vehicles in the year 2003 and additional audio-visual equipment (PC and Data show) and plan for the acquisition of 2 other vehicles in the year 2004
3. To provide training in Japan for Moroccan counterparts and V/Cs
4. To extend the dispatch period of short term experts and prepare a detailed schedule in advance with collaboration of Moroccan side
5. To allocate a specific budget to finance micro-projects proposed by V/Cs on the basis of the requirements of fisherpersons in the concerned sites+
6. To examine the possibility to extend the project period in order to reinforce Moroccan experience in the field of artisanal fisheries extension and make countries of the African region benefit from it through tripartite cooperation Morocco-Japan-African countries
7. To establish a welcoming and residential centre in the extension national centre of Larache necessary for the accommodation of African trainees

